

(様式4)

一般社団法人 薬学教育評価機構

(調 書)

薬学教育評価 基礎資料

(平成24年5月1日現在)

岡山大学薬学部

「基礎資料」作成上の注意事項

- 1 記述の対象となる年度が提示されていない場合は、自己点検・評価対象年度の5月1日現在の数値を記述してください。平成25年度評価対象大学の場合は、自己点検・評価対象年度の平成24年5月1日となります。
- 2 記述に際し、各シートの[注]を確認し、作成してください。
- 3 各シートの表中の表記例は、消去して作成してください。また、各シートに付されている[注]は消去しないでください。
- 4 各表に記入する数値について小数点以下の端数が出る場合、特に指示のない限り小数点以下第2位を四捨五入して小数点第1位まで表示してください。
- 5 説明を付す必要があると思われるものについては、備考欄に記述するか、欄外に大学独自の注をつけて説明を記してください。
- 6 提出形態について
 - ・基本的にA4判で作成してください。
 - ・表紙および目次を作成し、全体に通しページを付してください。
 - ・両面印刷して加除が可能な体裁でファイル綴じにした印刷物を提出してください。
 - ・カラー表記のあるページは、カラーで印刷してください。
 - ・PDFファイルに変換したデータを自己点検・評価書と同じCD-Rに保存してください。

薬学教育評価 基礎資料

(目次)

	資料概要	ページ
基礎資料 1	学年別授業科目	1
基礎資料 2	在籍学生数・休学退学者数・学士課程修了状況	22
基礎資料 3	薬学教育モデル・コアカリキュラム等のSBOsに該当する科目	25
基礎資料 4	カリキュラムマップ	53
基礎資料 5	語学教育の要素	55
基礎資料 6	4年次の実務実習事前学習スケジュール	56
基礎資料 7	学生受入状況について	70
基礎資料 8	教員・事務職員数	71
基礎資料 9	専任教員年齢構成	72
基礎資料10	専任教員の担当授業科目および時間数	73
基礎資料11	卒業研究の配属状況	86
基礎資料12	講義室等の数と面積	87
基礎資料13	学生閲覧室等の規模	88
基礎資料14	図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況	89
基礎資料15	専任教員の教育・研究業績	90

(基礎資料1) 学年別授業科目の説明

(1) 学年別授業科目(基礎資料1-1)～(基礎資料1-6)の説明

本薬学科では平成18年度に定めたカリキュラムを改訂し、平成24年度新入生から新しいカリキュラムで教育を行っている。前者のカリキュラムを旧カリキュラム、後者のカリキュラムを新カリキュラムとよんでいる。その為、平成24年度は、1年生は新カリキュラムで、2～6年生は旧カリキュラムで教育を行っている。

そこで(基礎資料1-1)～(基礎資料1-6)は次の3種類を作成した。

①: 旧カリキュラムでの学年別科目表。2頁～7頁

平成23年度には1年生～6年生まで旧カリキュラムで教育をおこなっていたので、これらの頁に旧カリキュラムでの1年生～6年生の学年別科目表を記載した。

②: 新カリキュラムでの学年別科目表。8頁～13頁

平成29年度には1年生～6年生まで新カリキュラムで教育をおこなうので、これらの頁に新カリキュラムでの1年生～6年生の学年別科目表を記載した。

③: 平成24年度の学年別科目表。14頁～19頁

平成24年度には、1年生は新カリキュラムで、2～6年生は旧カリキュラムで、教育を行っている。これらの頁には、平成24年度の1年生～6年生の学年別科目表を記載した。

(2) 学年別授業科目(基礎資料1-7)の説明

(1)で述べたように現在(平成24年)本学科は、旧カリキュラムと新カリキュラムとによる教育を行っている。そこで、20頁には旧カリキュラムでの(基礎資料1-7)を、21頁には新カリキュラムでの(基礎資料1-7)を記載した。

[注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。

2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。

5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。

6 行は適宜加除し、記入してください。

※ (基礎資料1-1)から(基礎資料1-6)まで同じ様式で作成

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

授業方法
講義: コ
PBL/SGD: S
自習: ジ
オムニバス: オ
その他: タ

(基礎資料 1-1) 学年別授業科目 平成23年度【旧カリキュラム】

	1 年 次						
	科目名	前期・後期	人数/クラス	履修者数	授業方法		単位数
教養教育・語学教育	薬学ガイダンス	前期	40	41	コ・オ		2
	英語（薬学部1）	後期	40	41	コ・タ		2
	英語（ネイティブ）				コ・タ		2
	(択)外国語（英語）				コ・タ		2
	(択)外国語（その他）				コ・タ		4
	(択)教養科目				コ・タ		6
	教養科目、外国語科目[英語（薬学部1）を除く]は全学での開講科目であるので、多くの科目が開講されており、受講生も分散している。科目ごとの記載は多岐にわたり困難であるので、科目ごとの記述は省略した。（参考資料：添付資料2「学生便覧」、5「シラバス」）						
薬学専門教育	(択)物理化学	前期	40	42	コ		2
	(択)有機化学Ⅰ	前期	40	42	コ		2
	(択)生物化学Ⅰ	前期	40	42	コ		2
	(択)無機薬化学	前期	40	41	コ		1
	(択)薬用植物学	前期	40	41	コ		2
	(択)生理学	後期	40	42	コ		2
	(択)生物化学Ⅱ	後期	40	42	コ		2
	(択)薬品物理化学Ⅰ	後期	40	45	コ		2
	(択)有機化学Ⅱ	後期	40	44	コ		2
	(択)生薬学Ⅰ	後期	40	45	コ		2
	(択)微生物学	後期	40	42	コ		2
	実習	(択)医療薬学入門	前期・後期	40	41	タ・S	
演習							
単位数の合計					(必須科目)		6
					(選択科目)		34
					合計		40

(基礎資料 1-2) 学年別授業科目 平成23年度【旧カリキュラム】

	2 年 次						
	科目名	前期・後期	人数/クラス	履修者数	授業方法		単位数
教養教育・語学教育	英語 (薬学部2)	前期	40	41	タ		2
薬学専門教育	(択) 生物化学Ⅲ	前期	40	19	コ		2
	(択) 生物統計学	前期	40	16	コ		2
	(択) 薬品物理化学Ⅱ	前期	40	44	コ		2
	(択) 薬品分析学Ⅰ	前期	40	42	コ		2
	(択) 有機化学Ⅲ	前期	40	44	コ		2
	(択) 生薬学Ⅱ	前期	40	43	コ		2
	(択) 生物化学Ⅳ	前期	40	43	コ		2
	(択) 薬剤学	前期	40	43	コ		2
	(択) 薬効解析学Ⅰ	前期	40	47	コ		2
	(択) 感染症治療学	前期	40	48	コ		2
	(択) 人体解剖学	前期	40	42	コ		2
	(択) 放射薬品学・放射線概論	前期	40	42	コ		2
	(択) 生物物理化学	後期	40	43	コ		2
	(択) 薬品分析学Ⅱ	後期	40	42	コ		2
	(択) 生物化学Ⅴ	後期	40	50	コ		2
	(択) 生体防御機能学Ⅰ	後期	40	44	コ		2
	(択) 医薬品構造解析学	後期	40	42	コ		1
	(択) 製剤学	後期	40	42	コ		2
	(択) 薬効解析学Ⅱ	後期	40	47	コ		2
	(択) 衛生薬学Ⅰ	後期	40	43	コ		2
	(択) 有機反応化学	後期	40	45	コ		1
	(択) 漢方処方学	後期	40	43	コ		1
	(択) コンピュータ化学	後期	40	42	コ		2
(択) 癌の生物学	後期	40	36	コ		2	
(択) 病理学	後期	40	54	コ		2	
実習							
演習							
単位数 の 合計					(必須科目)		2
					(選択科目)		47
					合計		49

(基礎資料1-3) 学年別授業科目 平成23年度【旧カリキュラム】

		3 年 次							
		科目名	前期・後期	人数/クラス	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育									
薬学専門教育	(択) 生体防御機能学Ⅱ	前期	40	40	コ			1	
	(択) 生物薬剤学	前期	40	40	コ			2	
	(択) 医薬化学Ⅰ	前期	40	40	コ			2	
	(択) 衛生薬学Ⅱ	前期	40	40	コ			2	
	(択) 衛生薬学Ⅲ	前期	40	41	コ			2	
	(択) 医薬品開発学	前期	40	38	コ			1	
	(択) 薬品分析学Ⅲ	前期	40	32	コ			2	
	(択) 複素環化学	前期	40	8	コ			2	
	(択) 機能性天然素材学	前期	40	38	コ			2	
	(択) ゲノム創薬学	前期	40	26	コ			1	
	(択) 内分泌化学	後期	40	37	コ			2	
	(択) 薬事法規	後期	40	40	コ			1	
	(択) 薬事行政	後期	40	40	コ			1	
	(択) 薬効解析学Ⅲ	後期	40	40	コ			2	
	(択) 衛生薬学Ⅳ	後期	40	40	コ			2	
	(択) 医薬化学Ⅱ	後期	40	29	コ			2	
	(択) バイオ技術演習	後期	40	20	コ			1	
(択) 国際医療保健学	後期	40	32	コ・オ			2		
(択) 毒性学	後期	40	39	コ			1		
実習	基礎薬学系実習Ⅰ(2~3人/グループ)	前期	40	40	タ			1	
	基礎薬学系実習Ⅱ(3人/グループ)	前期	40	40	タ			2	
	基礎薬学系実習Ⅲ(10人/グループ)	前期	40	40	タ			1	
	医療薬学系実習Ⅰ(2人/グループ)	前期	40	40	タ			1	
	医療薬学系実習Ⅱ(8人/グループ)	前期	40	40	タ			1	
	衛生薬学系実習(2~5人/グループ)	後期	40	40	タ			2	
	医療薬学系演習Ⅲ(10人/グループ)	後期	40	40	タ			1	
演習									
単位数の合計						(必須科目)		9	
						(選択科目)		31	
						合計		40	

(基礎資料1-4) 学年別授業科目 平成23年度【旧カリキュラム】

	4 年 次							
	科目名	前期・後期	人数/クラス	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育								
薬学専門教育	(択)薬物治療学Ⅰ	前期	40	43	コ			2
	(択)医薬品情報学	前期	40	30	コ・S			2
	(択)臨床医薬品治療学Ⅰ	前期	40	43	コ			2
	(択)細胞療法・診断学	前期	40	42	コ			2
	(択)調剤学	前期	40	43	コ			2
	(択)コミュニティーファーマシー	前期	40	41	コ			1
	(択)薬物動態学	前期	40	43	コ			2
	(択)臨床病態学Ⅰ	前期	40	43	コ			2
	(択)薬物治療学Ⅱ	前期	40	43	コ			2
	(択)病院薬学	前期	40	43	コ・S			2
	(択)臨床医薬品治療学Ⅱ	前期	40	43	コ			2
	(択)臨床薬学	前期	40	43	コ・S			2
	(択)臨床薬物動態学	前期	40	43	コ			2
	(択)臨床病態学Ⅱ	前期	40	43	コ			2
	(択)診断治療学	後期	40	30	コ			2
	実務実習事前教育1	後期	40	44	コ・S			1
	実務実習事前教育2	後期	40	44	コ・S			2
	実務実習事前教育3	後期	40	44	コ・S			2
実務実習事前教育4	後期	40	44	コ・S			2	
実務実習事前教育5	後期	40	44	コ・S			1	
実習								
演習	(択)総合薬学演習Ⅰ	後期	40	44	タ			1
	(択)有機化学演習Ⅰ	後期	40	28	タ			1
	(択)総合薬学演習Ⅱ	後期	40	44	タ			1
単位数の合計					(必須科目)			8
					(選択科目)			32
					合計			40

(基礎資料1-5) 学年別授業科目 平成23年度【旧カリキュラム】

	5 年 次						
	科目名	前期・後期	人数/クラス	履修者数	授業方法		単位数
教養教育・語学教育							
薬学専門教育							
実習	病院実務実習 薬局実務実習	前期・後期 前期・後期	2～3 1～2	39 40	夕 夕		10 10
演習	(択)臨床薬学演習Ⅰ (択)臨床薬学演習Ⅱ (択)臨床薬学演習Ⅲ (択)臨床薬学演習Ⅳ	前期・後期 前期・後期 前期・後期 前期・後期	40 40 40 40	15 7 15 14	夕 夕・S 夕・S・オ 夕・S		1 1 1 1
研究業	卒業論文実習(卒業制作物を含む。)	前期・後期 (2年またがり)	1～4	39	夕		
単位数 の 合計						(必須科目)	20
						(選択科目)	4
						合計	24

(基礎資料 1-6) 学年別授業科目 平成23年度【旧カリキュラム】

	6 年 次							
	科目名	前期・後期	人数/クラス	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育								
薬学専門教育								
実習								
演習	(択) 総合薬学演習 A (択) 有機化学演習 II (択) 総合薬学演習 B	後期 後期 後期	40 40 40	24 24 24	タ タ タ			2 1 2
研究業	卒業論文実習 (卒業制作物を含む。)	前期・後期 (2年またがり)	1 ~ 4	43	タ			12
単位数 の 合計						(必須科目)		12
						(選択科目)		5
						合計		17

(基礎資料1-1) 学年別授業科目 平成29年度【新カリキュラム】

	1 年 次						
	科目名	前期・後期	人数/クラス	履修者数	授業方法		単位数
教養教育・語学教育	薬学ガイダンス	前期	40		コ・オ		2
	英語（薬学部1）	後期	40		コ・タ		2
	英語（ネイティブ）				コ・タ		2
	(択)外国語（英語）				コ・タ		2
	(択)外国語（その他）				コ・タ		4
	(択)教養科目				コ・タ		8
	教養科目、外国語科目[英語（薬学部1）を除く]は全学での開講科目であるので、多くの科目が開講されており、受講生も分散している。科目ごとの記載は多岐にわたり困難であるので、科目ごとの記述は省略した。（参考資料：添付資料2「学生便覧」、5「シラバス」）						
薬学専門教育	物理化学Ⅰ	前期	40		コ		2
	有機化学Ⅰ	前期	40		コ		2
	生物化学Ⅰ	後期	40		コ		2
	生物化学Ⅱ	後期	40		コ		2
	有機化学Ⅱ	後期	40		コ		2
	物理化学Ⅱ	後期	40		コ		2
	(択)薬学セミナーⅠ	前期・後期	40		コ		1
	基礎生物学Ⅰ	前期	40		コ		2
	基礎生物学Ⅱ	前期	40		コ		2
	生薬学Ⅰ	後期	40		コ		2
	分析科学Ⅰ	前期	40		コ		2
	分析科学Ⅱ	後期	40		コ		2
	(択)薬用植物学	前期	40		コ		2
	無機化学	前期	40		コ		1
実習							
演習	早期体験学習	前期	40		コ・S・タ		1
	(択)SGD入門	前期	40		S		1
単位数の合計						(必須科目)	30
						(選択科目)	16
						合計	46

(基礎資料1-2) 学年別授業科目 平成29年度【新カリキュラム】

	2 年 次							
	科目名	前期・後期	人数/クラス	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	英語 (薬学部2)	前期	40		タ			2
薬学専門教育	(択) 薬学セミナーⅡ	前期・後期	40		コ			1
	(択) ケミカル・バイオハザード学	後期	40		コ			1
	生理学	前期	40		コ			2
	生物化学Ⅲ	前期	40		コ			2
	分子細胞生物学Ⅰ	後期	40		コ			2
	(択) 分子細胞生物学Ⅱ	後期	40		コ			2
	生物統計学	前期	40		コ			2
	有機化学Ⅲ	前期	40		コ			2
	生薬学Ⅱ	前期	40		コ			2
	(択) 機能性天然素材学	後期	40		コ			2
	薬理学Ⅰ	後期	40		コ			2
	衛生薬学Ⅰ	後期	40		コ			2
	生物薬剤学	後期	40		コ			2
	薬剤学	前期	40		コ			2
	医薬品構造解析学	前期	40		コ			2
	物理化学Ⅲ	前期	40		コ			2
	物理化学Ⅳ	後期	40		コ			2
	微生物学	後期	40		コ			2
	生物化学Ⅳ	前期	40		コ			2
	有機化学Ⅳ	後期	40		コ			2
	放射医薬品学	前期	40		コ			2
	製剤学	後期	40		コ			2
	人体解剖学	前期	40		コ			2
(択) 病理学	後期	40	隔年開講	コ			2	
実習	基礎薬学系実習Ⅰ	後期	40		タ			1
	基礎薬学系実習Ⅱ	後期	40		タ			2
	基礎薬学系実習Ⅲ	後期	40		タ			1
演習								
単位数の合計					(必須科目)		44	
					(選択科目)		8	
					合計		52	

(基礎資料1-3) 学年別授業科目 平成29年度【新カリキュラム】

		3 年 次						
科目名		前期・後期	人数/クラス	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育								
薬学専門教育	分子細胞生物学Ⅲ	前期	40		コ			2
	(択)有機化学Ⅴ	前期	40		コ			2
	漢方薬学概論	前期	40		コ			2
	(択)漢方処方応用学	前期	40		コ			1
	薬理学Ⅱ	前期	40		コ			2
	薬理学Ⅲ	後期	40		コ			2
	薬理学Ⅳ	後期	40		コ			2
	衛生薬学Ⅱ	前期	40		コ			2
	衛生薬学Ⅲ	前期	40		コ			2
	衛生薬学Ⅳ	後期	40		コ			2
	(択)毒性学	後期	40		コ			1
	(択)癌の生物学	後期	40		コ			2
	分析科学Ⅲ	前期	40		コ			2
	化学療法学	前期	40		コ			2
	免疫学Ⅰ	前期	40		コ			2
	免疫学Ⅱ	後期	40		コ			2
	医薬化学Ⅰ	前期	40		コ			2
	(択)医薬化学Ⅱ (構造生物学を含む。)	後期	40		コ			2
	(択)有機合成反応論	後期	40		コ			2
	医薬品情報学	前期	40		コ・S			2
診断治療学	後期	40		コ			2	
薬物治療学Ⅰ	後期	40		コ			2	
薬物治療学Ⅱ	後期	40		コ			2	
(択)医薬品開発学	前期	40		コ			1	
薬物動態学	後期	40		コ			2	
実習	衛生薬学系実習	前期	40		タ			2
	医療薬学系実習Ⅰ	前期	40		タ			1
	医療薬学系実習Ⅱ	前期	40		タ			1
	医療薬学系演習Ⅲ	前期	40		タ			1
	(択)卒業論文基礎実習	後期 (3学期 またがり)	1~4		タ			
演習	薬剤師倫理学	前期	40		S・コ			1
単位数 の 合計						(必須科目)		42
						(選択科目)		11
						合計		53

(基礎資料1-4) 学年別授業科目 平成29年度【新カリキュラム】

	4 年 次							
	科目名	前期・後期	人数/クラス	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育								
薬学専門教育	薬物治療学Ⅲ	前期	40		コ・S		2	
	臨床医薬品治療学Ⅰ	前期	40		コ		2	
	臨床医薬品治療学Ⅱ	前期	40		コ		2	
	薬事法規・薬事行政	前期	40		コ		2	
	コミュニティーファーマシー	前期	40		コ		1	
	(択)臨床薬物動態学	前期	40		コ		2	
	臨床病態学Ⅰ	前期	40		コ		2	
	臨床病態学Ⅱ	前期	40		コ		2	
	実務実習事前教育Ⅰ	前期	40		コ・S		2	
	実務実習事前教育Ⅱ	前期	40		コ・S		2	
	実務実習事前教育Ⅲ	後期	40		コ・S		4	
実習	(択)卒業論文基礎実習	前期・後期 ⁽³⁾ 学期またがり	1～4		タ		6	
演習								
単位数 の 合計					(必須科目)			21
					(選択科目)			8
					合計			29

(基礎資料1-5) 学年別授業科目 平成29年度【新カリキュラム】

	5 年 次						
	科目名	前期・後期	人数/クラス	履修者数	授業方法		
教養教育・語学教育							
薬学専門教育							
実習	病院実務実習 薬局実務実習	前期・後期 前期・後期	2～3 1～2		夕 夕		10 10
演習	(択)臨床薬学演習Ⅰ (択)臨床薬学演習Ⅱ (択)臨床薬学演習Ⅲ (択)臨床薬学演習Ⅳ	前期・後期 前期・後期 前期・後期 前期・後期	40 40 40 40		夕 夕・S 夕・S・オ 夕・S		1 1 1 1
研究業	卒業論文実習(卒業制作物を含む。)	前期・後期 (4学期または5)	1～4		夕		
単位数 の 合計						(必須科目)	20
						(選択科目)	4
						合計	24

(基礎資料1-6) 学年別授業科目 平成29年度【新カリキュラム】

	6 年 次							
	科目名	前期・後期	人数/クラス	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育								
薬学専門教育								
実習								
演習								
研究業	卒業論文実習（卒業制作物を含む。）	前期・後期 (4学期またが り)	1～4		夕			12
単位数 の 合計						(必須科目)		12
						(選択科目)		0
						合計		12

(基礎資料1-1) 学年別授業科目 平成24年度【新カリキュラム】

	1 年 次						
	科目名	前期・後期	人数/クラス	履修者数	授業方法		単位数
教養教育・語学教育	薬学ガイダンス	前期	40	41	コ・オ		2
	英語(薬学部1)	後期	40	41	コ・タ		2
	英語(ネイティブ)				コ・タ		2
	(択)外国語(英語)				コ・タ		2
	(択)外国語(その他)				コ・タ		4
	(択)教養科目				コ・タ		8
	教養科目、外国語科目[英語(薬学部1)を除く]は全学での開講科目であるので、多くの科目が開講されており、受講生も分散している。科目ごとの記載は多岐にわたり困難であるので、科目ごとの記述は省略した。(参考資料:添付資料2「学生便覧」, 5「シラバス」)						
薬学専門教育	物理化学Ⅰ	前期	40	41	コ		2
	有機化学Ⅰ	前期	40	41	コ		2
	生物化学Ⅰ	後期	40	41	コ		2
	生物化学Ⅱ	後期	40	41	コ		2
	有機化学Ⅱ	後期	40	41	コ		2
	物理化学Ⅱ	後期	40	41	コ		2
	(択)薬学セミナーⅠ	前期・後期	40	41	コ		1
	基礎生物学Ⅰ	前期	40	41	コ		2
	基礎生物学Ⅱ	前期	40	41	コ		2
	生薬学Ⅰ	後期	40	41	コ		2
	分析科学Ⅰ	前期	40	41	コ		2
	分析科学Ⅱ	後期	40	41	コ		2
	(択)薬用植物学	前期	40	41	コ		2
	無機化学	前期	40	41	コ		1
実習							
演習	早期体験学習	前期	40	41	コ・S・タ		1
	(択)SGD入門	前期	40	16	S		1
単位数の合計						(必須科目)	30
						(選択科目)	16
						合計	46

(基礎資料 1-2) 学年別授業科目 平成24年度【旧カリキュラム】

	2 年 次						
	科目名	前期・後期	人数/クラス	履修者数	授業方法		単位数
教養教育・語学教育	英語 (薬学部2)	前期	40	41	タ		2
薬学専門教育	(択) 生物化学Ⅲ	前期	40	6	コ		2
	(択) 生物統計学	前期	40	7	コ		2
	(択) 薬品物理化学Ⅱ	前期	40	41	コ		2
	(択) 薬品分析学Ⅰ	前期	40	41	コ		2
	(択) 有機化学Ⅲ	前期	40	45	コ		2
	(択) 生薬学Ⅱ	前期	40	42	コ		2
	(択) 生物化学Ⅳ	前期	40	42	コ		2
	(択) 薬剤学	前期	40	41	コ		2
	(択) 薬効解析学Ⅰ	前期	40	43	コ		2
	(択) 感染症治療学	前期	40	50	コ		2
	(択) 人体解剖学	前期	40	41	コ		2
	(択) 放射薬品学・放射線概論	前期	40	41	コ		2
	(択) 生物物理化学	後期	40	41	コ		2
	(択) 薬品分析学Ⅱ	後期	40	40	コ		2
	(択) 生物化学Ⅴ	後期	40	40	コ		2
	(択) 生体防御機能学Ⅰ	後期	40	40	コ		2
	(択) 医薬品構造解析学	後期	40	40	コ		1
	(択) 製剤学	後期	40	41	コ		2
	(択) 薬効解析学Ⅱ	後期	40	45	コ		2
	(択) 衛生薬学Ⅰ	後期	40	40	コ		2
	(択) 有機反応化学	後期	40	40	コ		1
(択) 漢方処方学	後期	40	40	コ		1	
(択) コンピュータ化学	後期	40	40	コ		2	
(択) 癌の生物学	後期	40	41	コ		2	
(択) 病理学	後期	40	隔年開講	コ		2	
実習							
演習							
単位数 の 合計					(必須科目)		2
					(選択科目)		47
					合計		49

(基礎資料 1-3) 学年別授業科目 平成24年度【旧カリキュラム】

		3 年 次							
		科目名	前期・後期	人数/クラス	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育									
薬学専門教育	(択) 生体防御機能学Ⅱ	前期	40	43	コ			1	
	(択) 生物薬剤学	前期	40	43	コ			2	
	(択) 医薬化学Ⅰ	前期	40	43	コ			2	
	(択) 衛生薬学Ⅱ	前期	40	43	コ			2	
	(択) 衛生薬学Ⅲ	前期	40	43	コ			2	
	(択) 医薬品開発学	前期	40	43	コ			1	
	(択) 薬品分析学Ⅲ	前期	40	40	コ			2	
	(択) 複素環化学	前期	40	8	コ			2	
	(択) 機能性天然素材学	前期	40	43	コ			2	
	(択) ゲノム創薬学	前期	40	22	コ			1	
	(択) 内分泌化学	後期	40	43	コ			2	
	(択) 薬事法規	後期	40	43	コ			1	
	(択) 薬事行政	後期	40	43	コ			1	
	(択) 薬効解析学Ⅲ	後期	40	43	コ			2	
	(択) 衛生薬学Ⅳ	後期	40	43	コ			2	
	(択) 医薬化学Ⅱ	後期	40	15	コ			2	
	(択) バイオ技術演習	後期	40	13	コ			1	
(択) 国際医療保健学	後期	40	42	コ・オ			2		
(択) 毒性学	後期	40	39	コ			1		
実習	基礎薬学系実習Ⅰ (2~3人/グループ)	前期	40	43	タ			1	
	基礎薬学系実習Ⅱ (3人/グループ)	前期	40	43	タ			2	
	基礎薬学系実習Ⅲ (10人/グループ)	前期	40	43	タ			1	
	医療薬学系実習Ⅰ (2人/グループ)	前期	40	43	タ			1	
	医療薬学系実習Ⅱ (8人/グループ)	前期	40	43	タ			1	
	衛生薬学系実習 (2~5人/グループ)	後期	40	43	タ			2	
	医療薬学系演習Ⅲ (10人/グループ)	後期	40	43	タ			1	
演習									
単位数の合計						(必須科目)		9	
						(選択科目)		31	
						合計		40	

(基礎資料1-4) 学年別授業科目 平成24年度【旧カリキュラム】

	4 年 次							
	科目名	前期・後期	人数/クラス	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育								
薬学専門教育	(択)薬物治療学Ⅰ	前期	40	40	コ			2
	(択)医薬品情報学	前期	40	18	コ・S			2
	(択)臨床医薬品治療学Ⅰ	前期	40	40	コ			2
	(択)細胞療法・診断学	前期	40	41	コ			2
	(択)調剤学	前期	40	40	コ			2
	(択)コミュニティーファーマシー	前期	40	40	コ			1
	(択)薬物動態学	前期	40	40	コ			2
	(択)臨床病態学Ⅰ	前期	40	40	コ			2
	(択)薬物治療学Ⅱ	前期	40	40	コ			2
	(択)病院薬学	前期	40	40	コ・S			2
	(択)臨床医薬品治療学Ⅱ	前期	40	40	コ			2
	(択)臨床薬学	前期	40	40	コ・S			2
	(択)臨床薬物動態学	前期	40	40	コ			2
	(択)臨床病態学Ⅱ	前期	40	40	コ			2
	(択)診断治療学	後期	40	25	コ			2
	実務実習事前教育1	後期	40	40	コ・S			1
	実務実習事前教育2	後期	40	40	コ・S			2
	実務実習事前教育3	後期	40	40	コ・S			2
実務実習事前教育4	後期	40	40	コ・S			2	
実務実習事前教育5	後期	40	40	コ・S			1	
実習								
演習	(択)総合薬学演習Ⅰ	後期	40	40	タ			1
	(択)有機化学演習Ⅰ	後期	40	22	タ			1
	(択)総合薬学演習Ⅱ	後期	40	40	タ			1
単位数の合計					(必須科目)		8	
					(選択科目)		32	
					合計		40	

(基礎資料1-5) 学年別授業科目 平成24年度【旧カリキュラム】

	5 年 次							
	科目名	前期・後期	人数/クラス	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育								
薬学専門教育								
実習	病院実務実習 薬局実務実習	前期・後期 前期・後期	2～3 1～2	45 44	夕 夕			10 10
演習	(択)臨床薬学演習Ⅰ (択)臨床薬学演習Ⅱ (択)臨床薬学演習Ⅲ (択)臨床薬学演習Ⅳ	前期・後期 前期・後期 前期・後期 前期・後期	40 40 40 40	19 9 6 12	夕 夕・S 夕・S・オ 夕・S			1 1 1 1
研究業	卒業論文実習(卒業制作物を含む。)	前期・後期 (2年またがり)	1～4	44	夕			
単位数 の 合計						(必須科目)		20
						(選択科目)		4
						合計		24

(基礎資料 1-6) 学年別授業科目 平成24年度【旧カリキュラム】

	6 年 次							
	科目名	前期・後期	人数/クラス	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育								
薬学専門教育								
実習								
演習	(択) 総合薬学演習 A (択) 有機化学演習 II (択) 総合薬学演習 B	後期 後期 後期	40 40 40	31 31 31	夕 夕 夕			2 1 2
研卒業	卒業論文実習 (卒業制作物を含む。)	前期・後期 (2年またがり)	1 ~ 4	40	夕			12
単位数 の 合計						(必須科目)		12
						(選択科目)		5
						合計		17

(基礎資料 1-7) 【旧カリキュラム】 学年別授業科目

(基礎資料 1-1) から (基礎資料 1-6) までの結果から下記の (1) および (2) を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	5	9
教養教育科目	3	6
語学教育科目	6	12
医療安全教育科目	4	4
生涯学習の意欲醸成科目	3	4
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	7	12

(2) 学年別授業科目の表から前期と後期の単位数を合算して記入してください。

学 年	単位数		
	必須科目	選択科目	合計
1 年 次	6	34	40
2 年 次	2	47	49
3 年 次	9	31	40
4 年 次	8	32	40
5 年 次	20	4	24
6 年 次	12	5	17
合計	57	153	210

(基礎資料 1-7) 【新カリキュラム】学年別授業科目

(基礎資料 1-1)から(基礎資料 1-6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	6	10
教養教育科目	4	8
語学教育科目	6	12
医療安全教育科目	4	5
生涯学習の意欲醸成科目	3	4
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	5	11

(2) 学年別授業科目の表から前期と後期の単位数を合算して記入してください。

学 年	単位数		
	必須科目	選択科目	合計
1 年 次	30	16	46
2 年 次	44	8	52
3 年 次	42	11	53
4 年 次	21	8	29
5 年 次	20	4	24
6 年 次	12	0	12
合計	169	47	216

(基礎資料2) 在籍学生数

入学年度 における	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	合計
入学定員数	40	40	40	40	40	40	240
編入定員数	0	0	0	0	0	0	0
入学者数	41	41	43	40	43	43	251
各学年の在籍学生数	41	42	43 ※	40	44	41 ※	251
編入学生数 (内)	0	0	0	0	0	0	0
留年者数 (内)	0	1	1		1	2	5
基準日 における	平成18年度					2	2
	平成19年度		1	1	1		3
	平成20年度						
	平成21年度						
	平成22年度						
	平成23年度						
	平成24年度						
C / (A+B)	1.05						
D / B	0						

※ 除籍者1名を除いています。

- [注] 1 「C / (A+B)」と「D / B」については、小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位まで表示してください。
 2 「編入学生数 (内)」および「留年者数 (内)」は、「各学年の在籍学生数」の内数を記入してください。

(基礎資料 2-2) 在籍学生数：休学者数および退学者数

	平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度 ※	
	休学者数	退学者数	休学者数	退学者数										
総在籍学生数	45		88		130		171		214		253		251	
1年次						1			2		1	1 (除籍)		
2年次												1 (除籍)	1	
3年次														
4年次									1		1			
5年次														
6年次														1
合計						1			3		2	2 (除籍)	2	2

[注] 自己点検・評価対象年度以外は年度末の現状を記入してください。

※ 平成24年度は平成24年12月20日現在の員数で示している。

(基礎資料2-3) 学士課程修了状況

卒業者総数	平成23年度 (平成24年3月卒業)	平成24年度 (平成25年3月卒業)	平成25年度 (平成26年3月卒業)	平成26年度 (平成27年3月卒業)	平成27年度 (平成28年3月卒業)	平成28年度 (平成29年3月卒業)	入学者総数	卒業率 (%)
	43名	40名	43名	43名	45名	43名		
卒業者の 入学年度 内訳	平成18年度入学者	2名	38名	43名	45名	95.6%		
	平成19年度入学者	38名	43名	88.4%				
	平成20年度入学者	43名	0.0%					
	平成21年度入学者	40名	0.0%					
	平成22年度入学者	43名	0.0%					
	平成23年度入学者	41名	0.0%					

(基礎資料3-1) 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

- [注] 1 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。
 2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することができます。

授業担当SBO(平成24年度)

大項目 A. 全学年を 通じた コアカリキュ ラムについて 学ぶ	中項目 小項目	項目	薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)					主責任科目	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		
			SBO番号	行動目標	前期 該当科目名	後期 該当科目名	前期 該当科目名		後期 該当科目名	前期 該当科目名	後期 該当科目名										
		(1) 患者の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議する。(知識・態度)	A-1-1-1	薬学ガイダンス	薬学ガイダンス																
		(2) 患者の死に際する倫理的課題(生命技術、クローン技術、出生前診断)などの倫理的課題を説明できる。	A-1-1-2	薬学ガイダンス	薬学ガイダンス																
		(3) 医療に関わる倫理的課題を列挙し、その倫理的課題を説明できる。	A-1-1-3	薬学ガイダンス	薬学ガイダンス																
		(4) 死に関わる倫理的課題(安楽死、尊厳死、臓器提供)の倫理的問題点を説明できる。	A-1-1-4	薬学ガイダンス	薬学ガイダンス																
		(5) 自らの体験を通して、生業の尊厳と医療の関わりについて討議する。(態度)	A-1-1-5	薬学ガイダンス	薬学ガイダンス																
		(医療の目的)	A-1-2-1	病院薬学	病院薬学																
		(学際医療と生業)	A-1-3-1	病院薬学	病院薬学																
		(社会の期待)	A-2-1-1	薬学ガイダンス	薬学ガイダンス																
		(医療の担い手としての心構え)	A-2-1-2	コミュニケーションマナー	コミュニケーションマナー																
		(医療行為に関わる心構え)	A-2-1-3	薬学ガイダンス	薬学ガイダンス																
		(医療行為に関わる心構え)	A-2-2-1	薬学ガイダンス	薬学ガイダンス																
		(医療行為に関わる心構え)	A-2-2-2	薬学ガイダンス	薬学ガイダンス																
		(医療行為に関わる心構え)	A-2-2-3	病院薬学	病院薬学																
		(医療行為に関わる心構え)	A-2-2-4	薬学ガイダンス	薬学ガイダンス																
		(医療行為に関わる心構え)	A-2-2-5	コミュニケーションマナー	コミュニケーションマナー																
		(研究活動に携わる心構え)	A-2-3-1	薬学ガイダンス	薬学ガイダンス																
		(研究活動に携わる心構え)	A-2-3-2	薬学ガイダンス	薬学ガイダンス																
		(研究活動に携わる心構え)	A-2-3-3	薬学ガイダンス	薬学ガイダンス																
		(研究活動に携わる心構え)	A-2-4-1	薬学ガイダンス	薬学ガイダンス																
		(研究活動に携わる心構え)	A-2-4-2	薬学ガイダンス	薬学ガイダンス																
		(自己学習・生涯学習)	A-2-5-1	薬学ガイダンス	薬学ガイダンス																
		(自己学習・生涯学習)	A-2-5-2	薬学ガイダンス	薬学ガイダンス																
		(コミュニケーション)	A-3-1-1	薬学ガイダンス	薬学ガイダンス																
		(コミュニケーション)	A-3-1-2	薬学ガイダンス	薬学ガイダンス																
		(コミュニケーション)	A-3-1-3	薬学ガイダンス	薬学ガイダンス																
		(コミュニケーション)	A-3-2-1	薬学ガイダンス	薬学ガイダンス																
		(コミュニケーション)	A-3-2-2	薬学ガイダンス	薬学ガイダンス																
		(コミュニケーション)	A-3-2-3	薬学ガイダンス	薬学ガイダンス																
		(コミュニケーション)	A-3-3-1	薬学ガイダンス	薬学ガイダンス																
		(コミュニケーション)	A-3-3-2	薬学ガイダンス	薬学ガイダンス																
		(コミュニケーション)	A-3-3-3	薬学ガイダンス	薬学ガイダンス																
		(コミュニケーション)	A-3-3-4	薬学ガイダンス	薬学ガイダンス																
		(コミュニケーション)	A-3-3-5	薬学ガイダンス	薬学ガイダンス																
		(チームワーク)	A-3-4-1	薬学ガイダンス	薬学ガイダンス																
		(チームワーク)	A-3-4-2	薬学ガイダンス	薬学ガイダンス																

大項目	中項目	小項目	項目	薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)			1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次			
				SBO番号	行動目標	主責任科目	前期	後期												
							担当科目名													
B インテグレーション	薬学への招待	A-3-4-3	3. 自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求め、(題外)	薬学セミナーI 薬学ガイダンス 薬学セミナー	薬学ガイダンス 薬学ガイダンス															
		A-3-5-1	1. 業の専門家と地域社会の関わりを列挙できる。	薬学ガイダンス																
		A-3-5-2	2. 業の専門家に対する地域社会のニーズを収集し、討議する。(題外)	薬学ガイダンス																
		B-1-1-1	1. 薬学の歴史の流れと医療と薬学が果たしてきた役割を解説できる。	薬学ガイダンス																
		B-1-1-2	2. 薬剤師の歴史と変遷の歴史を解説できる。	薬学ガイダンス																
		B-1-2-1	1. 薬剤師の活動分野(医療機関、製薬企業、衛生行政など)について解説できる。	薬学ガイダンス																
		B-1-2-2	2. 薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、その仕事を解説できる。	薬学ガイダンス																
		B-1-2-3	3. 医薬品の適正使用における薬剤師の役割について解説できる。	薬学ガイダンス																
		B-1-2-4	4. 医薬品の創製における薬剤師の役割について解説できる。	薬学ガイダンス																
		B-1-3-1	1. 「薬とは何か」を解説できる。	薬学ガイダンス																
B-1-3-2	2. 薬の発見の歴史を具体例を挙げて解説できる。	薬学ガイダンス																		
B-1-3-3	3. 化学物質が医薬品として治療に使用されるまでの流れを解説できる。	薬学ガイダンス																		
B-1-3-4	4. 種々の剤形とその使い方について解説できる。	薬学ガイダンス																		
B-1-3-5	5. 一般用医薬品と医療用医薬品の違いを解説できる。	薬学ガイダンス																		
B-1-4-1	1. 先端医療を支える医薬品開発の現状について解説できる。	医薬品開発学																		
B-1-4-2	2. 医薬、天然、革せい剤などを活用することによる健康への影響を解説できる。	医薬品開発学																		
B-1-4-3	3. 薬害について具体例を挙げ、その問題を解説できる。	医薬品開発学																		
B-1-5-1	1. 日本薬局方の意義と内容について解説できる。	薬学セミナーI																		
B-1-6-1	1. 医師と薬剤師の関わりについて考えを述べ、(制度)	薬学セミナーI																		
B-1-6-2	2. 身近な医薬品を日本薬局方などを用いて調べる。(技能)	薬学セミナーI																		
B-2-1-1	1. 病名における薬剤師および他の医療スタッフの業務を説明し、その重要性について自分の意思をまとめ、発表する。(知識、態度)	薬学セミナーI																		
B-2-1-2	2. 開業薬剤師の業務を説明し、その重要性について自分の意思をまとめ、発表する。(知識、態度)	薬学セミナーI																		
B-2-1-3	3. 製薬企業および保健衛生、福祉に関わる行政機関の業務を説明し、社外において果たしている役割について討論する。(知識、態度)	薬学セミナーI																		
B-2-1-4	4. 薬性、毒性の重要性を具体的な事例に基づいて発表する。(知識、態度)	薬学セミナーI																		
C. 薬学専門教育の構築	【物性薬学を軸とした学修】	[化学結合]	001-1-1-1	1. 化学結合の正しい見方について説明できる。	薬学セミナーI 物理化学I 物理化学I															
		001-1-1-2	2. 軌道の見方について説明できる。	物理化学I																
		001-1-1-3	3. 分子軌道の基本概念を説明できる。	物理化学I																
		001-1-1-4	4. 共役や共鳴の概念を説明できる。	物理化学I																
		[分子間相互作用]	001-1-2-1	1. 静電相互作用について例を挙げて説明できる。	薬学物理化学II 薬学物理化学II															
		001-1-2-2	2. ファンデルワールス力について例を挙げて説明できる。	薬学物理化学II																
		001-1-2-3	3. 双電子相互作用について例を挙げて説明できる。	薬学物理化学II																
		001-1-2-4	4. 分散力について例を挙げて説明できる。	薬学物理化学II																
		001-1-2-5	5. 水素結合について例を挙げて説明できる。	薬学物理化学II																
		001-1-2-6	6. 電荷移動について例を挙げて説明できる。	薬学物理化学II																
001-1-2-7	7. 分子軌道法を用いた分子間相互作用の相対的な強さを評価できる。	薬学物理化学II																		
[原子分子]	001-1-3-1	1. 電位の法則および物質との相互関係を説明できる。	物理化学I																	
001-1-3-2	2. 分子の運動、回転、振動状態について説明できる。	物理化学I																		
001-1-3-3	3. スピンとその磁気共鳴について説明できる。	物理化学I																		
001-1-3-4	4. 分子の分極と双電子モーメントについて説明できる。(知識、技能)	物理化学I																		
001-1-3-5	5. 代表的な分光スペクトルを測定し、結果との関連を説明できる。(知識、技能)	物理化学I																		
001-1-3-6	6. 蛍光および発光特性について説明できる。	物理化学I																		
001-1-3-7	7. 散乱および干渉について説明できる。	物理化学I																		
001-1-3-8	8. 結晶構造と回折実験について説明できる。	物理化学I																		
[放射線と放射能]	001-1-4-1	1. 原子の構造と放射線量について説明できる。	放射線薬品学・放射線薬学 放射線薬学																	
001-1-4-2	2. 放射線の種類を列挙し、それらの物質との相互作用について説明できる。	放射線薬品学・放射線薬学 放射線薬学																		
001-1-4-3	3. 代表的な放射線核種の物理的性質について説明できる。	放射線薬品学・放射線薬学 放射線薬学																		
001-1-4-4	4. 核反応および放射平衡について説明できる。	放射線薬品学・放射線薬学 放射線薬学																		
001-1-4-5	5. 放射線の測定原理について説明できる。	放射線薬品学・放射線薬学 放射線薬学																		
[総論]	001-2-1-1	1. ファンデルワールスの相互作用について説明できる。	物理化学II																	
001-2-1-2	2. 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。	物理化学II																		
001-2-1-3	3. エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。	物理化学II																		
[エネルギー]	001-2-2-1	1. 系、外界、環境について説明できる。	物理化学II																	

大項目	中項目	小項目	項目	薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)													
				主責任科目		1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
			行動目標	前期 履修科目名	後期 履修科目名	前期 履修科目名	後期 履修科目名	前期 履修科目名	後期 履修科目名	前期 履修科目名	後期 履修科目名	前期 履修科目名	後期 履修科目名	前期 履修科目名	後期 履修科目名		
① 物質 の变化	[熱力学]	001-2-2-2	1. 状態量の種類と単位について説明できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ		
			2. 状態量の種類と単位について説明できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	
			3. 仕事量及び熱の符号を説明できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ
			4. 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ
			5. 熱力学第一法則について式を用いて説明できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ
			6. 代表的な過程(変化)における熱と仕事を計算できる。(知識・技能)	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ
			7. エンタルピーについて説明できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ
			8. 代表的な物理変化、化学変化に伴う標準エンタルピー変化を説明し、計算できる。(知識・技能)	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ
			9. 相変生エンタルピーについて説明できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ
			10. エンタルピーについて説明できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ
② 物質 の平衡	[溶液の化学]	001-2-3-3	1. 化学的平衡の移動(Le Chatelier-Principle)の式などについて説明できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ		
			2. 相平衡と相律について説明できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ		
			3. 代表的な状態関数(一部分系、二部分系、三部分系系相図)について説明できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ		
			4. 物質の溶解平衡について説明できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ		
			5. 溶液の第一性質(浸透圧、沸点上昇、凝固点降下など)について説明できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ		
			6. 表面における平衡について説明できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ		
			7. 吸着平衡について説明できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ		
			8. 自由エネルギーと平衡定数の温度依存性(Vant' Hoffの式)について説明できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ		
			9. 拡散係数について計算を挙げ説明できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ		
			10. 拡散係数について計算を挙げ説明できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ		
③ 化学 物質の 分析	[電気化学]	001-3-2-2	1. 代表的な化学電池の構造とその構成について説明できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ		
			2. 標準電位について説明できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ		
			3. 自由エネルギーと標準自由エネルギー変化の関係について説明できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ		
			4. Nernstの式が導出できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ		
			5. 濃差電池について説明できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ		
			6. 膜電位と能動電極について説明できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ		
			7. イオンの輸送と濃度差について説明できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ		
			8. イオン強度について説明できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ		
			9. 電解質の活量係数の温度依存性(Debye-Hückelの式)について説明できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ		
			10. 代表的な反応次数の決定法を挙げ、説明できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ		
④ 物質 の变化	[物質の移動]	001-4-1-2	1. 拡散係数について説明できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ		
			2. 拡散係数について説明できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ		
			3. 拡散係数について説明できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ		
			4. 拡散係数について説明できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ		
			5. 拡散係数について説明できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ		
			6. 拡散係数について説明できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ		
			7. 拡散係数について説明できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ		
			8. 拡散係数について説明できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ		
			9. 拡散係数について説明できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ		
			10. 拡散係数について説明できる。	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ	物理化学Ⅱ		

大項目	中項目	小項目	項目	薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)						1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次			
				主責任科目	前期科目名	後期科目名	前期科目名	後期科目名	前期科目名	後期科目名	前期科目名	後期科目名	前期科目名	後期科目名	前期科目名	後期科目名	前期科目名	後期科目名	前期科目名	後期科目名	前期科目名	後期科目名	
③ 化学物質の抽出と定量	SBO番号	行動目標	③ 化学物質の抽出と定量	02-2-1-1	1. 代表的な有機分子の官能基反応を説明できる。	薬品分析学(分析科学)Ⅰ	分析科学Ⅰ	薬品分析学Ⅰ	薬品分析学Ⅰ														
				02-2-1-2	2. 日本薬局方収載の代表的な医薬品の純度試験を列挙し、その内容を説明できる。	薬品分析学(分析科学)Ⅰ	分析科学Ⅰ	薬品分析学Ⅰ	薬品分析学Ⅰ														
				02-2-1-3	3. 日本薬局方収載の代表的な医薬品の純度試験を列挙し、その内容を説明できる。	薬品分析学(分析科学)Ⅰ	分析科学Ⅰ	薬品分析学Ⅰ	薬品分析学Ⅰ														
				02-2-2-1△	1. 実験値を用いた計算および統計処理ができる。(技能)	生物統計学	分析科学Ⅰ	薬品分析学Ⅰ	薬品分析学Ⅰ														
				02-2-2-2	2. 医薬品分析法のバリデーションについて説明できる。	薬品分析学(分析科学)Ⅰ	分析科学Ⅰ	薬品分析学Ⅰ	薬品分析学Ⅰ														
				02-2-2-3	3. 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。	薬品分析学(分析科学)Ⅰ	分析科学Ⅰ	薬品分析学Ⅰ	薬品分析学Ⅰ														
				02-2-2-4	4. 日本薬局方収載の容量分析法について列挙できる。	薬品分析学(分析科学)Ⅰ	分析科学Ⅰ	薬品分析学Ⅰ	薬品分析学Ⅰ														
				02-2-2-5	5. 日本薬局方収載の生物学的検査法の特長を説明できる。	薬品分析学(分析科学)Ⅰ	分析科学Ⅰ	薬品分析学Ⅰ	薬品分析学Ⅰ														
				02-2-2-6	1. 中和滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	薬品分析学(分析科学)Ⅰ	分析科学Ⅰ	薬品分析学Ⅰ	薬品分析学Ⅰ														
				02-2-2-7	2. 非水滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	薬品分析学(分析科学)Ⅰ	分析科学Ⅰ	薬品分析学Ⅰ	薬品分析学Ⅰ														
				02-2-3-3	3. ケーパシタンスの原理、操作法および応用例を説明できる。	薬品分析学(分析科学)Ⅰ	分析科学Ⅰ	薬品分析学Ⅰ	薬品分析学Ⅰ														
				02-2-3-4	4. 流動性のある原理、操作法および応用例を説明できる。	薬品分析学(分析科学)Ⅰ	分析科学Ⅰ	薬品分析学Ⅰ	薬品分析学Ⅰ														
				02-2-3-5	5. 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	薬品分析学(分析科学)Ⅰ	分析科学Ⅰ	薬品分析学Ⅰ	薬品分析学Ⅰ														
				02-2-3-6	6. 電気滴定(電位差滴定、電気伝導度滴定など)の原理、操作法および応用例を説明できる。	薬品分析学(分析科学)Ⅰ	分析科学Ⅰ	薬品分析学Ⅰ	薬品分析学Ⅰ														
				02-2-3-7△	7. 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(技能)	薬品分析学(分析科学)Ⅰ	分析科学Ⅰ	薬品分析学Ⅰ	薬品分析学Ⅰ														
				02-2-4-1	1. 原子吸光光度法の原理、操作法および応用例を説明できる。	薬品分析学(分析科学)Ⅱ	分析科学Ⅱ	薬品分析学Ⅱ	薬品分析学Ⅱ														
				02-2-4-2	2. 発光分析法の原理、操作法および応用例を説明できる。	薬品分析学(分析科学)Ⅱ	分析科学Ⅱ	薬品分析学Ⅱ	薬品分析学Ⅱ														
				02-2-5-1	1. クロマトグラフィーの種類を列挙し、それぞれの特長と分離機構を説明できる。	薬品分析学(分析科学)Ⅱ	分析科学Ⅱ	薬品分析学Ⅱ	薬品分析学Ⅱ														
				02-2-5-2	2. クロマトグラフィーを用いた代表的な抽出法と装置を説明できる。	薬品分析学(分析科学)Ⅱ	分析科学Ⅱ	薬品分析学Ⅱ	薬品分析学Ⅱ														
				02-2-5-3△	3. 薄層クロマトグラフィー・液体クロマトグラフィーなどのクロマトグラフィーを用いた代表的な化学物質を分離分析できる。(知識・技能)	基礎薬学系実習Ⅰ																	
02-3-1-1△	1. 代表的な生体試料について、目的に即した前処理と適切な取り扱いができる。(技能)	基礎薬学系実習Ⅰ																					
02-3-1-2	2. 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。	薬品分析学Ⅲ																					
02-3-2-1	1. 臨床分析の分野で用いられる代表的な分析法を列挙できる。	薬品分析学Ⅲ																					
02-3-2-2	2. 免疫反応を用いた分析法の原理、実施法および応用例を説明できる。	薬品分析学Ⅲ																					
02-3-2-3	3. 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)	薬品分析学Ⅲ																					
02-3-2-4	4. 電気泳動法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)	薬品分析学Ⅲ																					
02-3-2-5	5. 代表的なセンサーを列挙し、原理および応用例を説明できる。	薬品分析学Ⅲ																					
02-3-2-6△	6. 代表的な画像診断技術(X線検査、CTスキャン、MRI、超音波、核医学検査など)について概説できる。	放射線薬学・放射線物理学																					
02-3-2-8	8. 画像診断薬(造影剤、放射性医薬品など)について概説できる。	放射線薬学・放射線物理学																					
02-3-2-9△	9. 薬学領域で汎用されるその他の分析技術(バイオイメージング、マイクロチップなど)について概説できる。	ゲノム科学																					
02-3-3-1	1. 薬物中毒における生体試料の取り扱いについて説明できる。	薬学薬学Ⅲ																					
02-3-3-2	2. 代表的な中毒原因物質(常用薬物を含む)のスクリーニング法を列挙し、説明できる。	薬学薬学Ⅲ																					
02-3-3-3△	3. 薬物代謝の要因を列挙し、説明できる。(技能)	薬学薬学Ⅲ																					
03-1-1-1	1. 質量分析法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。	薬品分析学(分析科学)Ⅱ	分析科学Ⅱ	薬品分析学Ⅱ	薬品分析学Ⅱ																		
03-1-1-2	2. 質量分析法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。	薬品分析学(分析科学)Ⅱ	分析科学Ⅱ	薬品分析学Ⅱ	薬品分析学Ⅱ																		
03-1-1-3△	3. 飛行時間質量分析法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。	薬品分析学(分析科学)Ⅱ	分析科学Ⅱ	薬品分析学Ⅱ	薬品分析学Ⅱ																		
03-1-1-4△	4. 電子スピン共鳴(EPR)分光法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。	薬品分析学(分析科学)Ⅱ	分析科学Ⅱ	薬品分析学Ⅱ	薬品分析学Ⅱ																		
03-1-1-5	5. 分光光度法(紫外分光、可視光二色性測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。	薬品分析学(分析科学)Ⅱ	分析科学Ⅱ	薬品分析学Ⅱ	薬品分析学Ⅱ																		
03-1-1-6△	6. 代表的な生体分子(核酸、タンパク質)の場および蛍光スペクトル測定し、構造と関連性について説明できる。(知識・技能)	薬品分析学(分析科学)Ⅱ	分析科学Ⅱ	薬品分析学Ⅱ	薬品分析学Ⅱ																		
03-1-2-1	1. 核磁気共鳴(NMR)測定法の原理を説明できる。	薬品分析学(分析科学)Ⅱ	分析科学Ⅱ	薬品分析学Ⅱ	薬品分析学Ⅱ																		
03-1-2-2	2. 生体分子の解析への核磁気共鳴(NMR)測定法の応用例について説明できる。	薬品分析学(分析科学)Ⅱ	分析科学Ⅱ	薬品分析学Ⅱ	薬品分析学Ⅱ																		
03-1-3-1	1. 質量分析法の原理を説明できる。	薬品分析学(分析科学)Ⅱ	分析科学Ⅱ	薬品分析学Ⅱ	薬品分析学Ⅱ																		
03-1-3-2△	2. 生体分子の解析への質量分析の応用例について説明できる。	薬品分析学(分析科学)Ⅱ	分析科学Ⅱ	薬品分析学Ⅱ	薬品分析学Ⅱ																		
03-1-4-1	1. X線結晶解析の原理を説明できる。	薬品分析学(分析科学)Ⅱ	分析科学Ⅱ	薬品分析学Ⅱ	薬品分析学Ⅱ																		
03-1-4-2△	2. 生体分子の解析へのX線結晶解析の応用例について説明できる。	薬品分析学(分析科学)Ⅱ	分析科学Ⅱ	薬品分析学Ⅱ	薬品分析学Ⅱ																		
03-1-5-1△	1. 生体分子間相互作用の解析法を概説できる。	薬品分析学Ⅰ																					

大項目	中項目	小項目	科目	SBO番号	行動目標	主責任科目	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次					
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
							担当科目名	担当科目名	担当科目名	担当科目名	担当科目名	担当科目名	担当科目名	担当科目名	担当科目名	担当科目名	担当科目名	担当科目名				
G 薬学専門課程 有機化学薬理学と薬学	② 立体分子の立体構造と相互作用	① 立体分子の立体構造	【立体構造】	003-2-1-1	1. 生体分子(タンパク質、核酸、脂質など)の立体構造を概説できる。	生物化学Ⅰ	生物化学Ⅰ															
				003-2-1-2	2. タンパク質の立体構造の自由度について概説できる。	生物化学Ⅰ	生物化学Ⅰ															
				003-2-1-3	3. タンパク質の立体構造を決定する因子(疎水性相互作用、静電相互作用、水素結合など)について、具体例を用いて説明できる。	生物化学Ⅰ	生物化学Ⅰ	コンピュータ化学														
				003-2-1-4	4. タンパク質の折りたたみ過程について概説できる。	生物化学Ⅰ	生物化学Ⅰ	コンピュータ化学														
				003-2-1-5	5. 核酸の立体構造を決定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。	生物化学Ⅰ	生物化学Ⅰ	コンピュータ化学														
				003-2-1-6	6. 生体膜の立体構造を決定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。	生物化学Ⅲ	生物化学Ⅲ	生物化学Ⅲ														
				003-2-2-1	② 置換反応機構	生物化学Ⅰ	生物化学Ⅰ	生物化学Ⅲ														
				003-2-2-2	③ 脱離反応機構	生物化学Ⅰ	生物化学Ⅰ	生物化学Ⅲ														
				003-2-2-3	④ 置換反応機構	生物化学Ⅰ	生物化学Ⅰ	生物化学Ⅲ														
				003-2-2-4	⑤ 脱離反応機構	生物化学Ⅰ	生物化学Ⅰ	生物化学Ⅲ														
				004-1-1-1	① 基本的な化合物を命名し、ルイス構造式を書くことができる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ														
				004-1-1-2	② 薬学領域で用いられる代表的な化合物を用いて説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ														
				004-1-1-3	③ 有機化合物の性質に及ぼす共鳴の影響について説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ														
				004-1-1-4	④ 有機反応における錯合の形成と生成の機構について説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ														
				004-1-1-5	⑤ 基本的な有機反応(置換、付加、脱離、転位)の特徴を概説できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ														
				004-1-1-6	⑥ ルイス酸・塩基反応を挙げて説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ														
				004-1-1-7	⑦ 炭素原子を中心とした中間体(カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル、カルベンの)の構造と性質を説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ														
				004-1-1-8	⑧ 反応の進行を、エネルギー図を用いて説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ														
				004-1-1-9	⑨ 有機反応を、電子の動きを示す矢印を用いて説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ														
004-1-2-1	① 構造異性体と立体異性体について説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ																		
004-1-2-2	② 手性分子の光学活性について説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ																		
004-1-2-3	③ エナンチオマーとジアステロマーについて説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ																		
004-1-2-4	④ ラセミ体とメソ体について説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ																		
004-1-2-5	⑤ 確率配置の表示法を説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ																		
004-1-2-6	⑥ Fischer投影式とNewman投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ																		
004-1-2-7	⑦ エタンおよびブタンの立体配座と安定性について説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ																		
004-1-3-1	① 代表的な有機分子を挙げて、その性質を説明できる。	無機化学Ⅱ	無機化学Ⅱ	無機化学Ⅱ																		
004-1-3-2	② 代表的な無機分子を挙げて、その性質を説明できる。	無機化学Ⅱ	無機化学Ⅱ	無機化学Ⅱ																		
004-1-3-3	③ 有機金属化合物の名称、構造、性質を列挙できる。	無機化学Ⅱ	無機化学Ⅱ	無機化学Ⅱ																		
004-1-3-4	④ イオン、リン、ハロゲン、有機化合物の名称、構造、性質を列挙できる。	無機化学Ⅱ	無機化学Ⅱ	無機化学Ⅱ																		
004-1-3-5	⑤ 代表的な無機薬品を列挙できる。	無機化学Ⅱ	無機化学Ⅱ	無機化学Ⅱ																		
004-1-4-1	① 代表的な錯体の名称、立体構造、基本的性質を説明できる。	無機化学Ⅱ	無機化学Ⅱ	無機化学Ⅱ																		
004-1-4-2	② 配位結合を説明できる。	無機化学Ⅱ	無機化学Ⅱ	無機化学Ⅱ																		
004-1-4-3	③ 代表的なドナー原子、配位基、キレート試薬を列挙できる。	無機化学Ⅱ	無機化学Ⅱ	無機化学Ⅱ																		
004-1-4-4	④ 錯体の安定性について説明できる。	無機化学Ⅱ	無機化学Ⅱ	無機化学Ⅱ																		
004-1-4-5	⑤ 錯体の安定性について説明できる。	無機化学Ⅱ	無機化学Ⅱ	無機化学Ⅱ																		
004-1-4-6	⑥ 錯体の反応性について説明できる。	無機化学Ⅱ	無機化学Ⅱ	無機化学Ⅱ																		
004-1-4-7	⑦ 錯体として用いられる代表的な錯体を列挙できる。	無機化学Ⅱ	無機化学Ⅱ	無機化学Ⅱ																		
004-2-1-1	① 基本的な酸化還元反応を列挙し、その反応機構を説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ																		
004-2-1-2	② アルカンの基本的な反応性について説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ																		
004-2-1-3	③ アルカンの構造異性を説明し、その数を示すことができる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ																		
004-2-1-4	④ シクロアルカンの環の歪みを決定する要因について説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ																		
004-2-1-5	⑤ シクロヘキサンの1,4-置換と1,3-置換を説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ																		
004-2-1-6	⑥ シクロヘキサンの1,4-置換と1,3-置換による水素の結合方向(アキアール、エクリアル)を説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ																		
004-2-1-7	⑦ 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ																		
004-2-2-1	① アルケンへの代表的な付加反応を列挙し、反応機構を説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ																		
004-2-2-2	② アルケンへの臭素の付加反応の機構を説明し、反応の立体特性性(アンチ付加)を説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ																		
004-2-2-3	③ アルケンへのハロゲン化反応の位置選択性(Markovnikov則)について説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ																		
004-2-2-4	④ カルボキシル基の酸化と還元について説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ																		
004-2-2-5	⑤ 共役ジエンへのハロゲンの付加反応の特長について説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ																		
004-2-2-6	⑥ アルケンの酸化反応を列挙し、構造解析への応用について説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ																		
004-2-2-7	⑦ アルケンの代表的な付加反応を列挙し、その物性と反応性を説明できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅰ																		
004-2-3-1	① 代表的な芳香族化合物を列挙し、その物性と反応性を説明できる。	有機化学Ⅱ	有機化学Ⅱ	有機化学Ⅱ																		

大項目	中項目	小項目	項目	薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)			1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次																		
				主責任科目	行動目標	SBO番号	後期 履修科目名	前期 履修科目名	後期 履修科目名	前期 履修科目名	後期 履修科目名	後期 履修科目名	前期 履修科目名	後期 履修科目名	後期 履修科目名	前期 履修科目名	後期 履修科目名	前期・後期 履修科目名	前期・後期 履修科目名																
①薬の 基礎と 天然 物の	中項目	小項目	項目	薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)	主責任科目	行動目標	SBO番号	後期 履修科目名	前期 履修科目名	後期 履修科目名	前期 履修科目名	後期 履修科目名	後期 履修科目名	前期 履修科目名	後期 履修科目名	前期・後期 履修科目名	前期・後期 履修科目名	医薬化学Ⅰ																	
																		3. 分子構造、コンピュータネットワークなどを用いて化学物質の立体構造を示すことができる。(技能)	医薬化学Ⅰ																
																		1. カチオン・アニオン対の医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。	医薬化学Ⅰ																
																		2. アセチルコリン受容体の医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。	医薬化学Ⅰ																
																		3. ステロイドアミノ糖の医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。	医薬化学Ⅰ																
																		4. 核酸アミノ糖の医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。	医薬化学Ⅰ																
																		5. ペプチドアミノ糖の医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。	医薬化学Ⅰ																
																		1. アルキル化剤とDNA塩基の反応を説明できる。	医薬化学Ⅰ																
																		2. インターカレーター作用機序を明示し、説明できる。	医薬化学Ⅰ																
																		3. β-ラクタムを持つ医薬品の作用機序を化学的に説明できる。	医薬化学Ⅰ																
																		1. 代表的な生薬を列挙し、その特徴を説明できる。	生薬Ⅰ																
																		2. 生薬の産地について説明できる。	生薬Ⅰ																
																		3. 生薬の生産と流通について説明できる。	生薬Ⅰ																
																		1. 代表的な薬用植物の形態を観察する。(技能)	薬用植物学	生薬Ⅰ															
																		2. 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを列挙できる。	薬用植物学	生薬Ⅰ															
																		3. 代表的な生薬の産地と基原植物の関係について、具体例を挙げて説明できる。	薬用植物学	生薬Ⅰ															
																		4. 代表的な薬用植物を形態が似ている植物と区別できる。(技能)	薬用植物学	生薬Ⅰ															
																		5. 代表的な薬用植物に含有される薬効成分を説明できる。	薬用植物学	生薬Ⅰ															
1. 動物、植物由来の医薬品について具体例を挙げて説明できる。	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ																		
2. 代表的な生薬成分を化学構造から分類し、それらの生合成経路を解説できる。	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ																		
3. 代表的なナルペンタイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることをできる。	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ																		
4. 代表的なトリテルペノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることをできる。	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ																		
5. 代表的なフラボノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることをできる。	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ																		
6. 代表的なフェニルプロパノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることをできる。	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ																		
7. 代表的なポリケチドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることをできる。	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ																		
1. 天然物質の薬理、毒性などの原料としての有用性について、具体例を挙げて説明できる。	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ																		
1. 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ																		
2. 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ																		
3. 代表的な生薬の薄層試験を実施できる。(技能)	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ																		
4. 代表的な生薬の純度試験を実施できる。(技能)	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ																		
5. 生薬の固形と品質試験法について説明できる。(技能)	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ	生薬Ⅰ																		
1. 医薬品として使われている天然有機化合物およびその誘導体。具体例を挙げて説明できる。	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ																		
2. シーンズの原料に貢献してきた伝統医学、民族植物学を例示して説明できる。	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ	生薬Ⅱ																		

大項目	中項目	小項目	項目	主要科目		1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次							
				前期 履修科目名	後期 履修科目名	前期 履修科目名	後期 履修科目名	前期 履修科目名	後期 履修科目名	前期 履修科目名	後期 履修科目名	前期 履修科目名	後期 履修科目名	前期 履修科目名	後期 履修科目名	前期 履修科目名	後期 履修科目名						
薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)	小項目 薬部	行動目標	SBO番号	【ホルモンによる調節機構】	08-3-1-3	3. 甲状腺、副甲状腺、副腎皮質の代表的なホルモンを列挙し、概略的にその調節機構を説明できる。	生理学	生理学	生理学	生理学													
					08-3-1-4	4. 甲状腺の調節機構を説明できる。	生理学	生理学	生理学	生理学	人体解剖学												
					08-3-2-1	1. 主要なホルモンの分泌機構および作用機構を説明できる。	生理学	生理学	生理学	生理学													
					08-3-2-2	2. 血中の調節機構を説明できる。	生理学	生理学	生理学	生理学													
					08-3-3-1	1. 血圧の調節機構を説明できる。	生理学	生理学	生理学	生理学													
					08-3-3-2	2. 肺および組織におけるガス交換を説明できる。	生理学	生理学	生理学	生理学													
					08-3-3-3	3. 血液凝固・纤溶系の調節を説明できる。	生理学	生理学	生理学	生理学													
					08-3-4-1	1. 体温の調節機構を説明できる。	生理学	生理学	生理学	生理学													
					08-3-4-2	2. 体温の調節機構を説明できる。	生理学	生理学	生理学	生理学													
					08-3-5-1	1. 消化・吸収における胃酸分泌の調節について説明できる。	生理学	生理学	生理学	生理学													
					08-3-5-2	2. 消化・吸収におけるホルモンの役割について説明できる。	生理学	生理学	生理学	生理学													
					08-3-6-1	1. 体温の調節機構を説明できる。	生理学	生理学	生理学	生理学													
					08-4-1-1	1. 生体系の中での微生物の役割について説明できる。	微生物学	微生物学	微生物学	微生物学													
					08-4-1-2	2. 病原微生物と宿主生物の関わりを説明できる。	微生物学	微生物学	微生物学	微生物学													
					08-4-2-1	1. 細菌の構造と増殖機構を説明できる。	微生物学	微生物学	微生物学	微生物学													
					08-4-2-2	2. 細菌の系統的分類について説明でき、主な細菌を列挙できる。	微生物学	微生物学	微生物学	微生物学													
					08-4-2-3	3. グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌の違いを説明できる。	微生物学	微生物学	微生物学	微生物学													
					08-4-2-4	4. マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、スピロヘータ、放線菌についてその特性を説明できる。	微生物学	微生物学	微生物学	微生物学													
					08-4-2-5	5. 菌内細菌の役割について説明できる。	微生物学	微生物学	微生物学	微生物学													
					08-4-2-6	6. 細菌の遺伝子伝達(接合、形質転換)について説明できる。	微生物学	微生物学	微生物学	微生物学													
					08-4-3-1	1. 代表的な細菌毒素の作用を説明できる。	微生物学	微生物学	微生物学	微生物学													
					08-4-4-1	1. 代表的なウイルスの構造と増殖過程を説明できる。	微生物学	微生物学	微生物学	微生物学													
					08-4-4-2	2. ウイルスの分類法について説明できる。	微生物学	微生物学	微生物学	微生物学													
					08-4-4-3	3. 代表的な動物ウイルスの培養法、定数法について説明できる。	微生物学	微生物学	微生物学	微生物学													
					08-4-5-1	1. 主要な菌の性状について説明できる。	微生物学	微生物学	微生物学	微生物学													
					08-4-5-2	2. 主要な菌の性状について説明できる。	微生物学	微生物学	微生物学	微生物学													
					08-4-6-1	1. 蒸気、消毒、防腐および殺菌、幹菌の概念を説明できる。	微生物学	微生物学	微生物学	微生物学													
					08-4-6-2	2. 主な消毒薬を適切に使用する。(技能・態度)	微生物学系実習	微生物学系実習	微生物学系実習	微生物学系実習													
08-4-6-3	3. 主な滅菌法を実施できる。(技能)	微生物学系実習	微生物学系実習	微生物学系実習	微生物学系実習																		
08-4-7-1	1. グラム染色法を実施できる。(技能)	微生物学系実習	微生物学系実習	微生物学系実習	微生物学系実習																		
08-4-7-2	2. 無菌操作を実施できる。(技能)	微生物学系実習	微生物学系実習	微生物学系実習	微生物学系実習																		
08-4-7-3	3. 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)	微生物学系実習	微生物学系実習	微生物学系実習	微生物学系実習																		
08-4-7-4	4. 細菌の測定に用いる代表的な試験法(生化学的試験法、血清型別試験、分子生物学的試験)について説明できる。	微生物学	微生物学	微生物学	微生物学																		
08-4-7-5	5. 代表的な細菌を測定できる。(技能)	微生物学系実習	微生物学系実習	微生物学系実習	微生物学系実習																		
08-1-1-1	1. 脂質を分離し、構造の相違と役割を説明できる。	基礎生物学 I	基礎生物学 I	基礎生物学 I	基礎生物学 I																		
08-1-1-2	2. 脂質の役割と役割を説明できる。	基礎生物学 I	基礎生物学 I	基礎生物学 I	基礎生物学 I																		
08-1-1-3	3. 脂質の生合成経路を説明できる。	基礎生物学 I	基礎生物学 I	基礎生物学 I	基礎生物学 I																		
08-1-1-4	4. コレスチロールの生合成経路と代謝を説明できる。	基礎生物学 I	基礎生物学 I	基礎生物学 I	基礎生物学 I																		
08-1-2-1	1. グルコースの構造、性質、役割を説明できる。	生物学 I	生物学 I	生物学 I	生物学 I																		
08-1-2-2	2. グルコース以外の代表的な単糖、および二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生物学 I	生物学 I	生物学 I	生物学 I																		
08-1-2-3	3. 代表的な多糖の構造と役割を説明できる。(技能)	生物学 I	生物学 I	生物学 I	生物学 I																		
08-1-2-4	4. 糖質の定性および定量試験を実施できる。(技能)	生物学 I	生物学 I	生物学 I	生物学 I																		
08-1-3-1	1. アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	生物学 I	生物学 I	生物学 I	生物学 I																		
08-1-3-2	2. アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝について説明できる。	生物学 I	生物学 I	生物学 I	生物学 I																		
08-1-3-3	3. アミノ酸の定性および定量試験法を実施できる。(技能)	生物学 I	生物学 I	生物学 I	生物学 I																		
08-1-4-1	1. 水溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質、補酵素や輔因子として関与する生体内反応について説明できる。	生物学 I	生物学 I	生物学 I	生物学 I																		
08-1-4-2	2. 脂溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質と生理機能を説明できる。	生物学 I	生物学 I	生物学 I	生物学 I																		
08-1-4-3	3. ビタミンの欠乏による症状を説明できる。	生物学 I	生物学 I	生物学 I	生物学 I																		
08-2-1-1	1. 核酸の構造(生合成と分解)を説明できる。	基礎生物学 II	基礎生物学 II	基礎生物学 II	基礎生物学 II																		
08-2-1-2	2. DNAの構造について説明できる。	基礎生物学 II	基礎生物学 II	基礎生物学 II	基礎生物学 II																		
08-2-1-3	3. RNAの構造について説明できる。	基礎生物学 II	基礎生物学 II	基礎生物学 II	基礎生物学 II																		
08-2-2-1	1. 遺伝子発現に関するセントラルドグマについて説明できる。	基礎生物学 II	基礎生物学 II	基礎生物学 II	基礎生物学 II																		
08-2-2-2	2. DNA鎖とRNA鎖の類似点と相違点を説明できる。	基礎生物学 II	基礎生物学 II	基礎生物学 II	基礎生物学 II																		
08-2-2-3	3. タンパク質の構造を説明できる。	基礎生物学 II	基礎生物学 II	基礎生物学 II	基礎生物学 II																		
08-2-2-4	4. 染色体の構造を説明できる。	基礎生物学 II	基礎生物学 II	基礎生物学 II	基礎生物学 II																		
08-2-2-5	5. 遺伝子の構造に関する基本的用語(プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど)を説明できる。	基礎生物学 II	基礎生物学 II	基礎生物学 II	基礎生物学 II																		

大項目	中項目	小項目	項目	薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)			1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次						
				SBO番号	行動目標	主責任科目	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
							履修科目名	履修科目名	履修科目名	履修科目名	履修科目名	履修科目名	履修科目名	履修科目名	履修科目名	履修科目名	履修科目名	履修科目名	履修科目名	履修科目名	履修科目名		
C 薬学専攻 【健康と環境】	C11 薬と栄養	C11-1-1	【感染症の予防】 【栄養素】	010-2-3-2	3. 主成分の生合成、不活化ワクラン、トキソイド、混合ワクチンについて基本的な特長を説明できる。	生体防御機能学Ⅱ	東(動物学)	東(動物学)	生体防御機能学Ⅱ	生体防御機能学Ⅱ													
				010-2-3-3	3. 予防後継に於いて、その種類と輸送状態を説明できる。	生体防御機能学Ⅱ																	
				010-2-4-1A	1. モノクローナル抗体とポリクローナル抗体の作製方法を説明できる。	生体防御機能学Ⅰ						生体防御機能学Ⅰ	生体防御機能学Ⅰ										
				010-2-4-2	2. 抗原抗体反応を利用した代表的な検査方法を説明できる。	生体防御機能学Ⅰ						生体防御機能学Ⅰ	生体防御機能学Ⅰ										
				010-2-4-3A	3. 沈降、凝集反応を利用して抗原を検出できる。(技能)	医療薬学実習Ⅰ						医療薬学実習Ⅰ	医療薬学実習Ⅰ										
				010-2-4-4A	4. ELISA法、ウェスタンブロット法などを用いて抗原を検出する。(技能)	医療薬学実習Ⅰ						医療薬学実習Ⅰ	医療薬学実習Ⅰ										
				010-3-1-1	1. 主要DNAウイルス(Δサイトメガロウイルス、ΔEBウイルス、トヘルベスウイルス、Δアデノウイルス、ΔパルボウイルスB19、B型肝炎ウイルス)が引き起こす代表的な疾患について概説できる。	微生物学						微生物学											
				010-3-1-2	2. 主要RNAウイルス(ポリオウイルス、Δコクサッキーウイルス、エイズウイルス、Δライノウイルス、Δ型肺炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、エボラウイルス、Δ麻疹ウイルス、Δメンプスウイルス)が引き起こす代表的な疾患について概説できる。	微生物学						微生物学											
				010-3-1-3	3. レトロウイルス(HIV、HTLV)が引き起こす疾患について概説できる。	微生物学						微生物学											
				010-3-1-4	4. グラム陰性球菌(ブドウ球菌、レンサ球菌)の細菌学的特徴とそれらが引き起こす代表的な疾患について概説できる。	微生物学						微生物学											
				010-3-1-5	5. グラム陰性球菌(淋菌、Δ菌類(糸菌))の細菌学的特徴とそれらが引き起こす代表的な疾患について概説できる。	微生物学						微生物学											
				010-3-1-6	6. グラム陰性球菌(結核菌、Δカス菌類、ボツリヌス菌、Δジフテリア菌、Δ炭疽菌)の細菌学的特徴とそれらが引き起こす代表的な疾患について概説できる。	微生物学						微生物学											
				010-3-1-7	7. グラム陰性球菌(大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、Δ肺炎球菌、Δ腸球菌、腸炎短棒状菌、腸炎コリネバクテリウム、Δシジモネラ菌、Δロブロエラ菌)の細菌学的特徴とそれらが引き起こす代表的な疾患について概説できる。	微生物学						微生物学											
				010-3-1-8	8. グラム陰性球菌(スピリillum属病原菌(ヘリコバクター・ピロリ菌)の細菌学的特徴とそれらが引き起こす代表的な疾患について概説できる。	微生物学						微生物学											
				010-3-1-9	9. 抗酸菌(結核菌、非定型抗酸菌)の細菌学的特徴とそれらが引き起こす代表的な疾患について概説できる。	微生物学						微生物学											
				010-3-1-10	10. スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの微生物学的特徴とそれらが引き起こす代表的な疾患について概説できる。	微生物学						微生物学											
				010-3-1-11	11. 真菌(アスペルギルス、クリプトコッカス、カンジダ、Δムコール)の微生物学的特徴とそれらが引き起こす代表的な疾患について概説できる。	微生物学						微生物学											
				010-3-1-12	12. 代表的な原虫、寄生虫の代表的な疾患について概説できる。	微生物学						微生物学											
				010-3-1-13	13. プリオン感染症の病原体の特徴と発症機序について概説できる。	微生物学						微生物学											
				010-3-2-1	1. 腸内感染について、発生源、感染経路、原因微生物、およびその防止が概説できる。	微生物学						微生物学											
011-1-1-1	1. 栄養素(三大栄養素、ビタミン、ミネラル)を列挙し、それぞれの役割について説明できる。	衛生薬学Ⅰ						衛生薬学Ⅰ															
011-1-1-2	2. 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。	衛生薬学Ⅰ						衛生薬学Ⅰ															
011-1-1-3	3. 腸胃の体内運搬における血漿リポタンパク質の栄養学的意義を説明できる。	衛生薬学Ⅰ						衛生薬学Ⅰ															
011-1-1-4	4. 食品中のタンパク質の栄養学的意義(栄養価)を説明できる。	衛生薬学Ⅰ						衛生薬学Ⅰ															
011-1-1-5	5. エネルギー代謝に関与する基質代謝量、呼吸商、エネルギー消費量の概説ができる。	衛生薬学Ⅰ						衛生薬学Ⅰ															
011-1-1-6	6. 栄養素の栄養的要素の重要性について説明できる。	衛生薬学Ⅰ						衛生薬学Ⅰ															
011-1-1-7	7. 日本における栄養摂取の現状と問題点について説明できる。	衛生薬学Ⅰ						衛生薬学Ⅰ															
011-1-1-8	8. 栄養素の過不足による主な疾患を列挙し、説明できる。	衛生薬学Ⅰ						衛生薬学Ⅰ															
011-1-2-1	1. 食品が醸成する機能について説明できる。	衛生薬学Ⅰ						衛生薬学Ⅰ															
011-1-2-2	2. 油脂が醸成する機能を説明し、油脂の質的試験を実施できる。(知識・技能)	衛生薬学Ⅰ						衛生薬学Ⅰ															
011-1-2-3	3. 食品の塩味を引き起こす主な成分とその機能を説明できる。	衛生薬学Ⅰ						衛生薬学Ⅰ															
011-1-2-4	4. 食品の着色剤の発色(保存法)を説明できる。	衛生薬学Ⅰ						衛生薬学Ⅰ															
011-1-2-5	5. 食品成分由来の死か物質を列挙し、その生成機構を説明できる。	衛生薬学Ⅰ						衛生薬学Ⅰ															
011-1-2-6	6. 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。	衛生薬学Ⅰ						衛生薬学Ⅰ															
011-1-2-7	7. 食品添加物の法的規制と問題点について説明できる。	衛生薬学Ⅰ						衛生薬学Ⅰ															
011-1-2-8A	8. 主な食品添加物の試験法を実施できる。(技能)	衛生薬学Ⅰ						衛生薬学Ⅰ															
011-1-2-9	9. 代表的な保健機能食品を列挙し、その特徴を説明できる。	衛生薬学Ⅰ						衛生薬学Ⅰ															
011-1-2-10	10. 遺伝子組換え食品の現状を説明し、その問題点について討議する。(知識・態度)	衛生薬学Ⅰ						衛生薬学Ⅰ															
011-1-3-1	1. 食中毒の種類を列挙し、発生状況を説明できる。	衛生薬学Ⅱ						衛生薬学Ⅱ															
011-1-3-2	2. 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。	衛生薬学Ⅱ						衛生薬学Ⅱ															

大項目	中項目	小項目	項目	薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)					1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次					
				主責任科目	行動目標	SBO番号	前期 履修科目名	後期 履修科目名																
① 社会集団と健康			【課題設計】 お茶、集団と健康	原因となる自然毒を列挙し、その原因物質・作用機構、発症の機序を説明できる。	O11-1-3-3	衛生薬学Ⅱ																		
				代表的なマイコトキシンを列挙し、それによる健康障害について概説できる。	O11-1-3-4	衛生薬学Ⅰ																		
				化学物質(重金属、残留農薬など)による食品汚染の具体例を挙げ、その健康に及ぼす影響を説明できる。	O11-1-3-5	衛生薬学Ⅰ																		
				集団の健康と疾病の現状を把握する上で的人口統計の意義を概説できる。	O11-2-1-1	衛生薬学Ⅱ																		
				人口動態と人口動態について説明できる。	O11-2-1-2	衛生薬学Ⅱ																		
				人口動態の目的と意義を説明できる。	O11-2-1-3	衛生薬学Ⅱ																		
				人口の将来予測に必要な指標を列挙し、その意義について説明できる。	O11-2-1-4	衛生薬学Ⅱ																		
				人口の将来予測に必要な指標を列挙し、その意義について説明できる。	O11-2-1-5	衛生薬学Ⅱ																		
				死因別死亡率の必要と説明できる。	O11-2-2-1	衛生薬学Ⅱ																		
				日本における人口の推移と将来予測について説明できる。	O11-2-2-2	衛生薬学Ⅱ																		
				高齢化と少子化にもたらされる問題を列挙し、討議する。(知能・健康)	O11-2-2-3	衛生薬学Ⅱ																		
				疾病の予防における疫学の役割を説明できる。	O11-2-3-1	衛生薬学Ⅱ																		
疫学的主要因(病因、環境要因、宿主要因)について説明できる。	O11-2-3-2	衛生薬学Ⅱ																						
疫学の種類(記述疫学、分析疫学など)とその方法について説明できる。	O11-2-3-3	衛生薬学Ⅱ																						
疫学の種類(記述疫学、分析疫学など)とその方法について説明できる。	O11-2-3-4	衛生薬学Ⅱ																						
疫学・疫学研究の方法の概要を説明し、オッズ比を計算できる(知能・健康)	O11-2-3-5	衛生薬学Ⅱ																						
疫学・疫学研究の方法の概要を説明し、相対危険度、寄与危険度を計算できる(知能・健康)	O11-2-3-6	衛生薬学Ⅱ																						
医薬品の作用・副作用の調査における疫学的手法の有用性を概説できる。	O11-2-3-6A	衛生薬学Ⅱ																						
疫学データを解釈する上で注意点を列挙できる。	O11-2-3-7A	衛生薬学Ⅱ																						
健康と疾病の因果関係と、その理由を説明できる。	O11-3-1-1	衛生薬学Ⅱ																						
世界保健機関(WHO)の疫学について概説できる。	O11-3-1-2	衛生薬学Ⅱ																						
疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。	O11-3-2-1	衛生薬学Ⅱ																						
疾病の予防における予防接種の意義について説明できる。	O11-3-2-2	衛生薬学Ⅱ																						
衛生薬学Ⅱ	O11-3-2-3	衛生薬学Ⅱ																						
衛生薬学Ⅱ	O11-3-2-4	衛生薬学Ⅱ																						
現代における感染症(日和見感染、院内感染、国際感染症などの)特徴について説明できる。	O11-3-3-1	衛生薬学Ⅱ																						
新興感染症および再興感染症について代表的な例を挙げて説明できる。	O11-3-3-2	衛生薬学Ⅱ																						
一、二、三期感染症および代表的な四期感染症を列挙し、分期の概観を説明できる。	O11-3-3-3	衛生薬学Ⅱ																						
母子感染する疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。	O11-3-3-4	衛生薬学Ⅱ																						
性行為感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。	O11-3-3-5	衛生薬学Ⅱ																						
予防接種法と接種予防法の定め定期予防接種の種類を挙げ、接種時期などを説明できる。	O11-3-3-6	衛生薬学Ⅱ																						
生活習慣病の種類とその動向について説明できる。	O11-3-4-1	衛生薬学Ⅱ																						
生活習慣病のリスク要因を列挙できる。	O11-3-4-2	衛生薬学Ⅱ																						
食生活と喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて説明できる。	O11-3-4-3	衛生薬学Ⅱ																						
職業病とその	O11-3-5-1	衛生薬学Ⅱ																						
代表的な有害化学物質の吸入、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。	O12-1-1-1	衛生薬学Ⅲ																						
第一相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。	O12-1-1-2	衛生薬学Ⅲ																						
第二相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。	O12-1-1-3	衛生薬学Ⅲ																						
発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。	O12-1-2-1	衛生薬学Ⅲ																						
変異原性試験(Ames試験など)の原理を説明し、実施できる(知能・健康)	O12-1-2-2	衛生薬学Ⅲ																						
発がんのメカニズムとプロモーションについて概説できる。	O12-1-2-3	衛生薬学Ⅲ																						
代表的なDNA損傷因子がDNA損傷因子を挙げ、それらの異常DNA損傷の形成を概説できる。	O12-1-2-4	衛生薬学Ⅲ																						
化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。	O12-1-3-1	衛生薬学Ⅲ																						
肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す主な化学物質を列挙できる。	O12-1-3-2	衛生薬学Ⅲ																						
重金属、農薬、POB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。	O12-1-3-3	衛生薬学Ⅲ																						
重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について、具体例を挙げて説明できる。	O12-1-3-4	衛生薬学Ⅲ																						
毒性試験の意義を評価するのに必要な重・反応関係、閾値、解毒・解毒(NONEL)などについて概説できる。	O12-1-3-5	衛生薬学Ⅲ																						

大項目	中項目	小項目	項目	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
				担当科目名	担当科目名	担当科目名	担当科目名	担当科目名	担当科目名						
薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)	SBO番号	行動目標	主責任科目	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	6. 化学物質の安全摂取量(1日許容摂取量など)について説明できる。	衛生薬学Ⅲ				
										7. 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制(化審法など)を説明できる。	衛生薬学Ⅲ				
										8. 環境ホルモン(内分泌攪乱化学物質)が人の健康に及ぼす影響を説明し、その予防策を提案する(健康)	衛生薬学Ⅲ				
										1. 代表的な中核原因物質の暴露評価方法を説明できる。	衛生薬学Ⅲ				
										2. 化学物質の中毒量、作用器官、中毒症状、救急処置法、解毒法を提案することができる(技能)	衛生薬学Ⅲ				
										1. 人に影響を与える電離放射線の種類を列挙できる。	放射線薬品学・放射線物理学				
										2. 電離放射線曝露における線量と生体損傷の関係を体外被曝と体内被曝とで説明できる。	放射線薬品学・放射線物理学				
										3. 放射線曝露による生体損傷の機序を説明できる。	放射線薬品学・放射線物理学				
										4. 電離放射線の生体影響に変化を及ぼす因子(酸素効果など)について説明できる。	放射線薬品学・放射線物理学				
										5. 電離放射線を制御する方法について概説できる。	放射線薬品学・放射線物理学				
										6. 電離放射線の医療への応用について概説できる。	放射線薬品学・放射線物理学				
										1. 非電離放射線の種類を列挙できる。	衛生薬学Ⅳ				
										2. 紫外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。	衛生薬学Ⅳ				
										3. 紫外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。	衛生薬学Ⅳ				
										1. 地球環境の成り立ちについて概説できる。	衛生薬学Ⅳ				
2. 生態系の構成を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。	衛生薬学Ⅳ														
3. 人の健康と環境の問題の関係を説明できる。	衛生薬学Ⅳ														
4. 地球環境の問題の成因、人に与える影響について説明できる。	衛生薬学Ⅳ														
5. 食物連鎖を介した化学物質の生物濃縮について具体例を挙げて説明できる。	衛生薬学Ⅳ														
6. 1日許容摂取量の環境汚染物質と人の健康への影響について例を挙げて説明できる。	衛生薬学Ⅳ														
7. 環境中に存在する主な放射線核種(天然、人工)を挙げ、人の健康への影響について説明できる。	衛生薬学Ⅳ														
1. 尿水の種類を挙げ、特徴を説明できる。	衛生薬学Ⅱ														
2. 水の浄化法について説明できる。	衛生薬学Ⅱ														
3. 水の浄化法の原理と問題点について説明できる。	衛生薬学Ⅱ														
4. 水遊水の浄化法を列挙し、測定できる。(知識・技能)	衛生薬学Ⅱ														
5. 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。	衛生薬学Ⅱ														
6. 水質汚濁の主な指標を水域ごとに列挙し、その意味を説明できる。	衛生薬学Ⅱ														
7. DO, BOD, CODを測定できる。(技能)	衛生薬学Ⅱ														
8. 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。	衛生薬学Ⅱ														
1. 窒素の成分を説明できる。	衛生薬学Ⅳ														
2. 主な大気汚染物質を列挙し、その種類と発生源について説明できる。	衛生薬学Ⅳ														
3. 主な大気汚染物質の濃度を測定し、健康影響について説明できる。(知識・技能)	衛生薬学Ⅳ														
4. 大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。	衛生薬学Ⅳ														
1. 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)	衛生薬学Ⅳ														
2. 室内環境と健康との関係について説明できる。	衛生薬学Ⅳ														
3. 室内環境の健全のために配慮すべき事項について説明できる。	衛生薬学Ⅳ														
4. シンクハウス症候群について概説できる。	衛生薬学Ⅳ														
1. 廃棄物の種類を列挙できる。	衛生薬学Ⅳ														
2. 廃棄物処理の用語を列挙し、その対策を説明できる。	衛生薬学Ⅳ														
3. 廃棄物処理安全に際しての課題、処理する(技能・態度)	衛生薬学Ⅳ														
4. 2次元・3次元の図面について説明できる。	衛生薬学Ⅳ														
5. PRR法について概説できる。	衛生薬学Ⅳ														
1. 典型公害とその現状、および四六公害について説明できる。	衛生薬学Ⅳ														
2. 環境基本法の理念を説明できる。	衛生薬学Ⅳ														
3. 大気汚染を防止するための法規制について説明できる。	衛生薬学Ⅳ														
4. 水質汚染を防止するための法規制について説明できる。	衛生薬学Ⅳ														
1. 廃棄物の利用と作用の問題を説明できる。	薬効解析学Ⅰ														
2. アラニド・アミノ酸・アミンについて説明できる。	薬効解析学Ⅰ														
3. 薬物の作用を示しくみについて、受容体、酵素およびチャンネルを例に挙げて説明できる。	薬効解析学Ⅰ														

大項目	中項目	小項目	項目	SBO番号	行動目標	主責任科目	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次						
							前期 履修科目名	後期 履修科目名															
薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)	小項目		行動目標	Q13-1-1-4	1. 代表的な薬物投与法を列挙し、刺激あるいは阻害された場合の生理反応を説明できる。	薬効解析学 I		薬効解析学 I	コンピュータ化学														
				Q13-1-1-5	2. 薬物の体内動態に関与する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化された場合の生理反応を説明できる。	薬効解析学 I		薬効解析学 I	コンピュータ化学														
				Q13-1-1-6	3. 薬効に個人差が生じる要因を列挙できる。	薬効解析学 I		薬効解析学 I															
				Q13-1-1-7	7. 代表的な薬物相互作用の機序について説明できる。	薬効解析学 II		薬効解析学 I															
				Q13-1-1-8	8. 薬物貯留性に関する具体的な事例について説明できる。	薬効解析学 II		薬効解析学 I															
				Q13-1-2-1	1. 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬効発現の関わりについて説明できる。	生物薬理学		薬効解析学 I															
				Q13-1-2-2	2. 薬物の代表的な投与方法(剤形、製剤経路)を列挙し、その意義を説明できる。	生物薬理学		薬効解析学 I															
				Q13-1-2-3	3. 薬物の体内動態と製剤が吸収されるまでに受ける変化(破壊、分散、溶解など)を説明できる。	生物薬理学		薬効解析学 I															
				Q13-1-2-4	4. 薬物の生体内分布における循環系の重要性を説明できる。	生物薬理学		薬効解析学 I															
				Q13-1-2-5	5. 生体内の薬物の主要な排泄経路を、物を挙げて説明できる。	生物薬理学		薬効解析学 I															
				Q13-1-3-1	1. 薬物の主作用と副作用(有害作用)、毒性との関連について説明できる。	薬効解析学 I		薬効解析学 I															
				Q13-1-3-2	2. 副作用と有害事象の発現について説明できる。	薬効解析学 I		薬効解析学 I															
				Q13-1-4-1Δ	1. 動物実験における倫理について配慮する。(態度)	医薬薬学系実習 II		薬効解析学 II															
				Q13-1-4-2Δ	2. 代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)	医薬薬学系実習 II		薬効解析学 II															
				Q13-1-4-3Δ	3. 実験動物での代表的な薬物投与方法を説明できる。(技能)	医薬薬学系実習 II		薬効解析学 II															
				Q13-2-1-1	1. 代表的な全身麻酔薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	薬効解析学 II		薬効解析学 II															
				Q13-2-1-2	2. 代表的な鎮痛薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	薬効解析学 II		薬効解析学 II															
				Q13-2-1-3	3. 代表的な抗がん剤を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	薬効解析学 II		薬効解析学 II															
				Q13-2-1-4	4. 代表的な中枢神経薬(てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病など)の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	薬効解析学 II		薬効解析学 II															
Q13-2-1-5	5. 代表的な精神疾患(統合失調症、うつ病など)の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	薬効解析学 II		薬効解析学 II																			
Q13-2-1-6Δ	6. 中枢神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能)	医薬薬学系実習 II		薬効解析学 II																			
Q13-2-2-1	1. 交感神経系に作用し、その支配器の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	薬効解析学 I		薬効解析学 I																			
Q13-2-2-2	2. 副交感神経系に作用し、その支配器の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	薬効解析学 I		薬効解析学 I																			
Q13-2-2-3	3. 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	薬効解析学 I		薬効解析学 I																			
Q13-2-2-4Δ	4. 自律神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能)	医薬薬学系実習 II		薬効解析学 II																			
Q13-2-3-1	1. 知覚神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	薬効解析学 II		薬効解析学 II																			
Q13-2-3-2	2. 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	薬効解析学 II		薬効解析学 II																			
Q13-2-3-3Δ	3. 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能)	医薬薬学系実習 II		薬効解析学 II																			
Q13-2-4-1	1. 代表的な抗不整脈薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	薬効解析学 III		薬効解析学 II																			
Q13-2-4-2	2. 代表的な抗血栓薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	薬効解析学 III		薬効解析学 II																			
Q13-2-4-3	3. 代表的な心血管系薬(降圧薬)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	薬効解析学 III		薬効解析学 II																			
Q13-2-4-4	4. 代表的な高血圧治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	薬効解析学 III		薬効解析学 II																			
Q13-2-4-5	5. 代表的な高血圧治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	薬効解析学 III		薬効解析学 II																			
Q13-2-5-1	1. 代表的な呼吸器薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	薬効解析学 III		薬効解析学 II																			
Q13-2-5-2	2. 代表的な趣味・芸術薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	薬効解析学 III		薬効解析学 II																			
Q13-2-5-3	3. 代表的な抗がん剤を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	薬効解析学 III		薬効解析学 II																			
Q13-2-6-1	1. ホルモン分泌薬を用いた代表的な治療薬の薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。	薬効解析学 III		薬効解析学 II																			
Q13-3-1-1	1. ホルモン分泌薬を用いた代表的な治療薬の薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。	内分泌化学		薬効解析学 I																			
Q13-3-1-2	2. 代表的な鎮痛薬(コルチコイド)を用いた代表的な治療薬の薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	内分泌化学		薬効解析学 I																			
Q13-3-1-3	3. 代表的な女性ホルモンを用いた代表的な治療薬の薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	内分泌化学		薬効解析学 I																			
Q13-3-2-1	1. 代表的な胃・十二指腸潰瘍治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	内分泌化学		薬効解析学 I																			
Q13-3-2-2	2. その他の消化器疾患に対する代表的な治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	内分泌化学		薬効解析学 I																			

大項目	中項目	小項目	項目	薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)				主責任科目		1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次					
				SBO番号	行動目標	行動目標	行動目標	行動目標	行動目標	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
【薬に作用する薬】	【血液・造血系に作用する薬】		【薬に作用する薬】	013-3-2-3	3. 代表的な吐瀉薬と嘔吐薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。	内分泌化学																			
				013-3-2-4	4. 代表的な抗腫瘍薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	内分泌化学																			
				013-3-2-5	5. 代表的な抗腫瘍薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	内分泌化学																			
				013-3-3-1	1. 利尿薬を作用機序別に分類し、臨床応用および主な副作用について説明できる。	薬効解析学Ⅱ																			
				013-3-3-4-1	1. 代表的な止血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。	薬効解析学Ⅲ																			
				013-3-3-4-2	2. 代表的な抗血栓薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。	薬効解析学Ⅲ																			
				013-3-3-4-3	3. 代表的な止血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。	薬効解析学Ⅲ																			
				013-3-5-1	1. 代表的な降脂薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。	内分泌化学																			
				013-3-5-2	2. 代表的な降脂薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。	内分泌化学																			
				013-3-5-3	3. 代表的な降脂薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。	内分泌化学																			
				013-3-5-4	4. カルシウム代謝調節-骨代謝に関連する代表的な治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	内分泌化学																			
				013-3-6-1	1. 代表的な女性治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。	薬効解析学Ⅰ																			
				013-3-6-2	2. 副作用調節ワーマチの代表的な治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。	薬効解析学Ⅰ																			
				013-3-6-3	3. アルブミンの代表的な治療薬を挙げ、作用機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。	薬効解析学Ⅰ																			
				013-3-7-1	1. 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。	薬効解析学Ⅱ																			
				【薬物の薬物動態】	【薬物の薬物動態】		【薬物の薬物動態】	013-4-1-1	1. 薬物の主な吸収部位を列挙できる。	生物薬理学															
013-4-1-2	2. 消化管の構造、腸管と薬物の関係を示すことができる。	生物薬理学																							
013-4-1-3	3. 変動脈(重腸脈)と変動脈(軽腸脈)の特徴を説明できる。	生物薬理学																							
013-4-1-4	4. 変動脈の構造を説明できる。	生物薬理学																							
013-4-1-5	5. 非経口投与後の薬物吸収について部位別に説明できる。	生物薬理学																							
013-4-1-6	6. 薬物の吸収に影響する因子を列挙し説明できる。	生物薬理学																							
013-4-2-1	1. 薬物が生体内に取り込まれた後、組織間で濃度差が生じる要因を説明できる。	生物薬理学																							
013-4-2-2	2. 薬物の脳への移行について、その機構と血液・脳関門の意義を説明できる。	生物薬理学																							
013-4-2-3	3. 薬物の胎児への移行について、その機構と血液・胎盤関門の意義を説明できる。	生物薬理学																							
013-4-2-4	4. 薬物の体液中の存在状態(血漿タンパク結合など)を組織への移行と関連づけて説明できる。	生物薬理学																							
013-4-2-5	5. 薬物分布の変動要因(血流量、タンパク結合性、分布容積など)を説明できる。	生物薬理学																							
013-4-2-6	6. 分布容積が示す薬物の性質を列挙できる。	生物薬理学																							
013-4-2-7	7. 代表的な薬物の分布容積を測定できる。(技能)	生物薬理学																							
013-4-3-1	1. 薬物分子の体内での化学的変化とそれが起こる部位を列挙して説明できる。	薬生薬学Ⅲ																							
013-4-3-2	2. 薬物代謝が薬効に及ぼす影響について説明できる。	薬生薬学Ⅲ																							
013-4-3-3	3. 薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素を列挙できる。	薬生薬学Ⅲ																							
013-4-3-4	4. シトクロムP450の構造、性質、反応様式について説明できる。	薬生薬学Ⅲ																							
013-4-3-5	5. 薬物の酸化反応について具体的な例を挙げて説明できる。	薬生薬学Ⅲ																							
013-4-3-6	6. 薬物の還元・加水分解、結合について具体的な例を挙げて説明できる。	薬生薬学Ⅲ																							
013-4-3-7	7. 薬物代謝酵素の変動要因(誘導、阻害、加齢、SNPなど)について説明できる。	薬生薬学Ⅲ																							
013-4-3-8	8. 初回通過効果について説明できる。	生物薬理学																							
013-4-3-9	9. 肝および腸管クリアランスについて説明できる。	生物薬理学																							
【排泄】			【排泄】	013-4-4-1	1. 腎における排泄機構について説明できる。	生物薬理学																			
				013-4-4-2	2. 腎クリアランスについて説明できる。	生物薬理学																			
				013-4-4-3	3. 胆汁中排泄について説明できる。	生物薬理学																			
				013-4-4-4	4. 腸肝循環を説明し、腸肝循環を受ける代表的な薬物を列挙できる。	生物薬理学																			
				013-4-4-5	5. 腸肝循環を説明し、腸肝循環を受ける代表的な薬物を列挙できる。	生物薬理学																			
				013-4-4-6	6. 唾液・乳汁中への排泄について説明できる。	生物薬理学																			
				013-4-4-7	7. 尿中排泄の高い代表的な薬物を列挙できる。	生物薬理学																			
				013-4-4-5-1	1. 薬物動態に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。	生物薬理学																			
				013-4-4-5-2	2. 薬効に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。	生物薬理学																			
				013-5-1-1	1. 薬物動態に関わる代表的なパラメータを列挙し、概説できる。	生物薬理学																			

大項目	項目		1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		
	中項目	小項目	科目	小項目	科目	小項目	科目	小項目	科目	小項目	科目	小項目	科目	小項目	科目
薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)	行動目標	SBO番号	013-5-1-2	2. 薬物の生物学的利用能の意味とその計算方法を説明できる。	生物薬理学	生物薬理学	医療薬学系実習Ⅲ(2)	生物薬理学	薬物動態学	薬物動態学	前期	後期	前期	後期	
		013-5-1-3	3. 線形1-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。(知識・技能)	生物薬理学	生物薬理学	医療薬学系実習Ⅲ(1)	生物薬理学	薬物動態学	薬物動態学	前期	後期	前期	後期	前期	後期
		013-5-1-4Δ	4. 線形2-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。(知識・技能)	生物薬理学	生物薬理学	医療薬学系実習Ⅲ(2)	生物薬理学	薬物動態学	薬物動態学	前期	後期	前期	後期	前期	後期
		013-5-1-5	5. 線形コンパートメントモデルと非線形コンパートメントモデルの違いを説明できる。	生物薬理学	生物薬理学	医療薬学系実習Ⅲ(2)	生物薬理学	薬物動態学	薬物動態学	前期	後期	前期	後期	前期	後期
		013-5-1-6	6. 生物学的半減期を説明し、計算できる。(知識・技能)	生物薬理学	生物薬理学	医療薬学系実習Ⅲ(1)	生物薬理学	薬物動態学	薬物動態学	前期	後期	前期	後期	前期	後期
		013-5-1-7	7. 全身クリアランスについて説明し、計算できる。(知識・技能)	生物薬理学	生物薬理学	医療薬学系実習Ⅲ(1)	生物薬理学	薬物動態学	薬物動態学	前期	後期	前期	後期	前期	後期
		013-5-1-8	8. 非線形性の薬物動態について具体例を挙げて説明できる。	生物薬理学	生物薬理学	医療薬学系実習Ⅲ(2)	生物薬理学	薬物動態学	薬物動態学	前期	後期	前期	後期	前期	後期
		013-5-1-9	9. モデルによらない薬物動態の解析法を列挙し説明できる。	生物薬理学	生物薬理学	医療薬学系実習Ⅲ(2)	生物薬理学	薬物動態学	薬物動態学	前期	後期	前期	後期	前期	後期
		013-5-1-10	10. 薬物の肝および腎クリアランスの計算ができる。(技能)	生物薬理学	生物薬理学	医療薬学系実習Ⅲ(2)	生物薬理学	薬物動態学	薬物動態学	前期	後期	前期	後期	前期	後期
		013-5-1-11	11. 点滴静注の血中濃度計算ができる。(技能)	生物薬理学	生物薬理学	医療薬学系実習Ⅲ(2)	生物薬理学	薬物動態学	薬物動態学	前期	後期	前期	後期	前期	後期
		013-5-1-12	12. 連続投与における血中濃度が計算できる。(技能)	生物薬理学	生物薬理学	医療薬学系実習Ⅲ(2)	生物薬理学	薬物動態学	薬物動態学	前期	後期	前期	後期	前期	後期
		013-5-2-1	1. 治療的薬物モニタリング(TDM)の意義を説明できる。	臨床医薬品治療学Ⅱ	臨床医薬品治療学Ⅱ	医療薬学系実習Ⅲ(1)	臨床医薬品治療学Ⅱ	臨床医薬品治療学Ⅱ	医療薬学系実習Ⅲ(1)	臨床医薬品治療学Ⅱ	臨床医薬品治療学Ⅱ	前期	後期	前期	後期
		013-5-2-2	2. TDMが必要とされる代表的な薬物を列挙できる。	臨床医薬品治療学Ⅱ	臨床医薬品治療学Ⅱ	医療薬学系実習Ⅲ(1)	臨床医薬品治療学Ⅱ	臨床医薬品治療学Ⅱ	医療薬学系実習Ⅲ(1)	臨床医薬品治療学Ⅱ	臨床医薬品治療学Ⅱ	前期	後期	前期	後期
		013-5-2-3Δ	3. 薬物血中濃度の代表的な測定法を薬品別に説明できる。(技能)	臨床医薬品治療学Ⅱ	臨床医薬品治療学Ⅱ	医療薬学系実習Ⅲ(1)	臨床医薬品治療学Ⅱ	臨床医薬品治療学Ⅱ	医療薬学系実習Ⅲ(1)	臨床医薬品治療学Ⅱ	臨床医薬品治療学Ⅱ	前期	後期	前期	後期
013-5-2-4Δ	4. 薬物血中濃度を維持するための投与計画について、薬動的パラメータを用いて説明できる。	臨床医薬品治療学Ⅱ	臨床医薬品治療学Ⅱ	医療薬学系実習Ⅲ(1)	臨床医薬品治療学Ⅱ	臨床医薬品治療学Ⅱ	医療薬学系実習Ⅲ(1)	臨床医薬品治療学Ⅱ	臨床医薬品治療学Ⅱ	前期	後期	前期	後期		
013-5-2-5Δ	5. 代表的な薬物についてモデルパラメータから投与計画をシミュレートできる。(技能)	臨床医薬品治療学Ⅱ	臨床医薬品治療学Ⅱ	医療薬学系実習Ⅲ(1)	臨床医薬品治療学Ⅱ	臨床医薬品治療学Ⅱ	医療薬学系実習Ⅲ(1)	臨床医薬品治療学Ⅱ	臨床医薬品治療学Ⅱ	前期	後期	前期	後期		
014-1-1-1	1. 以下の症状について、生じた原因とそれらを治す代表的な薬物を説明できる。発熱、頭痛、発疹、嘔吐、チアノーゼ、脱水、浮腫、悪心、嘔吐、下痢、腹痛、腰痛、下痢、便秘、顔面腫脹、貧血、出血傾向、胸痛、心悸亢進、動悸、高血圧、低血圧、ショック、呼吸困難、咳、口臭、月経異常、痛み、意識障害、運動障害、知覚障害、記憶障害、しびれ、けいれん、血尿、頻尿、排尿障害、視力障害、聴覚障害、めまい	薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅰ		薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅰ		薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅰ	前期	後期	前期	後期	前期	後期
014-1-2-1	1. 代表的な肝臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。	臨床医薬品治療学Ⅰ	臨床医薬品治療学Ⅰ		臨床医薬品治療学Ⅰ	臨床医薬品治療学Ⅰ		臨床医薬品治療学Ⅰ	臨床医薬品治療学Ⅰ	前期	後期	前期	後期	前期	後期
014-1-2-2	2. 代表的な腎臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。	臨床医薬品治療学Ⅰ	臨床医薬品治療学Ⅰ		臨床医薬品治療学Ⅰ	臨床医薬品治療学Ⅰ		臨床医薬品治療学Ⅰ	臨床医薬品治療学Ⅰ	前期	後期	前期	後期	前期	後期
014-1-2-3	3. 代表的な呼吸器機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。	臨床医薬品治療学Ⅰ	臨床医薬品治療学Ⅰ		臨床医薬品治療学Ⅰ	臨床医薬品治療学Ⅰ		臨床医薬品治療学Ⅰ	臨床医薬品治療学Ⅰ	前期	後期	前期	後期	前期	後期
014-1-2-4	4. 代表的な心臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。	臨床医薬品治療学Ⅰ	臨床医薬品治療学Ⅰ		臨床医薬品治療学Ⅰ	臨床医薬品治療学Ⅰ		臨床医薬品治療学Ⅰ	臨床医薬品治療学Ⅰ	前期	後期	前期	後期	前期	後期
014-1-2-5	5. 代表的な血液および体液濃度検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。	臨床医薬品治療学Ⅰ	臨床医薬品治療学Ⅰ		臨床医薬品治療学Ⅰ	臨床医薬品治療学Ⅰ		臨床医薬品治療学Ⅰ	臨床医薬品治療学Ⅰ	前期	後期	前期	後期	前期	後期
014-1-2-6	6. 代表的な内分泌・代謝疾患に関する検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。	臨床医薬品治療学Ⅰ	臨床医薬品治療学Ⅰ		臨床医薬品治療学Ⅰ	臨床医薬品治療学Ⅰ		臨床医薬品治療学Ⅰ	臨床医薬品治療学Ⅰ	前期	後期	前期	後期	前期	後期
014-1-2-7	7. 発熱時および炎症時に認められる代表的な臨床検査値の異常を述べることができる。	臨床医薬品治療学Ⅰ	臨床医薬品治療学Ⅰ		臨床医薬品治療学Ⅰ	臨床医薬品治療学Ⅰ		臨床医薬品治療学Ⅰ	臨床医薬品治療学Ⅰ	前期	後期	前期	後期	前期	後期
014-1-2-8	8. 慢性腫瘍に関する代表的な臨床検査を列挙し、推測される腫瘍種別を説明できる。	臨床医薬品治療学Ⅰ	臨床医薬品治療学Ⅰ		臨床医薬品治療学Ⅰ	臨床医薬品治療学Ⅰ		臨床医薬品治療学Ⅰ	臨床医薬品治療学Ⅰ	前期	後期	前期	後期	前期	後期
014-1-2-9	9. 尿および粪便を用いた代表的な臨床検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。	臨床医薬品治療学Ⅰ	臨床医薬品治療学Ⅰ		臨床医薬品治療学Ⅰ	臨床医薬品治療学Ⅰ		臨床医薬品治療学Ⅰ	臨床医薬品治療学Ⅰ	前期	後期	前期	後期	前期	後期
014-1-2-10	10. 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、その検査値の臨床的意義を説明できる。	臨床医薬品治療学Ⅰ	臨床医薬品治療学Ⅰ		臨床医薬品治療学Ⅰ	臨床医薬品治療学Ⅰ		臨床医薬品治療学Ⅰ	臨床医薬品治療学Ⅰ	前期	後期	前期	後期	前期	後期
014-1-2-11	11. 代表的なバイタルサインを列挙できる。	臨床検査学Ⅰ	臨床検査学Ⅰ		臨床検査学Ⅰ	臨床検査学Ⅰ		臨床検査学Ⅰ	臨床検査学Ⅰ	前期	後期	前期	後期	前期	後期
014-2-1-1	1. 代表的な経口・経腸吸収における薬物動態と非薬物動態(外科手術、食事療法などの位相づけ)を説明できる。	薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅰ		薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅰ		薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅰ	前期	後期	前期	後期	前期	後期
014-2-1-2	2. 適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断できる。(知識・技能)	薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅰ		薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅰ		薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅰ	前期	後期	前期	後期	前期	後期
014-2-2-1	1. 心臓および血管系における代表的な検査を挙げることができる。	薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅰ		薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅰ		薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅰ	前期	後期	前期	後期	前期	後期
014-2-2-2	2. 腎臓の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅰ		薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅰ		薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅰ	前期	後期	前期	後期	前期	後期
014-2-2-3	3. 心不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅰ		薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅰ		薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅰ	前期	後期	前期	後期	前期	後期
014-2-2-4	4. 高血圧の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅰ		薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅰ		薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅰ	前期	後期	前期	後期	前期	後期

大項目	中項目	小項目	項目	1年次			2年次			3年次			4年次			5年次			6年次							
				前期 担当科目名	後期 担当科目名	前期 担当科目名	後期 担当科目名	前期 担当科目名	後期 担当科目名	前期 担当科目名	後期 担当科目名	前期 担当科目名	後期 担当科目名	前期 担当科目名	後期 担当科目名	前期 担当科目名	後期 担当科目名	前期 担当科目名	後期 担当科目名	前期 担当科目名	後期 担当科目名					
薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)	行動目標	SBO番号	主責任科目	5. 虚血性心疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	薬物治療学 I																					
				6. 以下の疾患について概説できる。 シオン	病態薬学																					
				【血液・造血系の疾患】	1. 血液・造血系における代表的な疾患を挙げることができる。	薬物治療学 II																				
					2. 貧血の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	薬物治療学 II																				
					3. 白血病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	薬物治療学 II																				
					4. 白血病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	薬物治療学 II																				
					5. 以下の疾患について概説できる。血友病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血小板減少症	薬物治療学 II																				
					6. 以下の疾患について概説できる。貧血、十二指腸、小腸、胆道、肝臓、膵臓に代表される疾患を挙げることができる。	薬物治療学 I																				
					7. 消化性潰瘍の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	薬物治療学 I																				
					8. 胆炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	病態薬学																				
					9. 肝炎・肝腫瘍の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	薬物治療学 II																				
					10. 胆石の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	薬物治療学 I																				
					11. 以下の疾患について概説できる。食道癌、胃癌、肝癌、大腸癌、胃癌、膵臓がん、胆管癌、胆石症、虫垂炎、クロン病	薬物治療学 I																				
					12. 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を提案することができる。(技能)	薬物治療学 I																				
				【総合演習】	1. 腎臓および腎臓における代表的な疾患を挙げることができる。	薬物治療学 I																				
					2. 腎不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	薬物治療学 I																				
					3. ホルモン・ビタミン類の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	薬物治療学 I																				
					4. 以下の疾患について概説できる。糸球体腎炎、糖尿病性腎症、慢性腎臓病、急性腎臓病、尿路感染症、尿路結石、腎臓がん	薬物治療学 I																				
					5. 男性および女性生殖機能に関する代表的な疾患を挙げることができる。	薬物治療学 I																				
					6. 前立腺肥大の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	薬物治療学 I																				
7. 以下の疾患について概説できる。前立腺癌、異常な腫瘍、異変部分	薬物治療学 I																									
8. 骨・軟骨・歯肉・子宮頸がんに関する代表的な疾患を挙げることができる。	薬物治療学 II																									
9. 閉経性骨密度低下(骨質減少症、閉経後骨質減少症、骨粗鬆症)の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	薬物治療学 II																									
10. 以下の疾患について概説できる。上気道炎(かぜ症候群)、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、胸腺癌、肺癌、乳癌	薬物治療学 II																									
11. 以下の疾患について概説できる。上気道炎(かぜ症候群)、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、胸腺癌、肺癌、乳癌	薬物治療学 II																									
【内分泌系疾患】	1. ホルモンの産生調節に代表される疾患を挙げることができる。	薬物治療学 I																								
	2. 甲状腺機能亢進症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	薬物治療学 I																								
	3. アドレナリン分泌症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	薬物治療学 I																								
	4. 糖尿病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	薬物治療学 I																								
	5. 以下の疾患について概説できる。上肢小体機能異常症、アルドステロン症、そのほかの内分泌疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	薬物治療学 I																								
	6. 以下の疾患について概説できる。重症筋無力症、脳炎・髄膜炎、線状けいれん、痙攣、一過性脳虚血発作、脳血管性痴呆	薬物治療学 I																								
	7. 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を提案することができる。(技能)	薬物治療学 I																								
	8. 統合失調症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	薬物治療学 I																								
	9. 統合失調症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	薬物治療学 I																								
	10. 統合失調症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	薬物治療学 I																								
	11. 統合失調症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	薬物治療学 I																								

大項目	中項目	小項目	項目	薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)			1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次					
				主責任科目	行動目標	SBO番号	前期 履修科目名	後期 履修科目名	前期・後期 履修科目名	前期・後期 履修科目名	前期・後期 履修科目名	前期・後期 履修科目名										
【医薬品】	【医薬品】	【医薬品】	【医薬品】	3. かつ、腸胃消化管の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	臨床医薬品治療学Ⅰ																	
				4. 以下の疾患について概説できる。神経症、心身症、薬物依存症、アルコール依存症	臨床医薬品治療学Ⅰ																	
				1. 耳鼻咽喉科に関する代表的な疾患を挙げることができる。	薬物治療学Ⅱ																	
				2. めまいの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	薬物治療学Ⅱ																	
				3. 以下の疾患について概説できる。メニエール病、アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎	薬物治療学Ⅱ																	
				2. アトピー性皮膚炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	薬物治療学Ⅱ																	
				4. 以下の疾患について概説できる。帯状疱疹、乾燥性角化症、接触性皮炎、光線過敏症	薬物治療学Ⅱ																	
				1. 眼に関する代表的な疾患を挙げることができる。	薬物治療学Ⅱ																	
				2. 網膜の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	薬物治療学Ⅱ																	
				3. 白内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	薬物治療学Ⅱ																	
				1. 骨・関節に関する代表的な疾患を挙げることができる。	薬物治療学Ⅱ																	
				2. 骨関節炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	薬物治療学Ⅱ																	
				3. 慢性関節リウマチの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	薬物治療学Ⅱ																	
				4. 以下の疾患について概説できる。変形性関節症、骨軟化症	薬物治療学Ⅱ																	
				1. 代表的なアレルギー-免疫に関する疾患を挙げることができる。	薬物治療学Ⅱ																	
				2. アナフィラキシーショックの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	薬物治療学Ⅱ																	
				3. 自己免疫疾患(全身性エリテマトーデスなど)の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	薬物治療学Ⅱ																	
				4. 免疫性血小板減少性紫斑病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	薬物治療学Ⅱ																	
1. 感染症(細菌性)の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	薬物治療学Ⅱ																					
2. 長寿薬に付随する副作用を列挙し、その薬物治療について説明できる。	薬物治療学Ⅱ																					
1. 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を提案することができる。(技能)	薬物治療学Ⅱ																					
【感染症】																						
【抗ウイルス薬】																						
1. 抗ウイルス薬を列挙し、その病態と原因を説明できる。	薬物治療学Ⅱ																					
2. 抗ウイルス薬の作用機序を説明できる。	薬物治療学Ⅱ																					
3. 代表的な抗ウイルス薬の作用機序を説明できる。	薬物治療学Ⅱ																					
4. テトラサイクリン系抗生物質の抗ウイルス作用、有効な感染症を列挙できる。	薬物治療学Ⅱ																					
5. マクロライド系抗生物質の抗ウイルス作用、有効な感染症を列挙できる。	薬物治療学Ⅱ																					
6. アミノグリコシド系抗生物質の抗ウイルス作用、有効な感染症を列挙できる。	薬物治療学Ⅱ																					
7. ペニシリン系抗生物質の抗ウイルス作用、有効な感染症を列挙できる。	薬物治療学Ⅱ																					
8. サルファメドキサゾール(ST合剤を含む)の有効な感染症を列挙できる。	薬物治療学Ⅱ																					
9. 代表的な抗ウイルス薬を列挙し、作用機序を説明できる。	薬物治療学Ⅱ																					
10. 細菌感染症に付随する代表的な生物学的制菌薬を挙げ、その作用機序を説明できる。	薬物治療学Ⅱ																					
11. 代表的な抗生物質の使用上の注意について説明できる。	薬物治療学Ⅱ																					
12. 特徴的な抗生物質・寄生性真菌を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。	薬物治療学Ⅱ																					
1. 代表的な抗真菌薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。	薬物治療学Ⅱ																					
2. 抗ウイルス薬の作用機序を説明できる。	薬物治療学Ⅱ																					
1. 主要な化学療法薬の作用機序を説明できる。	薬物治療学Ⅱ																					
2. 主要な化学療法薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。	薬物治療学Ⅱ																					
1. 悪性腫瘍の病態生理、症状、治療について概説できる。	薬物治療学Ⅱ																					
2. 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置付けについて概説できる。	薬物治療学Ⅱ																					
3. 化学療法薬が有効な悪性腫瘍を、治療例を挙げて説明できる。	薬物治療学Ⅱ																					

大項目	中項目	小項目	薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)					1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次				
			主責科目	行動目標		SBO番号								前期 履修科目名	後期 履修科目名	前期 履修科目名	後期 履修科目名
				前期 履修科目名	後期 履修科目名	前期 履修科目名	後期 履修科目名										
① 薬物送達システム	薬物送達システム	薬物送達システム	放出制御型薬物(徐放性薬物を含む)の利便性について説明できる	1. 放出制御型薬物の利便性について説明できる	1. 放出制御型薬物の利便性について説明できる	薬理学											
				2. 代表的な放出制御型薬物を列挙できる	2. 代表的な放出制御型薬物を列挙できる	薬理学											
				3. 代表的な放出制御型薬物における徐放化の手段について説明できる	3. 代表的な放出制御型薬物における徐放化の手段について説明できる	薬理学											
				4. 放出制御型薬物に用いられる賦形剤の種類と性質について説明できる	4. 放出制御型薬物に用いられる賦形剤の種類と性質について説明できる	薬理学											
				5. 賦形剤と薬物の相互作用について説明できる	5. 賦形剤と薬物の相互作用について説明できる	薬理学											
				6. 賦形剤の種類と利便性について説明できる	6. 賦形剤の種類と利便性について説明できる	薬理学											
				7. ターゲティングの重要性について説明できる	7. ターゲティングの重要性について説明できる	薬理学											
				8. 代表的なドラッグキャリアーを列挙し、そのメカニズムを説明できる	8. 代表的なドラッグキャリアーを列挙し、そのメカニズムを説明できる	薬理学											
				9. 代表的なプロドラッグを列挙し、そのメカニズムと利便性について説明できる	9. 代表的なプロドラッグを列挙し、そのメカニズムと利便性について説明できる	薬理学											
				10. 代表的な生体膜透過促進剤について説明できる	10. 代表的な生体膜透過促進剤について説明できる	薬理学											
				11. 医薬品開発計画に考慮すべき因子を列挙できる	11. 医薬品開発計画に考慮すべき因子を列挙できる	医薬品開発学											
				12. 疫学統計により示される日本の疾病の特徴について説明できる	12. 疫学統計により示される日本の疾病の特徴について説明できる	医薬品開発学											
				13. 医薬品市場と医薬品開発	1. 医薬品市場と医薬品開発	医薬品開発学											
② 医薬品開発と創薬の利便性	医薬品開発と創薬の利便性	創薬の利便性	創薬の利便性	1. 創薬の利便性	1. 創薬の利便性	医薬品開発学											
				2. 創薬の利便性	2. 創薬の利便性	医薬品開発学											
				3. 創薬の利便性	3. 創薬の利便性	医薬品開発学											
				4. 創薬の利便性	4. 創薬の利便性	医薬品開発学											
				5. 創薬の利便性	5. 創薬の利便性	医薬品開発学											
				6. 創薬の利便性	6. 創薬の利便性	医薬品開発学											
				7. 創薬の利便性	7. 創薬の利便性	医薬品開発学											
				8. 創薬の利便性	8. 創薬の利便性	医薬品開発学											
				9. 創薬の利便性	9. 創薬の利便性	医薬品開発学											
				10. 創薬の利便性	10. 創薬の利便性	医薬品開発学											
				11. 創薬の利便性	11. 創薬の利便性	医薬品開発学											
				12. 創薬の利便性	12. 創薬の利便性	医薬品開発学											
				③ 創薬の利便性	創薬の利便性	創薬の利便性	創薬の利便性	1. 創薬の利便性	1. 創薬の利便性	医薬品開発学							
2. 創薬の利便性	2. 創薬の利便性	医薬品開発学															
3. 創薬の利便性	3. 創薬の利便性	医薬品開発学															
4. 創薬の利便性	4. 創薬の利便性	医薬品開発学															
5. 創薬の利便性	5. 創薬の利便性	医薬品開発学															
6. 創薬の利便性	6. 創薬の利便性	医薬品開発学															
7. 創薬の利便性	7. 創薬の利便性	医薬品開発学															
8. 創薬の利便性	8. 創薬の利便性	医薬品開発学															
9. 創薬の利便性	9. 創薬の利便性	医薬品開発学															
10. 創薬の利便性	10. 創薬の利便性	医薬品開発学															
11. 創薬の利便性	11. 創薬の利便性	医薬品開発学															
12. 創薬の利便性	12. 創薬の利便性	医薬品開発学															
④ 創薬の利便性	創薬の利便性	創薬の利便性	創薬の利便性					1. 創薬の利便性	1. 創薬の利便性	医薬品開発学							
				2. 創薬の利便性	2. 創薬の利便性	医薬品開発学											
				3. 創薬の利便性	3. 創薬の利便性	医薬品開発学											
				4. 創薬の利便性	4. 創薬の利便性	医薬品開発学											
				5. 創薬の利便性	5. 創薬の利便性	医薬品開発学											
				6. 創薬の利便性	6. 創薬の利便性	医薬品開発学											
				7. 創薬の利便性	7. 創薬の利便性	医薬品開発学											
				8. 創薬の利便性	8. 創薬の利便性	医薬品開発学											
				9. 創薬の利便性	9. 創薬の利便性	医薬品開発学											
				10. 創薬の利便性	10. 創薬の利便性	医薬品開発学											
				11. 創薬の利便性	11. 創薬の利便性	医薬品開発学											
				12. 創薬の利便性	12. 創薬の利便性	医薬品開発学											

大項目	項目		薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)					主責任科目	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
	中項目	小項目	SBO番号	行動目標	後期 該当科目名	前期 該当科目名	後期 該当科目名		前期 該当科目名	後期 該当科目名										
				6. 体系的な症例をもとに、薬治療を経済的な観点から解析できる。 (知能・技能)																
		(3) コミュニティファーマシー	018-2-3-3-4Δ	1. 地域薬局の役割を列挙できる。 2. 在宅医療および居宅介護における薬局と薬剤師の役割を説明できる。																
			018-3-1-1	1. 地域薬局の役割を列挙できる。 2. 在宅医療および居宅介護における薬局と薬剤師の役割を説明できる。																
			018-3-1-2	3. 学校薬剤師の役割を説明できる。																
			018-3-2-1	1. 医薬分業のしくみと意義を説明できる。																
			018-3-2-2Δ	2. 医薬分業の現状を概説し、将来像を展望する。(知識・態度)																
			018-3-2-3Δ	3. かかりつけ薬局の意義を説明できる。																
			018-3-3-1	1. 保険薬剤師業務担当範囲および保険医薬品担当範囲を概説できる。																
			018-3-3-2Δ	2. 薬局の形態および業務運営ガイドラインを概説できる。																
			018-3-3-3Δ	3. 医薬品の流通のしくみを概説できる。																
			018-3-3-4Δ	4. 精神科薬および調剤補助明細書(レセプト)について説明できる。																
			018-3-4-1Δ	1. 地域住民のセルフマネジメントのために薬剤師が果たす役割を討議する。(態度)																
			018-3-4-2	2. 主な一般用医薬品(OTC薬)を列挙し、使用目的を説明できる。																
			018-3-4-3	3. 処方薬、生活改善薬、サプリメント、保健機能食品について概説できる。																

(基礎資料3-2) 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

- [注] 1 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名または実習項目名を実施学年の欄に記入してください。
 2 同じ科目名・項目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。
 3 「(7)の事前学習のまとめ」において大学でSBOsの設定がある場合は、記入してください。必要ならば、行を適宜追加してください。

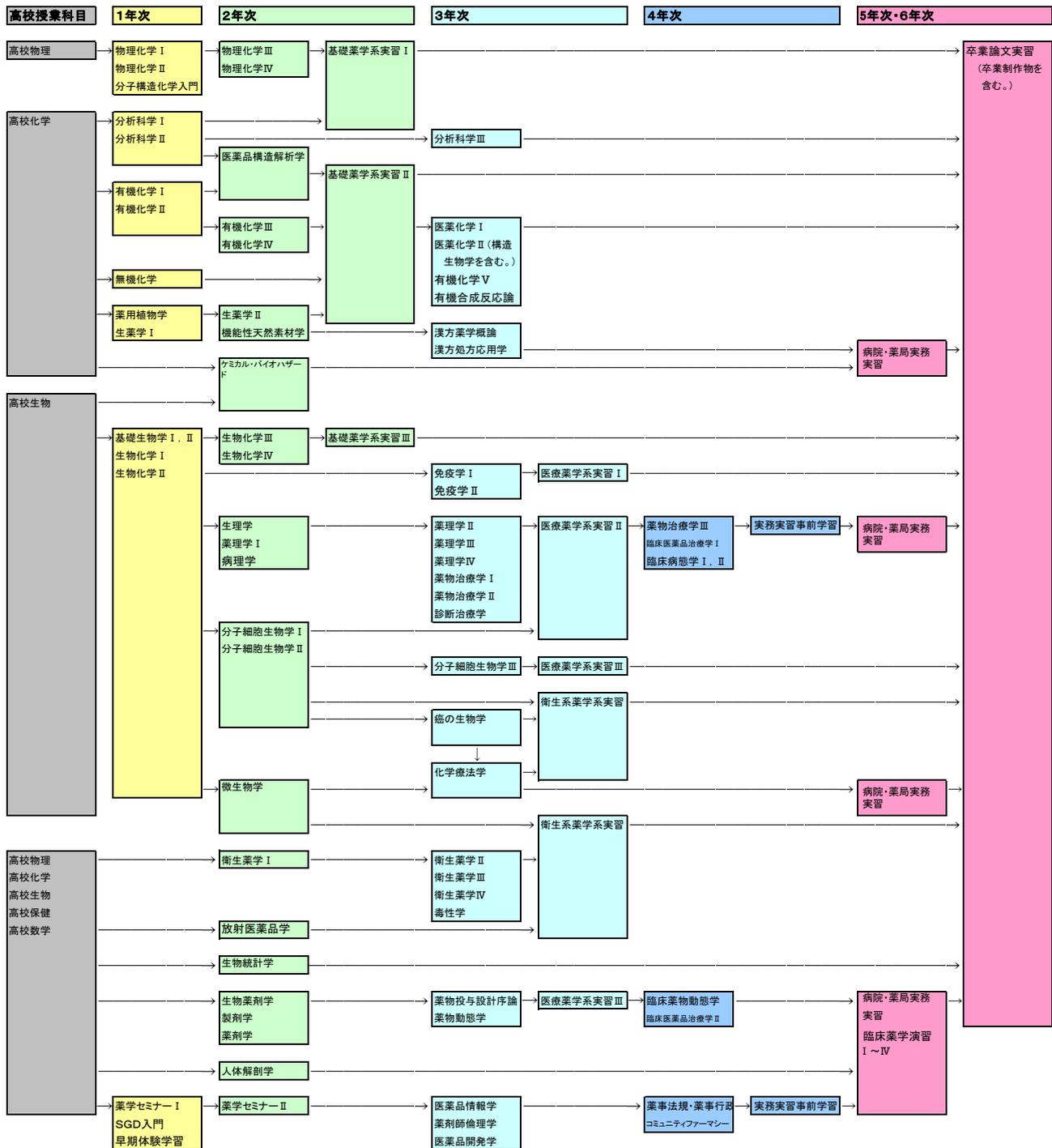
授業担当SBO(平成24年度)

大項目	中項目	小項目	科目	実務実習モデル・コアカリキュラム(実務実習事前学習)SBOs			主責任科目	3年次		4年次		5年次		
				行動目標	SBの番号	説明		前期 該当科目名	後期 該当科目名	前期 該当科目名	後期 該当科目名	前期・後期 該当科目名		
D1 実務実習 D2 実務実習後教育	D1 実務実習 D2 実務実習後教育	(1)事前学習を始めるに当たって	【薬剤関係業務に注目する】	D-1-1-1	医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる。	実務実習事前教育1			事前学習1			事前学習1		
			【医療現場を巡る】	D-1-1-2	医療の現状をふまえて、薬剤師の位置づけと役割について概説できる。	実務実習事前教育1			事前学習1			事前学習1		
			【チーム医療に注目する】	D-1-1-3	薬剤師が行う業務が患者本位のフォーミュラケアの概念にそったものであることについて討論する。(態度)	実務実習事前教育1			実務実習SGD					
			【チーム医療に注目する】	D-1-1-4	医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる。	実務実習事前教育1			事前学習1					
			【チーム医療に注目する】	D-1-1-5	チーム医療における薬剤師の役割を説明できる。	実務実習事前教育1			事前学習1					
			【自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討論する。(態度)	D-1-1-6Δ	自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討論する。(態度)	実務実習事前教育1			実務実習SGD					
			【医療分業に注目する】	D-1-1-7	医療分業の仕組みと意義を概説できる。	薬理学								
			【(2)処方せん(処方せん)の基礎】	D-1-2-1	処方せんの法的位置づけと機能について説明できる。	薬理学								
			【(2)処方せん(処方せん)の基礎】	D-1-2-2	処方オーダリングシステムを概説できる。	薬理学								
			【(2)処方せん(処方せん)の基礎】	D-1-2-3	処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる。	薬理学								
(3)処方せん(処方せん)の基礎	(3)処方せん(処方せん)の基礎	(3)処方せん(処方せん)の基礎	D-1-2-4	調剤を法的根拠に基づいて説明できる。	薬理学									
			D-1-2-5	代表的な処方せん例の患者における注意点を説明できる。(知識・技能)	薬理学									
			D-1-2-6	不適切な処方せん処置について説明できる。	薬理学									
			D-1-2-7	代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。	臨床薬学									
			D-1-2-8	患者に適した剤形を選択できる。(知識・技能)	薬理学									
			D-1-2-9	患者の特性(新生児、小児、高齢者、妊婦など)に適した用法・用量について説明できる。	薬理学									
			D-1-2-10Δ	患者の特性に適した用量を計算できる。(技能)	薬理学									
			D-1-2-11	病態(腎、肝疾患など)に適した用量設定について説明できる。	薬理学									
			D-1-2-12	服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる。	薬理学									
			【服薬指導の基礎】	D-1-2-13Δ	代表的な処方せん例の患者をシミュレートできる。(技能)	実務実習事前教育2								事前学習2
【服薬指導の基礎】	D-1-2-14Δ	処方せん例に従って、針量調剤をシミュレートできる。(技能)	実務実習事前教育2								事前学習2			
(3)薬照会 の管理と提供	(3)薬照会 の管理と提供	(3)薬照会 の管理と提供	D-1-2-15Δ	処方せん例に従って、針量調剤をシミュレートできる。(技能)	実務実習事前教育2							事前学習2		
			D-1-2-16Δ	調剤された医薬品の患者をシミュレートできる。(技能)	実務実習事前教育2								事前学習SGD	
			D-1-2-17Δ	処方せんの患者の意義とその必要性について討論する。(態度)	実務実習事前教育2									
			D-1-3-1	疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる。	薬理学									
			D-1-3-2	代表的な配合変化の組合せとその理由を説明できる。	実務実習事前教育3									事前学習3
			D-1-3-3Δ	特定の配合によって生じる医薬品の性状、外觀の変化を観察する。(技能)	実務実習事前教育3									事前学習3
			D-1-3-4	不適切な処方せん例について、その理由を説明できる。	薬理学									
			D-1-3-5Δ	処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討論する。(態度)	実務実習事前教育3									事前学習SGD
			D-1-3-6	代表的な医薬品について効能・効果、用法、用量を列挙できる。	実務実習事前教育3									事前学習3
			D-1-3-7	代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる。	実務実習事前教育3									事前学習3
D-1-3-8	代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。	薬理学										事前学習3		
D-1-3-9	疑義照会の流れを説明できる。	実務実習事前教育3									事前学習3			
D-1-3-10Δ	疑義照会をシミュレートする。(技能・態度)	実務実習事前教育3									事前学習3			
D-1-4-1	医薬品管理の意義と必要性について説明できる。	薬理学										薬理学		

大項目	中項目	小項目	実務実習モデル・コアカリキュラム(実務実習事前学習)SBOS				3年次		4年次		5年次		
			科目	行動目標	主業科目	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						履修科目名	履修科目名	履修科目名	履修科目名	履修科目名	履修科目名		
(6) 薬		D-1-4-2	代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる。	調剤学	調剤学								
		D-1-4-3	【特別な配慮を要する医薬品】 毒薬、劇薬の管理および取扱いについて説明できる。	調剤学	調剤学								
		D-1-4-4	痲薬、向精神薬などの管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。	調剤学	調剤学								
		D-1-4-5	血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる。	調剤学	調剤学								
		D-1-4-6	輸血用血液製剤の管理および取扱いについて説明できる。	調剤学	調剤学								
		D-1-4-7	代表的な生物製剤の種類と適応を説明できる。	調剤学	調剤学								
		D-1-4-8	生物製剤の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。	調剤学	調剤学								
		D-1-4-9△	痲薬の取扱いをシミュレートできる。(技能)	調剤学	調剤学								
		D-1-4-10△	代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明できる。	調剤学	調剤学								
		D-1-4-11△	放射線医薬品の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。	調剤学	調剤学								
		D-1-4-12△	【調剤化の薬】 院内製剤の意義、調剤上の手續き、品質管理などについて説明できる。	調剤学	調剤学								
		D-1-4-13△	薬局製剤の意義、調剤上の手續き、品質管理などについて説明できる。	調剤学	調剤学								
		D-1-4-14△	代表的な院内製剤を調剤できる。(技能)	実務実習事前教育4	実務実習事前教育4								
		D-1-4-15△	無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)	実務実習事前教育4	実務実習事前教育4								
		D-1-4-16△	抗悪性腫瘍剤などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手段を実施できる。(技能)	実務実習事前教育4	実務実習事前教育4								
		D-1-4-17	【注射剤と補液】 注射剤の代表的な配合変化を列挙し、その原因を説明できる。	実務実習事前教育4	実務実習事前教育4								
		D-1-4-18△	代表的な配合変化を検出できる。(技能)	実務実習事前教育4	実務実習事前教育4								
		D-1-4-19	代表的な輸液と経栄養剤の種類と適応を説明できる。	調剤学	調剤学								
		D-1-4-20△	体内電解質の過不足を判断して補正できる。(技能)	調剤学	調剤学								
D-1-4-21	代表的な消毒薬の用途、使用濃度を説明できる。	調剤学	調剤学										
D-1-4-22	消毒薬調整時の注意点を説明できる。	調剤学	調剤学										
D-1-5-1	(5)リスクマネジメント 【安全管理に注目の事項】 薬剤師業務の中で起こりやすい事故事例を列挙し、その原因を説明できる。	実務実習事前教育4	実務実習事前教育4										
D-1-5-2	誤りを生じやすい投薬例を列挙できる。	実務実習事前教育4	実務実習事前教育4										
D-1-5-3	院内感染の回避方法について説明できる。	実務実習事前教育4	実務実習事前教育4										
D-1-5-4	代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる。	臨床薬学	臨床薬学										
D-1-5-5	誤りを生じやすい調剤例を列挙できる。	実務実習事前教育4	実務実習事前教育4										
D-1-5-6△	リスクを回避するための具体策を提案する。(態度)	実務実習事前教育4	実務実習事前教育4										
D-1-5-7△	事故が起こった場合の対処方法について提案する。(態度)	実務実習事前教育4	実務実習事前教育4										
D-1-6-1	(6)服薬指導と患者情報 【服薬指導に必要な技能と留意点】 患者の基本的権利、自己決定権、インフォームド・コンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる。	臨床薬学	臨床薬学										
D-1-6-2	代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列挙できる。	臨床薬学	臨床薬学										
D-1-6-3	代表的な薬患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。	臨床薬学	臨床薬学										
D-1-6-4△	インフォームド・コンセント、守秘義務などに配慮する。(態度)	実務実習事前教育3	実務実習事前教育3										
D-1-6-5△	適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。(技能・態度)	実務実習事前教育3	実務実習事前教育3										
D-1-6-6△	医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。(知識・態度)	実務実習事前教育3	実務実習事前教育3										
D-1-6-7	患者接遇に関し、配慮しなければならない注意点を列挙できる。	臨床薬学	臨床薬学										
D-1-6-8	【患者情報の取扱いに注目の事項】 服薬指導に必要な患者情報を列挙できる。	臨床薬学	臨床薬学										
D-1-6-9△	患者背景、情報(コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など)を把握できる。(技能)	実務実習事前教育3	実務実習事前教育3										
D-1-6-10	医師、看護師などの情報の共有化の重要性を説明できる。	臨床薬学	臨床薬学										
D-1-6-11△	【服薬指導の留意点】 代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる。(知識・技能)	実務実習事前教育3	実務実習事前教育3										
D-1-6-12△	共感的態度で患者インタビューを行う。(技能・態度)	実務実習事前教育3	実務実習事前教育3										
D-1-6-13△	患者背景に配慮した服薬指導ができる。(技能)	実務実習事前教育3	実務実習事前教育3										
D-1-6-14△	代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる。(技能)	実務実習事前教育3	実務実習事前教育3										
D-1-7-1△	【総合学習】 代表的な処方せん枠の構造を行うことができる。(技能)	実務実習事前教育5	実務実習事前教育5										

大項目		中項目		小項目		行動目標		実務実習モデル・コアカリキュラム(実務実習事前学習)SBOS		主責任科目		3年次		4年次		5年次	
						SBO番号						前期 履修科目名		前期 履修科目名		前期・後期 履修科目名	
							D-1-7-2△		観察照会をシミュレートする。(技能・態度)	実務実習事前教育5							
							D-1-7-3△		処方せん例に従って、非薬調剤をシミュレートできる。(技能)	実務実習事前教育5							
							D-1-7-4△		処方せん例に従って、計算調剤をシミュレートできる。(技能)	実務実習事前教育5							
							D-1-7-5△		調剤された医薬品の監査をシミュレートできる。(技能)	実務実習事前教育5							
							D-1-7-6△		患者背景に配慮した服薬指導ができる。(技能)	実務実習事前教育5							

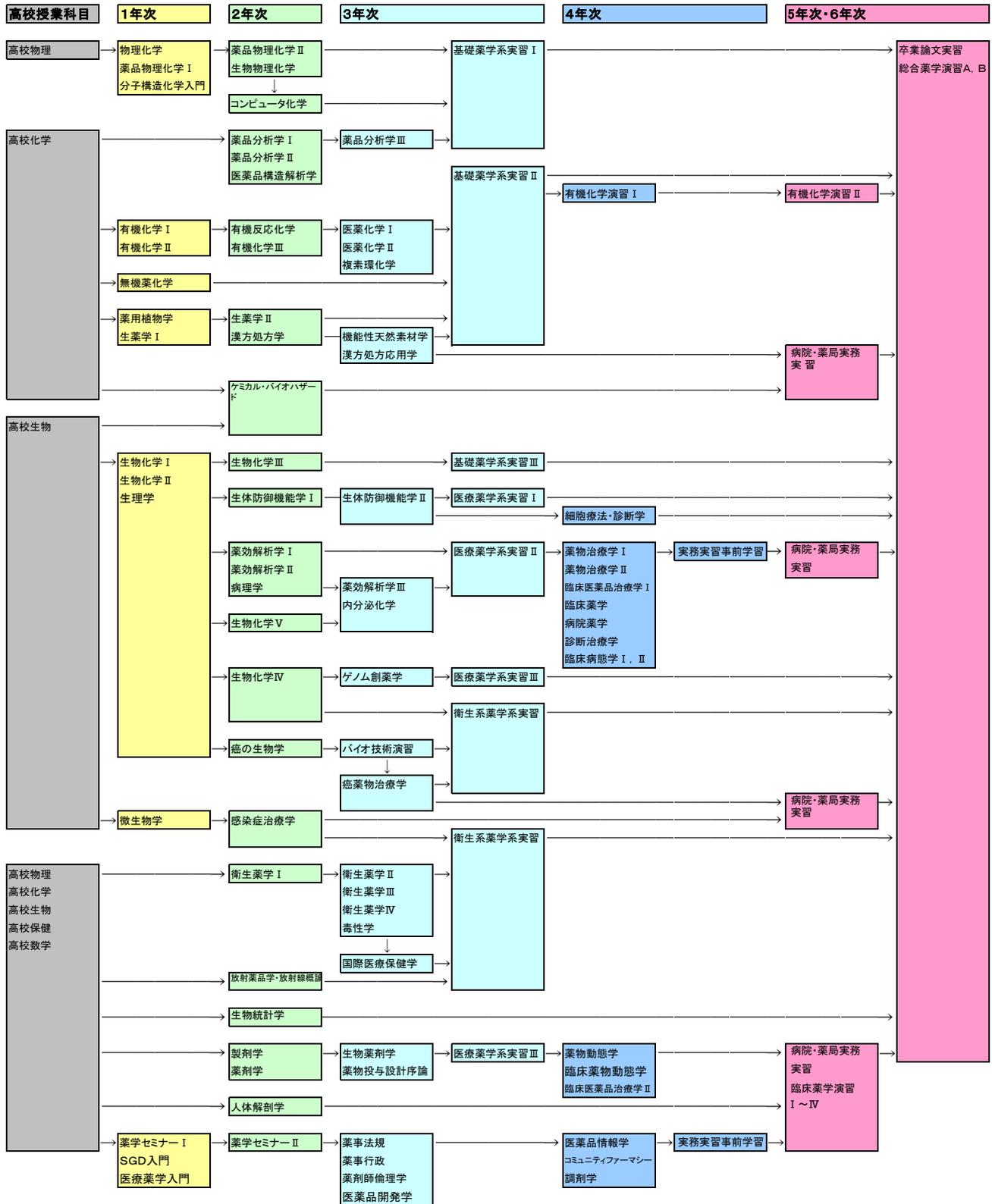
(基礎資料4) カリキュラムマップ(薬学科専門科目, 平成24年度)



[注] 1 任意(大学独自)の様式で、カリキュラムマップを作成してください。また、シラバス等に掲示しているカリキュラムマップの転記でも結構です。

2 図は、カラーでも白黒でもどちらでも結構です。

(基礎資料4) カリキュラムマップ(薬学科専門科目, 平成23年度以前入学者対象)



[注] 1 任意(大学独自)の様式で、カリキュラムマップを作成してください。また、シラバス等に掲示しているカリキュラムマップの転記でも結構です。

2 図は、カラーでも白黒でもどちらでも結構です。

(基礎資料5) 語学教育の要素

科目名	開講年生	要素			
英語 (薬学部1)	1	読み	書き	聞く	
英語 (薬学部2)	2	読み	書き	聞く	
英語 (ネイティブ)	1	読み	書き	聞く	話す
英語 (オラコン)	2	聞く	話す		
英語 (読解)	2	読み	書き		
英語 (作文・文法)	2	読み	書き		
英語 (検定)	2	読み	書き	聞く	
プレ上級英語	1				
上級英語	1				
英語特別演習	1				
ドイツ語初級	1				
ドイツ語中級	1				
フランス語初級	1				
フランス語中級	1				
中国語初級	1				
中国語中級	1				
韓国語初級	1				
韓国語中級	1				
ロシア後初級	1				
ロシア語中級	1				
スペイン語初級	1				
スペイン語中級	1				
イタリア語初級	1				
イタリア語中級	1				

[注] 要素欄は左記の識別区分にそって作成してください。

読み	読み
書き	書き
聞く	聞く
話す	話す

(基礎資料6-1) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

スケジュールの説明：

- (1) 本薬学科では実務実習事前学習は、「実務実習事前教育1～5」(1は1単位、2は2単位、3は2単位、4は2単位、5は1単位、の計8単位)で4年生後期に実施している。通常1班を5人程度のグループとして、1学年を8班(A, B, C, D, E, F, G, Hの各班)に分け、基本としてはローテーションにて実習を行った。平成24年度のA班でのスケジュール表を(基礎資料6-2～6-4)に示した。
- (2) A班でのスケジュール表に示す通り、本スケジュールでは90分間の講義・実習を92回おこなっている。実務実習モデル・コアカリキュラムで推奨されている時間数は90分を122回の講義・実習である。それゆえ、本薬学科の「実務実習事前教育1～5」では実務実習モデル・コアカリキュラムで推奨されているLSの一部は実施できていない。
- (3) そこで、本薬学科では、この後期の「実務実習事前教育1～5」の履修に先だって、4年生前期で開講している「調剤学」と「臨床薬学」にて、(2)での未学修LSを実施することとした。平成24年度のカリキュラム改正では、これらの教科を事前学習に取り入れることとした。この両科目の平成24年度のスケジュールならびに教授したLSを、(基礎資料6-5～6-8)に示した。この両科目で90分×31回の講義・演習を行った。この両科目の90分×31回と(2)で示した「実務実習事前教育1～5」の90分×92回を合計すると、90分×123回の講義・演習となる。
- (4) 平成24年度のB班からH班までのスケジュールを(基礎資料6-9～6-10)に示した。いずれの班の学生も「調剤学」、「臨床薬学」を含めた、本事前学習で90分×123回の講義・演習を学修している。
- (5) 以上で示したように、「調剤学」、「臨床薬学」及び「実務実習事前教育1～5」による本事前学習で、実務実習モデル・コアカリキュラムで示された全てのLSを実施している(基礎資料6-11～6-14)。

(基礎資料6-2) 4年次の実務実習事前学習(「実務実習事前教育1~5」(A班))のスケジュール

平成24年10月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月	10月1日	導入講義1(S306・S601・602・604・605)	講義・SGD(S106・S211・S304)	導入講義2(S201・S208・S408・S411)		
	火	10月2日		講義(S101・102)	講義・SGD(S106・S211・S304)		
	水	10月3日	講義(S501・502)	講義(S412・413)	講義・SGD(S106・S211・S304)		
	木	10月4日	講義(S302・305)	講義(S602)	講義・実習(S210)錠剤・軟膏剤		
	金	10月5日	講義・実習(S210)散剤				
第2週	月	10月8日	体育の日				
	火	10月9日		講義(S104・105)	講義・実習(S210)水剤		
	水	10月10日	講義・SGD(S106・S211・S304)		講義・実習(S306・603・606)患者対応・初回面談		
	木	10月11日	講義・実習(S411)無菌操作				
	金	10月12日	講義・実習(S411)無菌操作				
第3週	月	10月15日	講義・実習(S306・603・606)薬剤交付・服薬指導				
	火	10月16日		講義・実習(S306・603・606)来局者対応・OTC情報提供			
	水	10月17日					
	木	10月18日					
	金	10月19日		講義(S503)	講義・実習(S210)調剤薬鑑査		
第4週	月	10月22日					
	火	10月23日		講義・実習(S210)処方鑑査			
	水	10月24日					
	木	10月25日	講義・実習(S306)疑義照会			講義(S701)	
	金	10月26日	講義・実習(S410)院内製剤				
第5週	月	10月29日		講義(S605)			
	火	10月30日		講義(S701)			
	水	10月31日					
	木						
	金						

[注] 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号(主となる)と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。

2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。(例示:学祭、OSCE、予備日、祝日)

3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料6-3) 4年次の実務実習事前学習(「実務実習事前教育1~5」(A班))のスケジュール

平成24年11月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月						
	火						
	水						
	木	11月1日	講義・実習 (S505)			講義 (S602)	講義 (S701)
	金	11月2日	講義・SGD (S506)				
第2週	月	11月5日	講義・SGD (S507)				
	火	11月6日	講義・SGD (S103)				
	水	11月7日					
	木	11月8日					
	金	11月9日				講義 (S701)	
第3週	月	11月12日					
	火	11月13日					
	水	11月14日					
	木	11月15日					
	金	11月16日					
第4週	月	11月19日					
	火	11月20日					
	水	11月21日	講義・実習 (S210)				
	木	11月22日					
	金	11月23日	勤労感謝の日				
第5週	月	11月26日	大学祭(休講)				
	火	11月27日	講義・実習 (S701)				
	水	11月28日	講義・実習 (S701)			講義 (S602)	講義 (S602)
	木	11月29日	講義・実習 (S701)				
	金	11月30日					

- [注] 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号(主となる)と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。
- 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。(例示:学祭、OSCE、予備日、祝日)
- 3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料6-4) 4年次の実務実習事前学習(「実務実習事前教育1~5」(A班))のスケジュール

平成24年12月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月	12月3日					
	火	12月4日			講義・実習(S701)		
	水	12月5日					
	木	12月6日					
	金	12月7日					
第2週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						
第3週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						
第4週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						
第5週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						

[注] 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号(主となる)と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。

2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。(例示:学祭、OSCE、予備日、祝日)

3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料6-5) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール (「調剤学」・「臨床薬学」)

平成24年4月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						
第2週	月						
	火	4月10日		調剤学(講義) S107, S201-204, S209, S301			
	水						
	木	4月12日			臨床薬学(講義)		
	金						
第3週	月						
	火	4月17日		調剤学(講義) S201-204, S206, S301			
	水						
	木	4月19日			臨床薬学(講義・演習・SGD) S205, 504, 505, 601, 602, 604, 605		
	金						
第4週	月						
	火	4月24日		調剤学(講義) S201-204, S206-208			
	水						
	木	4月26日			臨床薬学(講義・演習・SGD) S205, 504, 505, 601, 602, 604, 605		
	金						
第5週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						

- [注]
- 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号(主となる)と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。
 - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。(例示: 学祭、OSCE、予備日、祝日)
 - 3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料6-6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール (「調剤学」・「臨床薬学」)

平成24年5月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						
第2週	月						
	火	5月8日		調剤学(講義) S301, S201-204			
	水						
	木	5月10日			臨床薬学(講義・演習・SGD) S205, 504, 505, 601, 602, 604, 605		
	金						
第3週	月						
	火	5月15日		調剤学(講義) S201-204, S407, S414			
	水						
	木	5月17日			臨床薬学(講義・演習・SGD) S205, 504, 505, 601, 602, 604, 605		
	金						
第4週	月						
	火	5月22日		調剤学(講義) S201-203, S411			
	水						
	木	5月24日			臨床薬学(講義・演習・SGD) S205, 504, 505, 601, 602, 604, 605		
	金						
第5週	月						
	火	5月29日		調剤学(講義) S413			
	水						
	木	5月31日			臨床薬学(講義・演習・SGD) S205, 504, 505, 601, 602, 604, 605		
	金						

- [注]
- 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号(主となる)と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。
 - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。(例示:学祭、OSCE、予備日、祝日)
 - 3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料6-7) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール (「調剤学」・「臨床薬学」)

平成24年6月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月						
	火	6月5日		調剤学(講義) S401-409			
	水						
	木	6月7日			臨床薬学(講義・演習・SGD) S205, 504, 505, 601, 602, 604, 605		
	金						
第2週	月						
	火	6月12日		調剤学(講義) S413			
	水						
	木	6月14日			臨床薬学(講義・演習・SGD) S205, 504, 505, 601, 602, 604, 605		
	金						
第3週	月						
	火	6月19日		調剤学(講義) S413			
	水						
	木						
	金	6月21日			臨床薬学(講義・演習・SGD) S205, 504, 505, 601, 602, 604, 605		
第4週	月						
	火	6月26日		調剤学(講義) S209			
	水						
	木	6月28日			臨床薬学(講義・演習・SGD) S205, 504, 505, 601, 602, 604, 605		
	金						
第5週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						

- [注]
- 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号(主となる)と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。
 - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。(例示: 学祭、OSCE、予備日、祝日)
 - 3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料6-8) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール (「調剤学」・「臨床薬学」)

平成24年7月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月						
	火	7月3日		調剤学(講義) S207-209, S301, S305-306			
	水						
	木						
	金						
第2週	月						
	火	7月10日		調剤学(講義) S209			
	水						
	木						
	金						
第3週	月						
	火	7月17日		調剤学(講義) S209			
	水						
	木						
	金						
第4週	月						
	火	7月24日		調剤学(講義) S209			
	水						
	木						
	金						
第5週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						

- [注]
- 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号(主となる)と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。
 - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。(例示: 学祭、OSCE、予備日、祝日)
 - 3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料6-10) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール (実務実習事前教育1~5) (A~H班) 11・12月

氏名 月日	11月 第1週							11月 第2週							11月 第3週							11月 第4週							12月 第5週							12月 第1週						
	11/1 木	11/2 金	11/5 月	11/6 火	11/7 水	11/8 木	11/9 金	11/12 月	11/13 火	11/14 水	11/15 木	11/16 金	11/19 月	11/20 火	11/21 水	11/22 木	11/23 金	11/26 月	11/27 火	11/28 水	11/29 木	11/30 金	12/3 月	12/4 火	12/5 水	12/6 木	12/7 金															
1	講義・実習 (S505), 講義 (602), 講義 (701)	講義・SGD (506)	講義・SGD (507)	講義・SGD (103)	講義・SGD (103)		講義 (701)										講義 (701)	講義・実習 (701)	講義・実習 (701), 講義 (602)	講義・実習 (701)			講義・実習 (701)																			
2																																										
3	A																																									
4																																										
5																																										
6																																										
7	B																																									
8																																										
9																																										
10																																										
11																																										
12	C																																									
13																																										
14																																										
15																																										
16																																										
17	D																																									
18																																										
19																																										
20																																										
21																																										
22	E																																									
23																																										
24																																										
25																																										
26																																										
27	F																																									
28																																										
29																																										
30																																										
31																																										
32	G																																									
33																																										
34																																										
35																																										
36																																										
37	H																																									
38																																										
39																																										
40																																										
41																																										

(基礎資料6-11) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール (LSとの関連での纏め)

「実務実習事前教育 1」

(1) 事前実習を始めるにあたって

LS	到達目標	学習方法	内容	時間	科目 1
《薬剤師業務に注目する》					
S101	◎医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる	講義	わが国の薬剤師業務の変遷 薬剤師の使命 (薬剤師綱領・薬剤師倫理規定) 生命倫理	90×1	事前学習
S102	◎医療の現場をふまえて、薬剤師の位置づけと役割について概説できる	講義	欧米とわが国の医薬分業の違い 薬剤師業務の拡大・専門化		事前学習
S103	◎薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものであることについて討議する	SGD	ファーマシューティカルケアの誕生・実践 QOL・SOAP・POS (問題志向型システム)	90×3	SGD
《チーム医療に注目する》					
S104	◎医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる	講義	医療環境の変化と薬剤師 医療チームの構成員とその役割 地域におけるチーム医療	90×1	事前学習
S105	◎チーム医療における薬剤師の役割を説明できる。	講義	医療チームにおける薬剤師の責任 医薬品の適正使用 これからの薬物療法と薬剤師の役割 (テーラーメイド医療など)		事前学習
S106	◎自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する (態度)	SGD	薬の専門家としての薬剤師の独立性 医療チームの中での薬剤師 薬剤師に求められる態度	90×9 (発表3+ 調査6) (S211/S3 04と統 合)	SGD
《医薬分業に注目する》					
S107	◎医薬分業の仕組みと意義を概説できる	講義	医薬分業の仕組み・意義	90×15	調剤学

「実務実習事前教育 2」

(2) 処方せんと調剤

LS	到達目標	学習方法	内容	時間	科目 1
《処方せんの基礎》					
S201	◎処方せんの法的位置づけと機能について説明できる。◎処方オーダーリングシステムを概説できる	講義	法的位置づけ システムの概要・処方時の留意点	90×15	調剤学
S202	◎処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる	講義	処方せんの種類・特徴・必要記載事項	90×15	調剤学
S203	◎調剤を法的根拠に基づいて説明できる。◎代表的な処方せん例の監査における注意点を説明できる。	講義	薬剤師法と薬剤師の調剤権・調剤における義務 調剤を行う場所・容器、被包への記載事項 調剤後の処方せん記載事項・調剤録作成 処方せんの形式上のテック・内容チェック	90×15	調剤学
S204	◎不適切な処方せんの処置について説明できる	講義	不適切な処方せんへの対応 疑義照会の対応	90×15	調剤学
《医薬品の用法・用量》					
S205	◎代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる	講義	用法・用量に関する薬剤師の役割 用法・用量の根拠 処方時の用法・用量の検討など	90×15	臨床薬学
S206	◎患者に適した剤形を選択できる (知能・技能)	講義	剤形の違い、投与経路による吸収速度の違い 患者に適した剤形選択、自己注射	90×15	調剤学
S207	◎患者の特性 (新生児、小児、高齢者、妊婦など) に適した用法・用量について説明できる。◎患者の特性に適した用量を計算できる。(技能)	講義	薬物の作用を決定している因子・ 薬物動態学、小児薬用量・ 調剤時の用量計算	90×15	調剤学
S208	◎病態 (腎、肝疾患など) に適した用量設定について説明できる	講義	薬物動態学	90×15	調剤学
《服薬指導の基礎》					
S209	◎服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる	講義	法的位置づけ ヘルシンキ宣言・ジュネーブ宣言など 科学的根拠	90×15	調剤学
《調剤室業務入門》					
S210	◎代表的な処方せん例の鑑査をシミュレーションできる (技能) ◎処方せん例に従って、計数調剤をシミュレーションできる (技能) ◎処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる (技能) ◎調剤された医薬品の鑑査をシミュレーションできる (技能)	実習・演習 (ロールプレイ)	処方監査の主なポイント 計数調剤・計量調剤・鑑査	90×15	事前学習
S211	◎処方せんの鑑査の意義とその必要性について討議する (態度)	SGD	処方監査の意義・必要性	90×9 (発表3+ 調査6) (S106・ S304と統 合)	SGD

(基礎資料6-12) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール (LSとの関連での纏め)

「実務実習事前教育3」

(3) 疑義照会

LS	到達目標	学習方法	内容	時間	科目 1
《疑義照会の意義と根拠》					
S301	◎疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる	講義	疑義照会・法的根拠	90×15	調剤学
S303	◎不適切な処方せん例について、その理由を説明できる	講義	薬名・規格単位・剤形・分量・用法・相互作用・重複など	90×15	調剤学
S302	◎代表的な配合変化の組み合わせとその理由を説明できる。◎特定の配合によって生じる医薬品の性状、外観の変化を観察する(技能)	講義	散剤・液剤・注射剤など	90×1	事前学習
《疑義照会入門》					
S304	◎処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する	SGD	疑義照会・医薬品情報提供など	90×9 (発表3 +調査 6) (S106・ S211と統 合)	SGD
S305	◎代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる。◎代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる。◎代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。◎疑義照会の流れを説明できる	講義	各種医薬品の効果・用法・用量 緊急安全性情報医薬品の副作用など 相互作用 疑義照会時の記載事項など	90×15 90×1	調剤学 事前学習
S306	◎代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる。◎代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる。◎代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。◎疑義照会をシミュレートする(技能・態度)	講義・実習・演習 (ロールプレイ)	各種医薬品の効果・用法・用量 緊急安全性情報医薬品の副作用など 相互作用 疑義照会時の記載事項など 各種疑義照会シミュレーション	90×15 90×3	調剤学 事前学習

(6) 服薬指導と患者情報

LS	到達目標	学習方法	内容	時間	科目 1
《服薬指導に必要な技能と態度》					
S601	◎患者の基本的権利、自己決定権、インフォームドコンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる	講義	患者の基本的権利、自己決定権、インフォームドコンセント、守秘義務など	90×15	臨床薬学
S604	◎患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる	講義	一般的注意・特殊患者(高齢者・小児)など	90×15	臨床薬学
S602	◎代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列挙できる。◎代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる	講義	各種薬剤(薬理作用) 食事療法・運動療法・環境因子など	90×15 90×1	臨床薬学 事前学習
S603	◎インフォームドコンセント、守秘義務などに配慮する(態度) ◎適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する(技能・態度) ◎医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする(知識・態度)	演習(ロールプレイ)	情報収集など 副作用の説明	90×9	事前学習
《患者情報の重要性に注目する》					
S605	◎服薬指導に必要な患者情報を列挙できる◎患者背景、情報(コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など)を把握できる(技能)◎医師、看護師などとの情報の共有化の重要性を説明できる◎患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる	講義・演習	患者の基本的情報・疾患情報・薬物療法情報など 薬歴・診療録について 医療情報の記録方法(SOAP)・共有化	90×15	臨床薬学
S606	◎代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる(知識・技能) ◎共感的態度で患者インタビューを行う(技能・態度) ◎患者背景に考慮した服薬指導ができる(技能) ◎代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる(技能)	演習(ロールプレイ)	コミュニケーション 医療人としてのこのましい態度 高齢者・小児患者想定・視覚・聴覚障害患者 嚥下困難患者、妊婦、授乳婦など	90×9	事前学習

(基礎資料6-13) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール (LSとの関連での纏め)

「実務実習事前教育4」

(4) 医薬品の管理と供給

L S	到達目標	学習方法	内容	時間	科目
					1
《医薬品の安定性に注目する》					
S401	◎医薬品管理の意義と必要性について説明できる	講義	管理業務の概要・採用薬品の管理 薬事委員会、関係法規、情報管理	90×15	調剤学
S402	◎代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる	講義	使用期限・有効期間・有効期限 安定性・保存方法など	90×15	調剤学
《特別な配慮を要する医薬品》					
S403	◎毒薬・劇薬の管理および取り扱いについて説明できる◎麻薬、向精神薬などの管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる	講義	毒薬・劇薬の指定基準・表示・譲渡手続・貯蔵・陳列など 麻薬の法的事項・管理・保管・購入・麻薬処方せん・記録・廃棄・報告・事故・麻薬中毒者など	90×15	調剤学
S404	◎血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる◎輸血用血液製剤の管理および取扱いについて説明できる。	講義	血漿分画・輸血用製剤とは・保管管理・取り扱い・インフォームドコンセント・改正薬事法など	90×15	調剤学
S405	◎代表的な生物製剤の種類と適応を説明できる◎生物製剤の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる	講義	生ワクチン・不活性化ワクチン・抗毒素製剤・インターフェロンモノクローナル抗体など	90×15	調剤学
S406	麻薬の取扱いをシミュレートできる。(技能)など	講義	麻薬取扱いの実際	90×15	調剤学
S407	◎代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明できる◎放射性医薬品の管理と取扱いをシミュレートできる(技能)	講義	放射性医薬品の分類・特徴など 調製・保管・貯蔵・廃棄まで	90×15	調剤学
《製剤化の基礎》					
S408	◎院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる	講義	分類・手続き・調製・品質など	90×15	調剤学
S409	◎薬局製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる	講義	薬局製造販売医薬品など	90×15	調剤学
S410	◎代表的な院内製剤を調製できる(技能)	実習	散剤・液剤・カプセル剤・軟膏剤	90×3	事前学習
S411	◎無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる(知識・技能)◎抗悪性腫瘍剤などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる(技能)	実習	無菌操作方法・滅菌法・消毒・クリーンベンチ 構造設備・安全キャビネット・処理など	90×6	事前学習
《注射薬と輸液》					
S412	◎注射剤の代表的な配合変化を列挙し、その原因を説明できる◎代表的な配合変化を検出できる(技能)	講義	配合変化(溶解度・吸着・pH・希釈など) 検出法(直接法・間接法)・滴定酸度など	90×1	事前学習
S413	◎代表的な輸液と経管栄養剤の種類と適応を説明できる◎体内電解質の過不足を判断して補正できる(技能)	講義	輸液剤の分類 栄養輸液(中心静脈栄養・末梢静脈栄養) 経腸栄養剤 電解質計算	90×15 90×1	調剤学 事前学習
《消毒薬》					
S414	◎代表的な消毒薬の用途、使用濃度を説明できる◎消毒薬調製時の注意点を説明できる	講義	抗菌スペクトル・用途・生体への適用 使用期限・使用上注意・医療事故など	90×15	調剤学

(5) リスクマネジメント

L S	到達目標	学習方法	内容	時間	科目
					1
《安全管理に注目する》					
S501	◎薬剤師業務の中で起こりやすい事故事例を列挙し、その原因を説明できる	講義	インシデント報告・ Medikation エラー 名称・外観類似性・含量表示方法・処方方法 オーダリングシステム・伝達方法など	90×1	事前学習
S502	◎誤りやすい投薬例を列挙できる	講義	実例報告など		事前学習
S503	◎院内感染の回避方法について説明できる	講義	標準・感染経路別予防など ICT・サーベランス・消毒剤、抗菌剤適正使用	90×1	事前学習
《副作用に注目する》					
S504	◎代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる	講義	各種副作用と検査所見	90×15 90×1	臨床薬学 事前学習
S505	◎代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる	演習	各種副作用と検査所見	90×15 90×3	臨床薬学 事前学習
《リスクマネジメント入門》					
S506	◎誤りを生じやすい調剤例を列挙できる。◎リスクを回避するための具体策を提案する(態度)	SGD	エラー事例 環境・システムなどから考察	90×3	SGD
S507	◎事故が起こった場合の対処方法について提案する(態度)	SGD	対応案立案 インシデント報告	90×3	SGD

(基礎資料6-14) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール (LSとの関連での纏め)

「実務実習事前教育5」

(7-2) 事前学習のまとめ

L S	到達目標	学習方法	内容	時間	科目
					1
《総合実習》					
S701	◎代表的な処方せん例の鑑査を行うことができる(技能) ◎疑義照会をシミュレートする(技能・態度) ◎処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる(技能) ◎処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる(技能) ◎調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる(技能) ◎患者背景に配慮した服薬指導ができる(技能)	講義・実習・演習	まとめ アドバンス教育	90×17	事前学習

(基礎資料7) 学生受入状況について

	学科名	入試の種類		平成20年度入試	平成21年度入試	平成22年度入試	平成23年度入試	平成24年度入試	平成25年度入試	入学定員に対する入学者数の比率(6年間の平均)
				(19年度実施)	(20年度実施)	(21年度実施)	(22年度実施)	(23年度実施)	(24年度実施)	
薬学部	薬学	一般入試 ※	受験者数	123	97	73	142	96	176	
			合格者数	36	35	35	34	35	35	
			入学者数(A)	36	33	35	34	34	33	
			募集定員数(B)	33	33	33	33	33	33	
			A/B*100(%)	109.1	100.0	106.1	103.0	103.0	100.0	
		A〇入試	受験者数	38	54	57	48	51	60	
			合格者数	7	7	8	7	7	7	
			入学者数(A)	7	7	8	7	7	7	
			募集定員数(B)	7	7	7	7	7	7	
			A/B*100(%)	100.0	100.0	114.3	100.0	100.0	100.0	
		留学生入試	受験者数	1	1	1	2	0	0	
			合格者数	0	0	0	0	0	0	
			入学者数(A)	0	0	0	0	0	0	
			募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
			A/B*100(%)	0	0	0	0	0	0	
学科計	受験者数	162	152	131	192	147	236			
	合格者数	43	42	43	41	42	42			
	入学者数(A)	43	40	43	41	41	40			
	募集定員数(B)	40	40	40	40	40	40			
	A/B*100(%)	107.5	100.0	107.5	102.5	102.5	100.0		103.3	

※ 一般入試の受験者数、合格者数等は、前期日程入試と後期日程入試の合算した人数で示している。

- [注] 1 「編入学試験」は、この表には記入しないでください。
- 2 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。
- 3 入試の種類ごとに「入学定員に対する入学者」の割合を算出してください。
- 4 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
- 5 各入学(募集)定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。
- 6 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。
- 7 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「(備考)〇年次に・・・・・・を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名」と注を記入してください。

(基礎資料8) 教員・事務職員数

①設置基準において、必要な教員数	30名
②設置基準において、必要な実務家教員数	4名

平成24年度						
(教員の部)	教授	准教授	専任講師	助教	助手	備考
教養教育						22(3)=22名のうち3名が実務家教員 実務家教員は、上記3名のほか岡大病院薬剤部の助教1名を配置している。 9(1)=9名のうち1名が特別契約職員(助教) ティーチング・アシスタント94名※ リサーチ・アシスタント6名※ (※平成24年度実績)
語学教育						
薬学基礎教育	12	22(3)		9(1)		
専門薬学教育						
実務実習教育						
小計	12	22(3)		9(1)		
専任教員数	43(4)					
(事務職員の部)	局長	部長	事務長	事務員	その他の職種	備考
大学業務関連						
法人業務関連			1	12 (インド勤務1名を含む)	4	その他4=再雇用の技術職員1, 技術専門職員3
小計			1	12 (インド勤務1名を含む)	4	その他4=再雇用の技術職員1, 技術専門職員3
事務職員数	13(インド勤務1名を含む)					

- [注] 1 「①設置基準において、必要な教員数」には、大学設置基準別表第一、第二をもとに算出した数値を記入してください。
- 2 主に担当する科目(業務)で算出し、重複しないように注意してください。
- 3 該当する場合は、()内に見なし教員または特任等の数を記入し、「備考」欄にその内訳を記入してください。
(例示: 6(2)=6名のうち2名が特任)
- 4 該当する場合は、()内に臨時・嘱託事務職員数を記入してください。
(例示: 3(1)=3名のうち1名が嘱託事務職員)
- 5 「その他の職種」の欄に記入した数については、「備考」にその職種名を記入してください。
- 6 専任教務補助員(例えば、いわゆる副手、実験補助員等)、ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)については、「備考」欄にその各々の名称と人数を記入してください。

(基礎資料9) 専任教員年齢構成

職位	70歳代	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	計
教授		3	7	2			12
	%	25%	58%	17%	%	%	100%
准教授		3(1)	4(2)	13(1)	2		22(4)
	%	14%	18%	59%	9%	%	100%
専任講師							
	%	%	%	%	%	%	%
助教				3(3)	4	2(1)	9(4)
	%	%	%	33%	45%	22%	100%
合計		6(1)	11(2)	18(4)	6	2(1)	43(8)
	%	14%	26%	42%	14%	4%	100%
定年年齢	65歳						

[注] 1 上段には人数、下段には%を記入してください。

2 ()に女性の数を記入してください。(例示: 2(1) = 2名のうち1名が女性)

3 「定年年齢」には、規定された定年退職年齢を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目														最終学歴及び学位称号											
								科目名		講義			演習			実験・実習・実技			計														
								前期	後期	通年	前期	後期	通年	前期	後期	通年	前期	後期	通年	前期	後期		通年										
								0.40	0.20	0.90	0.90	0.60	0.20	0.20	0.20	0.20	0.30	0.30	0.40	0.40	0.40		0.40	0.40									
薬学科 (兼創薬科学科)	薬剤設計評価学	教授	くろさき ゆうじ	男	55	1983.6.1	2001.6.16	創薬の科学	0.40										0.40						京都大学大学院薬学研究科 修士課程修了 薬学博士								
								くすりを考える	0.20															0.20									
								薬学ガイダンス(薬学科)	0.90																	0.90							
								薬学セミナー-I, II		0.80																							
								医療薬学系実習 III (2)													0.40												
								薬物投与設計序論								0.90																	
								臨床医薬品治療学2	1.60																								
								臨床薬学	0.20																								
								臨床薬学演習III										0.10															
								薬局実務実習																									
								3.30	0.90	0.80	0.00	0.00	0.00	0.00	0.10	0.00	0.40	0.80	0.80	3.30	1.30	1.70	4.0										
薬学科 (兼創薬科学科)	薬品作用学	教授	うえはら たかし	男	46	2010.4.1	2010.4.1	薬効解析学I	1.00																北海道大学大学院薬学研究科 修士課程修了 博士(薬学)								
								薬効解析学II	1.50																								
								薬効解析学III	0.80																								
								薬学ガイダンス	0.50																								
								薬学セミナー-I, II		0.40																							
								内分泌学	1.50																								
								くすりの話		0.20																							
								健康と医薬品		0.30																							
									3.00	2.80	0.40	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	0.00	0.00	3.00	2.80	0.40	3.3	
								くすりを考える		0.20																							
くすりの話		0.20																															
SGD入門			0.20																														
薬学セミナー-I, II			0.40																														
薬学ガイダンス	0.50																																
生物薬剤学	1.50																																
医療薬学系実習III																																	
薬物動態学	1.50																																
総合薬学演習II														0.10																			
								3.50	0.40	0.40	0.20	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	2.00	0.00	0.00	3.70	2.50	0.40	3.5										

創薬科学科 (兼薬学科)	生体機能能生化学	教授	もりやま よしのり 森山 芳則	男	58	1998. 10. 1	1998. 10. 1	薬学セミナーII		0.80										0.80
								医薬品開発序論 I		0.20										0.20
								英語(薬学部1)		0.10										0.10
								英語(薬学部2)		0.40										0.40
								薬学ガイダンス		0.80										0.80
								計	2.80	0.30	0.80	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.80	0.30	0.80
								薬学ガイダンス	0.40											0.40
								薬学セミナー-I, II		0.30										0.30
								基礎薬学系実習I							1.10					1.10
								医学部基礎病態演習				0.50								0.50
								薬学部放射線の発生と撮影機器	0.30											0.30
					男	48	2008. 10. 1	2008. 10. 1	薬品分析学(分析科学)I	0.80										0.80
								薬品分析学(分析科学)II		0.90										0.90
								薬品分析学III	0.70											0.70
								計	2.20	0.90	0.30	0.00	0.50	0.00	1.10	0.00	0.00	3.30	1.40	0.30
								科学の扉を開く:自然界の毒	0.20											0.20
								健康と医薬品	0.30											0.30
								薬学セミナー-I, II		0.80										0.80
								薬学ガイダンス	0.80											0.80
								医療薬学系実習 III (2)				0.40								0.40
								薬物治療学II	0.80											0.80
								臨床薬学	0.20											0.20
					女	55	2004. 1. 1	2004. 1. 1	臨床薬学演習3			0.20								0.20
								細胞療法・診断学	0.80											0.80
								早期体験学習			0.10									0.10
								総合薬学演習II				0.20								0.20
								薬局実習訪問												1.60
								計	3.10	0.00	0.80	0.10	0.20	0.40	0.00	1.60	3.20	0.60	2.60	
								医薬品開発学	0.80											0.80
								薬学セミナー-I, II		0.80										0.80
								臨床薬物動態学	1.50											1.50
								早期体験学習				0.10								0.10
								コミュニケーションファーマシー	0.10											0.10
								薬事法規		0.80										0.80
								情報処理入門		0.90										0.90
								あいば てつや												

岡山大学大学院薬学研究科
修士課程修了
薬学博士

北海道大学大学院薬学研究科
修士課程修了
薬学博士

熊本大学薬学部卒業
博士(薬学)

京都大学

薬学科 (兼創薬科学科)	臨床精神薬学	男	47	2005. 11. 1	2005. 11. 1	きたむら よしひさ	北村 佳久	准教授	計	2.40	2.80	0.80	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	4.00	2.80	0.80	4.2								
									薬剤師倫理学	0.20																				
									臨床薬学	0.20																				
									調剤学	1.20																				
									実務実習オリエンテー ション		0.10																0.10			
									実務実習事前学習1		0.30																0.30			
									実務実習事前学習2		1.00																1.00			
									実務実習事前学習3		0.50																0.50			
									実務実習事前学習4		0.10																0.10			
									実務実習事前学習5		0.30																0.30			
									薬物治療学 I	0.60																	0.60			
									薬物治療学 II	0.20																	0.20			
									健康と医薬品:健やか に生きる		0.30																	0.30		
									早期体験学習			0.10															0.10			
									臨床薬学演習 III				0.20																0.20	
総合薬学演習 II					0.20															0.20										
病院実務実習																				1.00										
薬局実務実習																				0.40										
計	2.40	2.60	0.00	0.10	0.20	0.20	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.50	2.80	1.60	4.3									
創薬科学科 (兼薬学科)	創生医薬化学	男	43	2012. 4. 1	2012. 4. 1	まつの けんじ	松野 研司	准教授	有機化学II		0.80										0.80									
									医薬化学II		0.70															0.70				
									基礎薬学系実習 II																	1.00				
									薬学セミナー-I, II		0.40																		0.40	
									薬学ガイダンス	0.40																	0.40			
									計	0.40	1.50	0.40	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.40	1.50	0.40	1.9	
									核融合化学と医療:いま 世界で		0.60																	0.60		
									薬学セミナー-I, II			0.80																	0.80	
									薬学ガイダンス	0.80																	0.80			
									複素薬化学	1.60																	1.60			
									基礎薬学系実習II																		1.00			
									薬局実務実習																				0.80	
									無機化学	0.90																	0.90			
									計	3.30	0.60	0.80	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	4.30	0.60	1.60	4.1
									科学の扉を開く:自然 界の毒	0.20																			0.20	
創薬の科学	0.30																			0.30										
英語(薬学部1)		0.30																	0.30											
創薬科学科 (兼薬学科)	分子薬化学	男	64	1989. 2. 16	1989. 2. 16	ながまつ とむひさ	永松 朝文	准教授	計	3.30	0.60	0.80	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	4.30	0.60	1.60	4.1							
									核融合化学と医療:いま 世界で		0.60																0.60			
									薬学セミナー-I, II			0.80																	0.80	
									薬学ガイダンス	0.80																	0.80			
									複素薬化学	1.60																	1.60			
									基礎薬学系実習II																		1.00			
									薬局実務実習																				0.80	
									無機化学	0.90																	0.90			
									計	3.30	0.60	0.80	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	4.30	0.60	1.60	4.1
									科学の扉を開く:自然 界の毒	0.20																			0.20	
									創薬の科学	0.30																			0.30	
									英語(薬学部1)		0.30																	0.30		

創薬科学科 (薬薬学科)	准教授	黒田 照夫	男	41	2003. 4. 1	2004. 7. 1	英語(薬学部)1	0.50											0.50	
							英語(薬学部)2	0.50												
							薬局実習												0.40	
							薬学ガイダンス	0.40											0.40	
							ケミカルバイオハザード学		0.10										0.10	
							計	3.30	0.60	0.40	0.00	0.00	0.00	1.40	0.40	3.30	2.00	0.80		3.5
							薬品分析学III	0.70								0.70				
							基礎薬学系実習I				1.10					1.10				
							薬品分析学I		0.70								0.70			
							薬品分析学II		0.30								0.30			
							薬学セミナーI, II			0.30									0.30	
							薬学ガイダンス	0.30								0.30				
							創薬のための基礎化学	0.30								0.30				
			男	56	1987. 6. 1	1995. 4. 1	英語(薬学部1)		0.50									0.50		
							英語II(薬学部2)	0.50									0.50			
							情報処理入門	0.80									0.80			
							コンピュータ化学		0.80								0.80			
							薬事行政		0.40								0.40			
							計	2.60	2.70	0.30	0.00	0.00	0.00	1.10	0.00	3.70	2.70	0.30		3.5
							情報処理入門	0.80								0.80				
							創薬の科学	0.30								0.30				
							くすりの話		0.20								0.20			
							英語(薬学部1)		0.30								0.30			
							英語(薬学部2)	0.30								0.30				
							薬学セミナーI, II			0.30									0.30	
							薬学ガイダンス	0.30								0.30				
							薬品分析学II		0.50								0.50			
							医薬品構造解析学		0.80								0.80			
							薬事行政		0.40								0.40			
							薬局実務実習								0.40					
							基礎薬学系実習I								1.10					
							計	1.70	2.20	0.30	0.00	0.00	0.00	1.10	0.40	2.80	2.20	0.70		3.2
							プロフェッショナルをめざすあなたへ	0.10								0.10				
							SGD入門				0.20					0.20				
							早期体験学習				0.10					0.10				
							医学科 早期体験実習				0.50					0.50				

(基礎資料11) 卒業研究の配属状況

4年生の在籍学生数 40名

5年生の在籍学生数 44名

6年生の在籍学生数 41名

	配属講座名	指導 教員 数	4年生 配属学生数	5年生 配属学生数	6年生 配属学生数	その他	合計	配属学生1名当 たりの研究室の 広さ (㎡)
1	健康機能解析学	1	1			5	6	15.2
2	薬剤設計評価学	1	3	2	1	6	12	7.5
3	臨床薬物動態学	1	1	1	2	2	6	15.2
4	国際感染症制御学	1	1	1		8	10	9.1
5	薬品作用学	1	2			8	10	9
6	薬効学	1	1			2	3	30.3
7	炎症薬物学	1	1	1	2	1	5	18.2
8	生物薬剤学	1	2	2	3	15	22	4.1
9	薬物送達学	1		1		4	5	18.2
10	創生医薬化学	1		2		9	11	8.2
11	生薬化学	1	2	2	3	10	17	5.3
12	生体機能性天然物化学	1	1	1	1	7	10	9.1
13	合成薬品開発学	1			1	6	7	13
14	合成薬品製造学	1	1	2	4	12	19	4.7
15	生体物理化学	1		3	2	5	10	9
16	神経生物物理学	1	1	1	1	7	10	9.1
17	生体膜機能生化学	1	1		1	11	13	6.9
18	膜蛋白質機能科学	1	1			3	4	22.8
19	蛋白質機能制御科学	1		2	1	6	9	10
20	遺伝子毒性科学	1	1	1	1	4	7	13
21	分子毒性薬科学	1	1	1	1	4	7	13
22	微生物医薬品開発学	1	1	1	3	8	13	7
23	衛生代謝化学	1	2	2	2	6	12	7.5
24	分子衛生科学	1	1	1	1	5	8	11.4
25	環境生物薬学	1	2	3	3	7	15	6
26	免疫医薬品科学	1	1	3	3	9	16	5.6
27	臨床精神薬学	1	2	3	2	4	11	2.4
28	医薬教育統合開発センター(薬学教育部門)	1	3	3	1	1	8	3.3
29	救急薬学	1	1	3	1	2	7	3.7
30	臨床薬剤学	1	6	2	1	0	9	8.1
	合 計	30	40	44	41	177	302	

[注] 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。

(基礎資料12) 講義室等の数と面積

平成24年4月1日現在

キャンパス	講義室・演習室 学生自習室等	室数	総面積(m ²) (A)	専用・共用 の別	収容人員 (総数)	利用学生 総数 (B)	利用学生1人当 たり面積(m ²) (A/B)	備考
津島キャンパス	講義室	6	708	専用	640	424	1.67	
	実習室	4	436	専用	125	121	3.60	第1.2基礎実習室及び調剤実習室1.2
	学生自習室	3	103	専用	52	424	0.24	アメニティースペース

[注]

- 1 6年制薬学教育において使用するキャンパスごとに記入してください。
- 2 全学で全ての施設を共用している場合は、「キャンパス」欄に「全学共通」と記入してください。
- 3 共有・全学共通の場合は備考欄にその学部名(学生数)を記載し、「利用学生総数(B)」欄にもその数を含めて記入してください。
- 4 「利用学生1人当たり面積」は、小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位まで記入してください。
- 5 例示のように適宜行を追加して作成してください。

(基礎資料13) 学生閲覧室等の規模

平成24年4月1日現在

図書室(館)の名称	学生閲覧室 座席数(A)	学生収容定員数 (B)	収容定員に対する 座席数の割合(%) A/B*100	その他の自習室の 名称	その他の自習室 の座席数	その他の自習室の 整備状況	備考
中央図書館	1,103	13,406	8.2	なし	0	PC 82台	全11学部学生数 10,243 全大学院学生数 3,163
鹿田分館	180	2,436	7.4	なし	0	PC 6台	医・歯学部学生数 1,711 大学院学生数 725
資源植物科学 研究所分館	25	552	4.5	セミナー室1部屋	8	PC 1台	農学部学生数 531 大学院学生数 21
薬学部図書室	13	528	2.5	アメニティース ペーパー3部屋 情報処理室1部屋	52 56	PC 56台	薬学部学生数 424 大学院学生数 104
計	1,321	16,922	7.8	5	116	PC 145台	

- [注] 1 「学生収容定員数(B)」には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。
- 2 「備考」欄には学生収容定員数(B)の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。
- 3 「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理末端をいくつ設置しているかを記載してください。

(基礎資料14) 図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数 (数)		定期刊行物の種類 (種類)		視聴覚資料の 所蔵数 (点数)	電子ジャー ナルの種類 (種類)	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の冊数	開架図書の 冊数(内)	内国書	外国書			平成22年度	平成23年度	平成24年度	
中央図書館	1,650,011	359,686	19,546	9,548	4,392	8,354	15,510	18,227	8,873	電子ジャーナル は中央図書館で 集中管理 H24年度受入状 況はH24年12月 31日現在
鹿田分館	292,366	42,385	1,757	2,066	395	0	1,693	16,786	1908	
資源植物科学 研究所分館 (H25年1月31日現在)	186,023	186,023	7,682	4,658	22	0	703	745	53	
薬学部図書室	941	941	0	0	99	0	0	276	140	
計	2,129,341	589,035	28,985	16,272	4,908	8,354	17,906	36,034	10,974	

- [注] 1 雑誌等ですずに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。
- 2 開架図書の冊数(内)は、図書の冊数のうち何冊かを記入してください。
- 3 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含めてください。
- 4 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。
- 5 視聴覚資料の所蔵数については、タイトル数を記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

(目次) 教員一覧

平成24年7月1日現在

薬学部	学 科 目	分 野	教 授	准教授	助 教
薬学科	医療薬学	臨床薬効解析学		高山 房子 (103)	
		薬物療法設計学	黒崎 勇二 (91)		
		臨床薬物動態学		合葉 哲也 (105)	
		分子医薬品情報学			
		国際感染症制御学		金 恵淑 (107)	
		薬品作用学	上原 孝 (93)		
		薬効学		西屋 禎 (109)	
		炎症薬物学		杉本 幸雄 (110)	
		生物薬剤学	檜垣 和孝 (94)		
		薬物送達学		大河原 賢一 (111)	
		生体物理化学	勝 孝 (95)		
		神経生物物理学		井上 剛 (112)	
		構造生物薬学	山下 敦子 (97)		
		蛋白質機能制御科学	岡本 敬の介 (98)		高橋 栄造 (120)
		遺伝子毒性科学		根岸 友恵 (113)	
		分子毒性薬科学		有元 佐賀恵 (114)	
		衛生代謝化学	成松 鎮雄 (99)		
		分子衛生科学		埴岡 伸光 (116)	
		環境生物薬学	三好 伸一 (100)		
		免疫生物学		田中 智之 (117)	
医薬品臨床評価学	狩野 光伸 (102)				
臨床精神薬学		北村 佳久 (118)	小山 敏広 (121)		
救急薬学		名倉 弘哲 (119)			
創薬科学科	医薬品開発科学	創生医薬化学	宮地 弘幸 (122)	松野 研司 (129)	
		分子薬化学		永松 朝文 (130)	
		生薬化学	波多野 力 (124)		
		生体機能性天然物化学		伊東 秀之 (131)	
		合成薬品製造学	竹内 靖雄 (125)		西岡 弘美 (137)
		合成薬品開発学		加来田 博貴 (132)	
		生体膜機能生化学	森山 芳則 (126)		日浅 未来 (138) [特別契約職員]
		膜蛋白質機能科学		表 弘志 (133)	
		分子微生物学			小川 和加野 (139)
		微生物医薬品開発学		黒田 照夫 (134)	
		生体機能分析学	榎本 秀一 (128)		
		生物無機分析化学		御船 正樹 (135)	
		薬品構造解析学		岩藤 章正 (136)	
学部長室				高取 真吾 (140)	
				佐藤 聡 (141)	
				座間味 義人 (143)	
附属薬用植物園				谷口 抄子 (144)	
医療教育統合開発センター 薬学教育部門			須野 学 (145)		

[注] 氏名の後の()内に頁数を示す。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岡山大学	講座名	製剤設計評価学
		職名	教授
		氏名	黒崎 勇二
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (シャトルカードの導入) (学生による授業評価) (同僚による授業評価)	平成18年4月 ～現在 平成20年度後期 平成22年5、6月	岡山大学薬学部で最初にシャトルカードを導入した。平成18年度以降は全担当授業(講義)で活用している。 新規開講した「薬物投与設計序論」のアンケート結果は、4.6点(5点満点)であり、薬学部後期開講科目中で最高の評価であった。 平成22年度に「臨床医薬品治療学Ⅱ」の同僚評価を受け、さらなる授業改善につながるコメントが得られた。
2	作成した教科書、教材、参考書	平成23年10月 平成21～24年	黒崎勇二, 臨床薬物速度論, 「薬剤学」(第5版)(瀬崎 仁, 木村聡城郎, 橋田 充 編), 廣川書店, 東京, 2011, pp. 453-519. 「臨床薬学」の授業で使用するPBL用の患者シナリオを授業担当教員・薬剤師と共に作成した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成20年5月、 平成21年5月、 平成23年5月、 平成24年5月	日本薬剤学会の各年会において、薬剤学教育に関するシンポジウムを企画し、オーガナイザー、座長ならびに講演を行った。 (日本薬剤学会第23年会(2008年5月, 札幌市)、(第24年会(2009年5月, 静岡市)、(第26年会(2011年5月, 東京)、(第27年会(2012年5月, 神戸市))
4	その他教育活動上特記すべき事項 (薬学教育第三者評価) (OSCE) (実務実習) (先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンスト教育プログラムの共同開発) (FD活動) (メンタルヘルス研修) (ハラスメント防止研修)	平成20年8月 平成21年1月 平成22年8月 平成23年2月 平成24年3月 平成20年9月 平成21年11月、 12月 平成21年12月、 平成23年 平成21年度 平成21年11月 平成22年度 平成20年9月～ 平成24年6月 平成24年2月 平成22年12月、 平成23年11月	「第2回薬学教育第三者評価に関するワークショップ」(H20年8月, 東京)に参加した。 薬学教育評価機構の全国説明会(H21年1月, 京都薬科大学)に参加し、「自己評価21」の実施概要の説明を受けた。 「第1回薬学教育評価者セミナー」(H22年8月, 東京)に参加し、外部評価者としての研修を受けた。 「トライアル実施校説明会」(H23年2月, 東京)に参加し、平成23年度実施の「薬学教育評価(トライアル)」の説明を受けた。 日本薬学会第132年会のシンポジウム「6年制薬学教育プログラムの第三者評価～トライアルから本評価へ～」で「トライアル評価の概要：国立大学の立場から」を発表した。 本学で実施した「OSCEトライアル」(H20年9月28日)に評価者として参加した。 就実大学および本学で開催された「OSCE評価者講習会」に参加した。 本学で実施された「OSCE」に評価者として参加した。 薬学教育協議会中国四国地区調整機構の「第三者委員会設立準備委員会」の委員長を務めた。 実務実習受け入れ施設の指導薬剤師を対象に「ハラスメント防止講習会」を主催した。 特別経費「先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンスト教育プログラムの共同開発」事業の本学における実施責任者を担当した。岡山大学は第2グループ(東北大学、東京大学、岡山大学)の代表校として事業を推進した。 第8回～第26回のFDフォーラムに参加し、本学のFDに関する諸問題についての見識を深めた。 平成23年度岡山大学メンタルヘルス講演会「これからのメンタルヘルス」に参加した。 平成22年度および平成23年度の岡山大学ハラスメント防止講演会に参加し、見識を深めた。

II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）薬物の口腔粘膜吸収特性と口腔粘膜からの薬物吸収性の改善。「難吸収性薬物の吸収性改善と新規投与製剤の開発」（山本 昌 監修）	共著	平成24年4月	シーエムシー出版
（論文）Yukiko Komori, Tetsuya Aiba, Miki Kushima, Hiromu Kawasaki and Yuji Kurosaki: Alteration of therapeutic efficacy of lipid microspheres incorporating prostaglandin E1 by mixing with aqueous solution.	共著	平成19年4月	J. Pharm. Sci., 96 (4): 935-943
（論文）Yuji Kurosaki, Masahiro Tagawa, Akiho Omoto, Hiroshi Suito, Yukiko Komori, Hiromu Kawasaki and Tetsuya Aiba: Evaluation of intramuscular lateral distribution profile of topically administered acetaminophen in rats.	共著	平成19年5月	Int. J. Pharm., 343 (1-2): 190-195
（論文）Takashi Makita, Tetsuya Aiba, Yuki Izuwa, Yukiko Komori, Hiromu Kawasaki and Yuji Kurosaki: Efficacy of peritoneal dialysis of tolbutamide in rats under conditions of the plasma unbound fraction being increased.	共著	平成21年1月	Biopharm. Drug Dispos., 30 (1): 1-8
Shinsuke Inoue, Tetsuya Aiba, Yasuyuki Masaoka, Keiko Shimizu, Yukiko Komori, Mitsunobu Mio, Shingo Takatori, Hiromu Kawasaki and Yuji Kurosaki: Pharmacodynamic characterization of nitric oxide-mediated vasodilatory activity in isolated perfused rat mesenteric artery bed.	共著	平成23年9月	Biol. Pharm. Bull., 34 (9): 1487-1492
III 学会等および社会における主な活動			
平成12年1月～現在	日本薬物動態学会 評議員		
平成13年3月～現在	日本薬剤学会 評議員		
平成14年1月～平成21年12月	日本医療薬学会 評議員		
平成18年4月～平成19年3月	日本薬学会中国四国支部幹事		
平成19年6月～現在	日本DDS学会 評議員		
平成20年4月～平成23年3月	薬学教育協議会 中国・四国地区病院・薬局実務実習調整機構 委員		
平成20年4月～平成23年3月	岡山県薬剤師会 薬局実習特別委員会 委員		
平成21年2月～現在	一般社団法人 薬学教育評価機構 薬学教育評価実施委員		
平成21年8月～現在	日本医療薬学会 代議員		
平成22年4月～平成23年3月	薬学教育協議会 中国・四国地区病院・薬局実務実習調整機構 第三者委員会設立準備委員会 委員長		
平成23年4月～平成25年3月	日本薬学会 代議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 岡山大学	講座名 薬品作用学	職名 教授	氏名 上原 孝
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成22年4月～	出席票を講義中に一人ずつ配布し、質問および感想を記入させた。理解しづらかったところや質問を把握し、次回の講義の冒頭で説明した。ノートをきちんと付けることを何度も伝え、実際の記入方法を講義外にチェック・指導した。ノート作成を充実させるために講義はすべて板書スタイルとし、毎回、他の専門書に記載されている事項をプリントで配布した。なお、学生が行うアンケートは常にベスト3内にランクされており、他の教員も見学に来ることもある。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成22年4月～	薬学部で開催されるFDフォーラムに毎回出席し、種々の問題提起と解決方法を探っている。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Takashi Uehara. Accumulation of misfolded protein through nitrosative stress linked to neurodegenerative disorders.	単著	2007年5月	Antioxid Redox Signal. 9(5):597-601.
(論文) Takashi Uehara & Tadashi Nishiya. Screening systems for the identification of S-nitrosylated proteins.	共著	2011年2月	Nitric Oxide. 25(2):108-11.
(論文) Naoki Numajiri, Kumi Takasawa, Tadashi Nishiya, Hiroataka Tanaka, Kazuki ohno, Wataru Hayakawa, Mariko Asada, Hiromi Matsuda, Kaoru Azumi, Hideaki Kamata, Tomohiro Nakamura, Hideaki Hara, Masabumi Minami, Stuart A. Iipton, & Takashi Uehara. On-off system for PI3-kinase-Akt signaling through S-nitrosylation of phosphatase with sequence homology to tensin (PTEN).	共著	2011年6月	Proc Natl Acad Sci U S A. 108(25):10349-54.
(著書) 上原 孝: NOはPI3-キナーゼ-Aktシグナルのスイッチ分子として機能している。	単著	2011年11月	羊土社, 実験医学29(18), 2994-2997
(著書) 鎌田英明, 上原 孝: 発癌/神経細胞の生死に関わる細胞内ROSシグナル制御	共著	2012年2月	学研メディカル秀潤社, 細胞工学31(2), 165-170
III 学会等および社会における主な活動			
1993年3月～	日本薬理学会評議員		
2006年9月～	日本神経化学会評議員		
2010年12月1日～2012年11月30日	日本学術振興会科学研究費委員会専門委員		
2011年3月～	日本NO学会理事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 岡山大学	講座名 薬物動態制御学	職名 教授	氏名 檜垣 和孝
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成18年4月～ 現在 平成24年3月	講義で触れる内容は、図表を中心に、全て、パワーポイントで提示し、同じ内容をレジュメとして配付している。細かな内容については、口述し、レジュメに書き込むように指示している。適宜、関連する教科書のページも示している。質問も励行しており、毎年、多くの学生が質問に訪れる。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成19年8月 平成21年1月 平成21年2月 平成23年10月	薬剤学(第4版) 廣川書店 (共著) 演習で理解する生物薬剤学(第1版) 廣川書店 (共著) 医学大辞典 (第2版) 医学書院 (共著) 薬剤学(第5版) 廣川書店 (共著)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成18年4月～ 現在 平成24年3月	薬学部FDフォーラムには毎回出席し、FDに関する諸問題への見識を高めた。また全学のFDフォーラムである「桃太郎フォーラム」にも数回出席した。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書) 難水溶性薬物の物性評価と製剤設計の新展開	共著	平成22年1月	シーエムシー出版
(著書) ヘプテド・タンパク性医薬品の新規DDS製剤の開発と応用	共著	平成23年6月	メディカルドゥ
(論文) . Fujioka, K. Kadono, Y. Fujie, Y. Metsugi, K. Ogawara, K. Higaki and T. Kimura: Prediction of oral absorption of griseofulvin, a BCS class II drug, based on GITA model: Utilization of a more suitable medium for in-vitro dissolution study.	共著	平成19年2月	Journal of Controlled Release, 119 (2) 222-228 (2007).
(論文) T. Hironaka, S. Itokawa, K. Ogawara, K. Higaki and T. Kimura: Quantitative evaluation of PEPT1 contribution to oral absorption of cephalexin in rats.	共著	平成21年1月	Pharmaceutical Research, 26 (1) 40-50 (2009).
(論文) N. Kamada, K. Yamada, M. Odomi, T. Mukai, T. Nishibayashi, K. Ogawara, T. Kimura and K. Higaki: Sex differences in pharmacokinetics of cilostazol in rats.	共著	平成23年10月	Xenobiotica, 41 (10) 903-913 (2011).
III 学会等および社会における主な活動			
平成15年4月～平成24年3月	日本薬剤学会評議員		
平成15年4月～平成24年3月	日本薬物動態学会評議員		
平成17年4月～平成24年3月	Drug Metabolism and Pharmacokinetics 編集委員		
平成21年7月～平成24年3月	日本DDS学会評議員		
平成22年4月～平成24年3月	日本薬学会中四国支部幹事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岡山大学	講座名	生体分子解析学
		職名	教授
		氏名	勝 孝
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			講義時間内での学習効果を高めるために、教科書を使用する以外に、到達目標にあった演習問題および講義資料を作成し、学生に配布している。岡山大学で行っている学生による授業評価(5段階評価; 評点5=良い → 評点1=悪い)では、私が担当した物理化学関連講義の過去3年間(平成21年度から平成23年度)の平均評点は4.07であった。比較的高い評価を得ている。
2 作成した教科書、教材、参考書			
1) 日本薬学会編 スタンダード薬学シリーズ2 物理系薬学 IV. 演習編, 東京化学同人		平成20年5月7日	本書の編集を担当するとともに「溶液の化学」の章を執筆した。学生の主体的で効率のよい物理系薬学の学習の手助けとなるようSBO(到達目標)ごとに問題を基本問題、例題、練習問題に区分し、各章末には演習問題を用意した。丁寧な解答例と解説をつけ、教科書を参照せずに演習書単独でも学習できるよう工夫を行った。
2) 日本薬学会編 スタンダード薬学シリーズ2 物理系薬学 I. 物質の物理的性質(第2版), 東京化学同人		平成23年3月29日	本書の編集を担当するとともに「溶液の化学」の章を執筆した。物理化学の広範な内容を薬学部教育の限られた時間のなかで成果をあげるために、学習目標を明確にした教科書を作成した。学習目標はG10(一般目標)とSBO(到達目標)に分けて示しており、医療系学部で基礎となる物理化学を効果的に学習するための工夫を行った。
3) 日本薬学会編 薬学用語辞典, 東京化学同人		平成24年3月23日	薬学の専門用語を簡潔に解説することを目的として、本辞典の物理化学関連事項について執筆した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
1) 第2回物理系薬学の教育と研究を展望するシンポジウム(主催: 日本薬学会物理系薬学部会, 開催場所: 東京)		平成21年1月7日	「物理化学の講義における工夫」という演題で講演を行った。
2) 第3回物理系薬学の教育と研究を展望するシンポジウム(主催: 日本薬学会物理系薬学部会, 開催場所: 東京)		平成22年1月8日	「入門科目における物理化学の取り組み」という演題で講演を行った。
3) 科学Tryアングル岡山FD講演会(平成20年度採択 文部科学省「戦略的大学連携支援事業」, 開催場所: 岡山)		平成22年7月24日	「薬学と物理化学: 教育の現状」という演題で講演を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			薬学部FDフォーラムには毎回出席するとともに、平成21年度には全学のFDフォーラムである「桃太郎フォーラムXII」に出席した。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
			発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Takashi Katsu, Yumi Tsunamoto, Nobumitsu Hanioka, Keiko Komagoe, Kazufumi Masuda, Shizuo Narimatsu. A caffeine-sensitive membrane electrode: previous misleading report and present approach.		共著	平成20年7月
			Analytica Chimica Acta, 620(1-2): 50-54.
(論文) Keiko Komagoe, Hiroaki Takeuchi, Takashi Katsu. Oxygen electrode as a new tool to evaluate hydroxyl radical-scavenging ability.		共著	平成20年9月
			Sensors and Actuators B, 134(2): 516-520.
(論文) Satoshi Nakao, Keiko Komagoe, Tsuyoshi Inoue, Takashi Katsu. Comparative study of the membrane-permeabilizing activities of mastoparans and related histamine-releasing agents in bacteria, erythrocytes, and mast cells.		共著	平成23年1月
			Biochimica et Biophysica Acta, 1808(1): 490-497.

(論文) Keiko Komagoe, Hisato Kato, Tsuyoshi Inoue, Takashi Katsu. Continuous real-time monitoring of cationic porphyrin-induced photodynamic inactivation of bacterial membrane functions using electrochemical sensors.	共著	平成23年7月	Photochemical & Photobiological Sciences, 10(7): 1181-1188.
(論文) Hisato Kato, Keiko Komagoe, Yuka Nakanishi, Tsuyoshi Inoue, Takashi, Katsu. Xanthene dyes induce membrane permeabilization of bacteria and erythrocytes by photoinactivation.	共著	平成24年3月	Photochemistry and Photobiology, 88(2): 423-431.
Ⅲ 学会等および社会における主な活動			
平成13年3月～現在	文部科学省 科学技術政策研究所 科学技術動向研究センター 専門調査員		
平成15年12月～平成20年8月	学術誌 Sensor Letters 編集委員		
平成20年2月～平成22年1月	日本薬学会代議員		
平成21年3月～現在	日本分析化学会中国四国支部常任幹事		
平成21年4月～平成24年3月	日本薬学会学術誌編集委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 岡山大学	講座名 構造生物薬学	職名 教授	氏名 山下 敦子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成18年4月～ 現在	最先端の研究内容も盛り込んだ内容の講義を行い、聴講学生からもわかりやすかったとの感想を得た。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成24年6月～ 現在	着任後開催された薬学部FDフォーラムに出席し、FDに関する諸問題への見識を高めた。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) 化学受容の科学-匂い・味・フェロモン 分子から行動まで	共著	平成24年2月	化学同人
(論文) Ashikawa Y, Ihara M, Matsuura N, Fukunaga Y, Kusakabe Y, Yamashita A. "GFP-based evaluation system of recombinant expression through the secretory pathway in insect cells and its application to the extracellular domains of class C GPCRs"	共著	平成23年10月	Protein Sci. 20, 1720- 1734.
(論文) Ihara, M., Matsuura, N., Yamashita, A. "High-resolution Native-PAGE for membrane proteins capable of fluorescence detection and hydrodynamic-state evaluation"	共著	平成23年3月	Anal. Biochem. 412, 217- 223.
(論文) Singh SK, Piscitelli CL, Yamashita A, Gouaux E. "A competitive inhibitor traps LeuT in an open-to-out conformation"	共著	平成20年12月	Science 322, 1655-1661.
(論文) Singh SK, Yamashita A, Gouaux E. "Antidepressant binding site in a bacterial homologue of neurotransmitter transporters."	共著	平成19年8月	Nature 448, 952-956.
III 学会等および社会における主な活動			
平成21年1月～平成22年12月	「生物物理」編集委員		
平成22年6月～現在	アステラス病態代謝研究会学術委員		
平成23年1月～現在	日本生物物理学会運営委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岡山大学	講座名	蛋白質機能制御科学
職名	教授	氏名	岡本 敬の介
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成16年4月～ 現在	出席カードに質問欄、感想欄をもうけ、毎授業ごとにそのカードを提出させている。寄せられた質問には次の授業時間に答え、講義の理解を深めるようにしている。学生のみならず平成21年度には同僚評価も受け、力量ある講義との評価を受けた。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成15年9月～ 現在	薬学部FDフォーラムには毎回出席し、FDに関する諸問題への見識を高めた。また全学のFDフォーラムである「桃太郎フォーラム」には平成21年度に出席した。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(著書) 微生物学用語集		共著	平成19年1月
(著書) 病原体等安全取扱・管理指針		共著	平成20年4月
(論文) Yoshio Fujii, Ken Tsurumi, Masaaki Sato, Eizo Takahashi, Keinosuke Okamoto. Fluid secretion by aerolysin-like hemolysin of <i>Aeromonas sobria</i> in the intestines is due to stimulation of production of prostaglandin E2 via cyclogenase-2 by the intestinal cells.		共著	平成20年3月
(論文) Hiroyasu Yamanaka, Hidetomo Kobayashi, Eizo Takahashi, Keinosuke Okamoto. Mac AB is involved in the secretion of <i>Escherichia coli</i> heat-stable enterotoxin II		共著	平成20年10月
(論文) Eizo Takahashi, Hidenobu Ito, Hidetomo Kobayashi, Hiroyasu Yamanaka, Yoshifumi Takeda, Gopinath Balakrish Nair, Sakae Arimoto1, Tomoe Negishi, Keinosuke Okamoto. Production and properties of lipase of <i>Aeromonas sobria</i>		共著	平成24年5月
III 学会等および社会における主な活動			
平成15年1月～現在	日本細菌学会評議員		
平成15年1月～平成15年9月	科学研究費委員会専門委員		
平成15年4月～平成16年3月	日本薬学会中国四国支部幹事		
平成15年12月～平成19年11月	独立行政法人国際協力機構, インド・下痢症対策(フェーズ2)短期派遣専門家		
平成18年1月～平成18年12月	科学研究費委員会専門委員		
平成20年8月～平成22年7月	薬学共用試験センター試験統括委員会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岡山大学	講座名	衛生代謝制御学
職名	教授	氏名	成松 鎮雄
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成18年1月～ 現在	毎授業の終了時に10分間のミニテストを実施して、その日の重要ポイントの理解度、出席の有無を確認している。寄せられた質問には次の授業時間に答え、講義の理解を深めるようにしている。学部FDフォーラムには毎回出席している。
2	作成した教科書、教材、参考書	平成21年3月 平成24年1月	食品衛生学(第2版)共著 健康と環境(第2版)共著
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成19年4月～ 平成24年3月	薬剤師国家試験委員会委員を平成19年から5年間勤め、薬剤師国家試験問題作成を行った。薬学共用試験問題精選委員会委員を6年間務めている。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(著書) 薬毒物分析学辞典		共著	平成21年9月
(著書) 医薬品トキシコロジー		共著	平成22年11月
(論文) S. Narimatsu, D. Kazamori, K. Masuda, T. Katsu, Y. Funae, S. Naito, H. Nakura, S. Yamano and N. Hanioka. The mechanism causing the difference in kinetic properties between rat CYP2D4 and human CYP2D6 in the oxidation of dextromethorphan and bufuralol.		共著	平成21年2月
(論文) Hanioka N, Tanabe N, Jinno H, Tanaka-Kagawa T, Nagaoka K, Naito S, Koeda A, Narimatsu S. Functional characterization of human and cynomolgus monkey UDP-glucuronosyltransferase 1A1 enzymes.		共著	平成22年10月
(論文) Narimatsu S, Nakanishi R, Hanioka N, Saito K, Kataoka H. Characterization of inhibitory effects of perfluorooctane sulfonate on human hepatic cytochrome P450 isoenzymes: focusing on CYP2A6.		共著	平成23年1月
III 学会等および社会における主な活動			
平成18年1月～現在	日本生化学会評議員		
平成18年1月～現在	日本薬物動態学会評議員		
平成18年1月～平成21年3月	日本薬物動態学会理事		
平成19年4月～平成24年3月	薬剤師国家試験委員会委員(厚生労働省)		
平成20年5月	シンポジウム Molecular Chirality 2008を主催		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 岡山大学	講座名 環境生物薬学	職名 教授	氏名 三好 伸一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			なし
2 作成した教科書、教材、参考書		平成22年 1月20日	衛生薬学の教科書として、環境衛生の科学(第2版)(三共出版)を執筆・出版した。
		平成22年 2月20日	衛生薬学の参考書として、衛生試験法・注解2010(日本薬学会編)(金原出版)の微生物試験法の章を執筆し出版した。
		平成23年 4月10日	医学薬学生を対象とした微生物学の教科書として、シンプル微生物学(改訂第5版)(南江堂)の腸内細菌科の章を執筆し出版した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成22年4月～ 平成24年3月	教育改善等助成資金として、大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム「岡山オルガノンの構築：学士力・社会人基礎力・地域発進力の融合を目指した教育」の交付を受け、e-learningシステムを利用した大学間の教育連携の推進に努めた。
		平成22年 8月27日	平成22年度文部科学省薬学教育指導者のためのワークショップ(於：慶応義塾大学本学薬学部)に参加し、意見交換を行った。
		平成22年 9月11日～12日	本学教育開発センター生涯学習・教育連携部門長として、第7回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム(於：大阪府立大学中百舌鳥キャンパス)に参加し、意見交換を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成21年4月～ 現在	薬学部ファカルティ・コーディネーター(FC)として、全学FC研修会に参加すると共に、学部および学科のディプロマポリシー、ならびにカリキュラムポリシーの策定等を行った。
		平成22年 9月10日	本学が実施している桃太郎フォーラムXIIIIに参加した。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(著書) Shinoda S, Miyoshi S. Hemolysins of <i>Vibrio cholerae</i> and other <i>Vibrio</i> species		共著	平成18年
(著書) 三好 伸一. ビブリオ・ブルニフィカス (<i>Vibrio vulnificus</i>)		単著	平成23年
(論文) Miyoshi S, Nitanda Y, Fujii K, Li T, Maehara Y, Ramamurthy T, Takeda Y, Shinoda S. Differential gene expression and extracellular secretion of the collagenolytic enzymes by the pathogen <i>Vibrio parahaemolyticus</i>		共著	平成20年
(論文) Miyoshi S, Abe Y, Senoh M, Mizuno T, Maehara Y, Nakao H. Inactivation of <i>Vibrio vulnificus</i> hemolysin through mutation of the N- or C-terminus of the lectin-like domain		共著	平成23年
(論文) Miyoshi S, Wang J, Katoh K, Senoh M, Mizuno T, Maehara Y. An extracellular serine protease produced by <i>Vibrio vulnificus</i> NCIMB 2137, a metalloprotease-gene negative strain isolated from a diseased eel		共著	平成24年
III 学会等および社会における主な活動			

平成17年1月～現在	Toxin Reviews 編集委員
平成17年4月～平成20年3月	毒素シンポジウム運営委員
平成17年6月～現在	日本防菌防黴学会評議員
平成17年6月～現在	Biocontrol Science 編集委員
平成19年4月～現在	日本薬学会 環境・衛生部会 試験法委員会委員
平成19年4月～現在	日本薬学会 環境・衛生部会 試験法委員会 微生物試験法専門委員会委員長
平成20年2月～現在	日本薬学会代議員
平成20年2月～平成21年1月	日本薬学会中国四国支部幹事
平成20年2月～現在	日本薬学会代議員
平成20年2月～平成21年1月	日本薬学会中国四国支部幹事
平成20年4月～現在	日本食品微生物学会評議員
平成21年1月～現在	日本細菌学会評議員
平成21年1月～平成23年12月	日本細菌学会広報委員会委員
平成21年5月～現在	Toxins編集委員
平成22年9月	日本薬学会学会賞第1次選考委員
平成23年6月～現在	日本防菌防黴学会理事
平成23年6月～現在	防菌防黴誌編集委員

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧				
大学名	岡山大学	講座名	医薬品臨床評価学	
職名	教授	氏名	狩野 光伸	
I 教育活動				
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要	
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成19年9月～ 平成24年6月	東京大学医学部MD研究者育成プログラムの立案・企画・実行・運営	
2	作成した教科書、教材、参考書		なし	
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成21年 3月27日	阪大医学部FD講演「医学部でリサーチマインドを育てるには？ 東京大学医学部MD研究者育成プログラムの試み」	
		平成23年 3月28日	第88回日本生理学会大会/第116回日本解剖学会総会・全国学術集会 合同大会（シンポジウム） 医学部でリサーチマインドを育てるには？ 東京大学医学部MD研究者育成プログラムの試み	
		平成23年 10月13日	名大医学部医学特論「医学部でリサーチマインドを育てるには？ 東京大学医学部MD研究者育成プログラムの試み」	
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成20年4月～ 平成24年6月	東大教養学部「Medical Biology入門」設置開講	
		平成20年9月～ 平成24年6月	東大医学部教務委員、教育あり方委員	
		平成22年10月～ 平成24年6月	東大医学部「医学科俯瞰講義」設置・コーディネーター	
II 研究活動				
	著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
	(論文) Improvement of cancer-targeting therapy, using nanocarriers for intractable solid tumors by inhibition of TGF-beta signaling.	共著	平成19年	Proc Natl Acad Sci U S A. 104(9)
	(論文) Inhibition of endogenous TGF-beta signaling enhances lymphangiogenesis.	共著	平成20年	Blood. 111(9)
	(論文) Diffuse-type gastric carcinoma: progression, angiogenesis, and transforming growth factor beta signaling.	共著	平成21年	J Natl Cancer Inst. 101(8)
	(論文) Improving drug potency and efficacy by nanocarrier-mediated subcellular targeting.	共著	平成23年	Sci Transl Med. 3(64)
	(論文) Accumulation of sub-100 nm polymeric micelles in poorly permeable tumours depends on size.	共著	平成23年	Nat Nanotechnol. 6(12)
III 学会等および社会における主な活動				
平成22年9月～	日本学術会議連携会員（平成23年～幹事会附置若手アカデミー委員会 副委員長）			
平成23年6月～	日本DDS学会学術評議員			
平成24年2月～	PLoS One誌 Academic Editor			
平成24年5月～	内閣府総合科学技術会議ライフイノベーション戦略協議会構成員			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧				
大学名 岡山大学	講座名 先端薬物療法開発学	職名 准教授	氏名 高山 房子	
I 教育活動				
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成18年4月～ 現在	出席カードに質問欄、感想欄をもうけ、毎授業ごとにそのカードを提出させている。寄せられた質問には次の授業時間に答え、講義の理解を深めるようにしている。	
		平成22年度	平成22年度には、学生の授業評価アンケートで解りやすい講義の評価を受けた教員の授業を参観し研鑽に努めた。	
		平成23年度	さらなる改善を意図し、平成23年度には同僚評価も受けた。	
2 作成した教科書、教材、参考書			なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成18年4月～ 現在	薬学部FDフォーラムには毎回出席し、FDに関する諸問題への見識を高めた。	
		平成18年	全学のFDフォーラムである「桃太郎フォーラム」には平成18年度に出席した。	
II 研究活動				
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Takayama Fusako, Egashira Toru, Kawasaki Hiromu, Mankura Mitsumasa, Nakamoto Kazuo, Okada Shigeru, Mori Akitane A novel animal model of nonalcoholic steatohepatitis: hypoxemia enhances the development of NASH.		共著	平成21年	J. Clin. Biochem. Nutr, 45: 1～6
(論文) Takayama Fusako, Nakamoto Kazuo, Kawasaki Hiromu, Mankura Mitsumasa, Egashira Toru, Ueki Keiji, Hasegawa Azusas, Okada Shigeru, Mori Akitane Beneficial effects of Vitis coignetiae Pulliat leaves on nonalcoholic steatohepatitis in a rat model		共著	平成21年3月	Acta Med Okayama, 63(2):105～111
(論文) Nakamoto Kazuo, Takayama Fusako, Mankura Mitsumasa, Hidaka Yuhki, Egashira Toru, Ogino Tetsuya, Kawasaki Hiromu, Mori Akitane Beneficial Effects of Fermented Green Tea Extract in a Rat Model of Non-alcoholic Steatohepatitis		共著	平成21年	J Clin Biochem Nutr. 44 (3): 239～246
(著書) J P Kehrer, P Huezoz-Diaz, IWC (訳 高山房子) ・Reductive Stress ・Monoamine Oxidase in ENCYCLOPEDIA of STRESS (ストレス百科事典)		共著[翻訳]	平成21年3月	丸善
(論文) Fusako Takayama, Kazuo Nakamoto, Nagao Totani, Tomoko Yamanushi, Hideaki Kabuto, Takao Kaneyuki, Mitsumasa Mankura Effects of docosahexaenoic acid in an experimental rat model of nonalcoholic steatohepatitis・Fusako Takayama, Kazuo Nakamoto, Nagao Totani, Tomoko Yamanushi, Hideaki Kabuto, Takao Kaneyuki, Mitsumasa Mankura		共著	平成22年8月	J Oleo Sci.・59(8):407～414
III 学会等および社会における主な活動				
～現在		日本薬理学会・学術評議員		
平成21年4月～現在		日本油化学会・関西支部幹事		

平成20年	第113回日本薬理学会近畿部会、第29回グアニジノ化合物研究会・総会 (実行委員)
平成21年	第38回日本心脈管作動物質学会（事務局）

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 岡山大学	講座名 臨床薬物動態学	職名 准教授	氏名 合葉 哲也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成18年度～ 現在	岡山大学全体で採用している「シャトルカード」を担当する全ての担当科目で利用し、講義の都度、学生に講義内容に関する質問や説明が不足していた箇所、講義への要望などを記入してもらい提出させてもらっている。記入させて質問事項には次回の講義までに必ず丁寧に回答し、また寄せられた要望については可能な限り講義内容や講義スタイルに反映させ、学生にとって分かり易いものなるように常に講義の改善を図っている。また、こうした学生からの評価の他、年度の終わりには講義内容の見直しを兼ねた自己評価を行っている。平成19年度には同僚評価も受け、分かり易い講義であると講評を受けた。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成21年度	主に薬学科4年次を対象に、5年次の実務実習を履修するに十分な薬学的知識を涵養することを目的に学部独自に作成した薬学基礎問題について、学生が時間と場所を問わずこれを学習できるようにウェブベースのオンライン履修システムを作成した。本システムは更に総合薬学演習1・2にて利用した他、希望する学生にはCBT受験に向けた学習教材として提供した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成18年度～ 現在	平成21年度までは薬学部FD委員会委員として率先して授業改善に取り組んできた。その後も薬学部FDフォーラムには公用出張の場合を除き、現在まで毎回出席している他、岡山大学教育開発センター主催の全学FDフォーラム「桃太郎フォーラム」にも毎年出席して、学生によりよい学習の機会を与えることができるよう、授業改善に努めている。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Ishikawa A, Kono K, Sakae R, Aiba T, Kawasaki H, Kurosaki Y: Altered electrolyte handling of the choroid plexus in rats with glycerol-induced acute renal failure	共著	平成22年10月	Biopharmaceutics and Drug Disposition, 31(8): 455-463
(論文) Ueshima S, Aiba T, Sato T, Matsunaga H, Kurosaki Y, Ohtsuka Y, Sendo T: Empirical approach for improved estimation of unbound serum concentrations of valproic acid in epileptic infants by considering their physical development	共著	平成23年1月	Biological and Pharmaceutical Bulletin, 34(1): 108-113
(論文) Ogasawara A, Murakami Y, Yakushiji M, Ohsawa F, Kusaba J-I, Aiba T, Kurosaki Y, Kakuta H: Pharmacokinetic properties of newly synthesized retinoid X receptor agonists possessing a 6-[N-ethyl-N-(3-alkoxy-4-isopropylphenyl)amino]nicotinic acid skeleton in rats	共著	平成23年9月	Drug Development and Industrial Pharmacy, 37(9): 1060-1067
(論文) Inoue S, Aiba T, Masaoka Y, Shimizu K, Komori Y, Mio M, Takatori S, Kawasaki H, Kurosaki Y: Pharmacodynamic characterization of nitric oxide-mediated vasodilatory activity in isolated perfused rat mesenteric artery bed	共著	平成23年9月	Biological and Pharmaceutical Bulletin, 34(9): 1487-1492

(論文) Kusaba J-I, Kajikawa N, Kawasaki H, Kurosaki Y, Aiba T: Comparative study on altered hepatic metabolism of CYP3A substrates in rats with glycerol-induced acute renal failure	共著	平成24年1月	Biopharmaceutics and Drug Disposition, 33(1): 22-29
Ⅲ 学会等および社会における主な活動			
平成14年4月～現在	日本薬剤師会・生涯学習委員会委員		
平成22年4月～現在	日本薬剤学会・評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岡山大学	講座名	国際感染症制御学
職名	准教授	氏名	金 惠淑
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成18年4月～ 現在	講義時に参考資料を配布し、授業内容の補足と理解を深める。毎回ではないが、講義途中の3-4回、薬剤師国家試験に関する過去問、及び章末問題のテストを実施し、テスト後に自己採点する。そうすることで、学生自ら講義の到達度と理解度を判断する事が出来、講義の理解を深めるようにした。学生から出た質問等は次回の講義時に解説することで、疑問点はその都度解決した。また、講義の中にSGP (Small group Presentation)を導入し、数名の学生が同じテーマで薬学に関連した内容のプレゼン資料の作成、及び発表する事で、授業内容を学生自ら深める事が出来た。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成18年4月～ 現在	高校への出前講義として岡山県内、島根県等に出張講義を行い、高校生の薬学に関する興味を引き出すための講義、及び大学入試関連情報を提供し、薬学屍の正しい知識を提供した。また、薬学部FDフォーラムに出席し、FDに関する諸問題への見識を高めた。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Kumura, N., Furukawaa, H., Onyangob, A., Izumia, M., Nakajimaa, S., Ito, H., Hatano, T., Kim, H.-S., Wataya, Y. and Baba. Different Behavior of Artemisinin and Tetraoxane in the Oxidative Degradation of Phospholipid.	共著	平成21年	Chemistry and Physics of Lipids, 160(2), 114-120,
(論文) Sato, A., Hiramoto, A., Wataya, Y. and Kim, H.-S. Protein Expression Profiles of Necrosis and Apoptosis Induced by 5-Fluoro-2'-deoxyuridine in Mouse Cancer Cells.	共著	平成22年	Journal of Proteome Research, 9, 2329-2338
(論文) Sato A., Naito T., Hiramoto A., Goda K., Omi T., Kitade Y., Sasaki T., Matsuda A., Fukushima M., Wataya Y., Kim H.-S. Association of RNase L with a Ras GTPase-activating-like protein IQGAP1 in mediating the apoptosis of a human cancer cell-line.	共著	平成22年	FEBS J., 277, 4464-4473,
(論文) Sato A., Hiramoto A., Morita M., Matsumoto M., Komich Y., Nakase Y., Tanigawa N., Hiraoka O., Hiramoto K., Hayatsu H., Higaki K., Kawai S., Masuyama A., Nojima M., Wataya Y., Kim H.-S. Antimalarial Activity of Endoperoxide Compound 6-(1,2,6,7-Tetraoxaspiro[7.11]nonadec-4-yl)hexan-1-ol.	共著	平成23年	Parasitology international, 60, 270-273,
(論文) Tanaka Y, Sakamoto A, Inoue T, Yamada T, Kikuchi T, Kajimoto T, Muraoka O, Sato A, Wataya Y, Kim H.-S, and Tanaka R. Andriolides HeP from the flower of andiroba (Carapa guianensis, Meliaceae).	共著	平成24年	Tetrahedron, 68, 3669-3677,
III 学会等および社会における主な活動			
平成24年3月～現在	日本寄生虫学会評議員		
平成6年1月～現在	日本熱帯医学会会員		
平成18年4月～現在	大韓寄生虫学会会員		
平成6年3月～現在	日本薬学会会員		
平成10年4月～現在	日本生化学会会員		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 岡山大学	講座名 薬効学	職名 准教授	氏名 西屋 禎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成23年10月～ 現在	出席カードに質問・感想欄をもうけ、毎授業ごとにそのカードを提出させている。寄せられた質問には次の授業時間に答え、講義の理解を深めるようにした。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成23年10月～ 現在	薬学部FDフォーラムには毎回出席し、FDに関する諸問題への見識を高めた。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) Signaling by Toll-like receptors	共著	平成20年	Taylor & Francis Group
(論文) Nishiya T, Kajita, E, Horinouchi T, Nishimoto A, Miwa S: Distinct roles of TIR and non-TIR regions in the subcellular localization and signaling properties of MyD88.	共著	平成19年7月	FEBS Letters, 581(17):3223-3229.
(論文) Nishiya T, Matsumoto K, Maekawa S, Kajita E, Horinouchi T, Fujimuro M, Ogasawara K, Uehara T, Miwa S: Regulation of inducible nitric-oxide synthase by the SPRY domain- and SOCS box-containing proteins.	共著	平成23年3月	Journal of Biological Chemistry, 286(11):9009- 9019.
(論文) Matsumoto K, Nishiya T, Maekawa S, Horinouchi T, Ogasawara K, Uehara T, Miwa S: The ECS(SPSB) E3 ubiquitin ligase is the master regulator of the lifetime of inducible nitric-oxide synthase.	共著	平成23年5月	Biochemical and Biophysical Research Communications, 409(1):46-51.
III 学会等および社会における主な活動			
平成23年4月～現在		日本薬理学会評議員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岡山大学	講座名	炎症薬物学
職名	准教授	氏名	杉本 幸雄
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成15年6月～ 現在 平成23年	出来るだけ写真や図解を使用して理解しやすいように工夫している。また、講義内容に関連する出来事や事件を具体的に取り入れ、講義の理解を深めるようにしている。試験は範囲を明確にすることにより目的を持って取り組めるようにしている。平成23年に単独で担当した「生理学」の学生による授業評価の評点は4.4であった。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成15年6月～ 現在 平成23年	薬学部FDフォーラムに毎回出席し、FDに関する問題への見識を高め、授業改善に取り組んでいる。また、全学のFDフォーラムである「桃太郎フォーラム」には平成23年度に話題提供者として出席した。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Zheng X, Oda H, Takamatsu K, Sugimoto Y, Tai A, Akaho E, Ali H, Oshiki T, Kakuta H, Sasaki K. Analgesic agents without gastric damage: design and synthesis of structurally simple benzenesulfonanilide-type cyclooxygenase-1-selective inhibitors	共著	平成19年2月	Bioorg. Med. Chem., 15 (2): 1014-1021
(論文) Kakuta H, Zheng X, Oda H, Harada S, Sugimoto Y, Sasaki K, Tai A. Cyclooxygenase-1-selective inhibitors are attractive candidates for analgesics that do not cause gastric damage. design and in vitro/in vivo evaluation of a benzamide-type cyclooxygenase-1 selective inhibitor	共著	平成20年8月	J. Med. Chem., 51 (8):2400-2411
(論文) Kakuta H, Zheng X, Oda H, Harada S, Sugimoto Y, Sasaki K, Tai A. Cyclooxygenase-1-selective inhibitors are attractive candidates for analgesics that do not cause gastric damage. design and in vitro/in vivo evaluation of a benzamide-type cyclooxygenase-1 selective inhibitor	共著	平成20年12月	J. Pharm. Sci., 97 (12):5446-5452
(論文) Atsuki Yamamoto, Yukio Sugimoto. Involvement of peripheral mu opioid receptors in scratching behavior in mice	共著	平成22年10月	Eur. J. Pharmacol., 649: 336-341
(論文) Atsuki Yamamoto, Hiroki Kakuta, Hiroyuki Miyachi, Yukio Sugimoto. Involvement of the retinoid X receptor ligand in the anti-inflammatory effect induced by peroxisome proliferator-activated receptor γ agonist In Vivo	共著	平成23年5月	PPAR Research, Volume 2011, Article ID 840194, 8 pages
III 学会等および社会における主な活動			
平成11年4月～現在	日本薬理学会学術評議員		
平成21年4月～平成23年3月	日本薬学会 ファルマシア トピックス専門小委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岡山大学	講座名	薬物動態制御学
職名	准教授	氏名	大河原 賢一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成20年9月	全学のFDフォーラムである「桃太郎フォーラム」に出席した。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) 動態制御に基づいたナノ粒子製剤の合理的な設計・開発	単著	平成23年11月	日本薬剤学会学会誌 (第71巻6号)
(論文) Yoshizawa Y., Kono Y., Ogawara K., Kimura T. and Higaki K. PEG liposomalization of paclitaxel improved its in-vivo disposition and anti-tumor efficacy.	共著	平成23年4月	International Journal of Pharmaceutics, vol.412, No.1-2, 132-141.
(論文) ポリ乳酸系ナノ粒子の調製と光線力学的治療への応用	共著	平成22年1月	化学工業社、ケミカルエンジニアリング (第55巻1号)
(論文) Ogawara K. Un K., Tanaka K., Higaki K. and Kimura T. In Vivo Anti-Tumor Effect of PEG Liposomal Doxorubicin (DOX) in DOX-Resistant Tumor-Bearing Mice: Involvement of Cytotoxic Effect on Vascular Endothelial Cells.	共著	平成21年1月	Journal of Controlled Release, vol.133, No.1, 4-10.
(論文) Ogawara, K. Un K., Minato K., Tanaka K., Higaki K. and Kimura T. Determinants for in-vivo anti-tumor effects of PEG liposomal doxorubicin: Importance of vascular permeability within tumors.	共著	平成20年7月	International Journal of Pharmaceutics, vol.359, No.1-2, 234-240.
III 学会等および社会における主な活動			
平成19年4月～現在	日本薬学会 医療薬科学部会 若手世話人		
平成19年4月～平成24年3月	日本薬剤学会 英語セミナー委員会 西地区委員		
平成23年4月～現在	日本薬剤学会 DDS製剤臨床応用フォーカスグループ委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岡山大学	講座名	生体分子解析学
職名	准教授	氏名	井上 剛
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成21年度 ～現在	物理化学における数式の理解を深めるため、講義内容と物理化学系実習を連動させ、具体的に実感させる工夫を行った。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成20年度 ～現在	薬学部FDフォーラム及び全学のFDフォーラムである桃太郎フォーラムに積極的に参加した。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Daisuke Kase, Tsuyoshi Inoue, Keiji Imoto, Roles of the subthalamic nucleus and subthalamic HCN channels in absence seizures.	共著	平成24年1月	Journal of Neurophysiology. 107: 393-406
(論文) Tetsuya Shiuchi, Mohammad Shahidul Haque, Shiki Okamoto, Tsuyoshi Inoue, Haruaki Kageyama, Suni Lee, Chitoku Toda, Atsushi Suzuki, Eric S Bachman, Young-Bum Kim, Takashi Sakurai, Masashi Yanagisawa, Seiji Shioda, Keiji Imoto, Yasuhiko Minokoshi, Hypothalamic Orexin Stimulates Feeding-Associated Glucose Utilization in Skeletal Muscle via Sympathetic Nervous System.	共著	平成21年12月	Cell Metabolism. 10: 466-480
(論文) 井上 剛, 井本敬二, ダイナミッククランプ法を用いて神経回路網を操作する	共著	平成20年6月	日本神経回路学会誌 15: 117-125
(論文) Tsuyoshi Inoue, Ben W Strowbridge Transient activity induces a long-lasting increase in the excitability of olfactory bulb interneurons.	共著	平成20年1月	Journal of Neurophysiology. 99: 187-199
(論文) Pressler R Todd, Tsuyoshi Inoue, Ben W Strowbridge, Muscarinic activation modulates granule cell excitability and potentiates inhibition onto mitral cells in the rat olfactory bulb.	共著	平成19年10月	The Journal of Neuroscience. 27: 10969-10981
III 学会等および社会における主な活動			
平成24年4月～現在	日本生物物理学会分野別専門委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岡山大学	講座名	遺伝子毒性科学
職名	准教授	氏名	根岸 友恵
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成8年度～ 現在 平成15年度～ 現在 平成19年度～ 現在	教科書を補うために図表の資料を印刷物として配布する。 スライドを活用した講義を行い、毎回宿題か演習によって内容を復習させる。 出席表により印象に残った講義内容ならびに質問を書かせる。質問には次回の講義で全体へ説明する。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		薬学部FDフォーラムには、ほぼ毎回出席し、FDに関する諸問題への見識を高めた。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(著書)「スタンダード薬学シリーズ 第5巻 健康と環境 第2版」		共著	平成21年1月
(著書)「衛生化学・公衆衛生学」改訂第4版		共著	平成23年3月
(論文) Taira, K., Nakamura, S., Nakano, K., Maehara, D., Okamoto, K., Arimoto, S., Loakes, D., Worth, L., Schaaper, R.M., Seio, K., Sekine, M., Negishi, K., Negishi, T. Binding of MutS protein to oligonucleotides containing a methylated- or an ethylated guanine residue, and correlation with mutation frequency.		共著	平成20年4月
(論文) Yung, C.-W., Okugawa, Y., Otsuka, C., Okamoto, K., Arimoto, S., Loakes, D., Negishi, K., Negishi, T. Influence of neighboring base sequences on the mutagenesis induced by 7,8- dihydro-8-oxoguanine in yeast		共著	平成20年12月
(論文) Fujiwara, M., Hamatake, Y., Arimoto, S., Okamoto, K., Suzuki, T., Negishi, T. Exposure to Cigarette Smoke Increases Urate Level and Decreases Glutathione Level in Larval <i>Drosophila melanogaster</i>		共著	平成23年8月
III 学会等および社会における主な活動			
平成14年1月～	日本環境変異原学会評議員		
平成16年1月～平成17年12月	日本環境変異原学会理事		
平成17年4月～	日本フードファクター学会評議員		
平成12年3月～	岡山市環境保全審議会委員		
平成16年8月～	岡山県環境審議会委員		
平成18年3月～	内閣府食品安全委員会農薬専門調査会専門委員		
平成19年4月～	岡山県環境影響評価審議会委員		
平成20年4月～	岡山県環境保健センター外部評価委員		
平成22年4月～	岡山県都市計画審議会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岡山大学	講座名	遺伝子毒性薬科学
職名	准教授	氏名	有元 佐賀恵
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		宿題・ミニテスト・出席表に質問欄、感想欄をもうけ、毎授業ごとにいずれかを提出させている。寄せられた質問には次回に答え、講義の理解を深めるようにしている。 毎年、学生評価を受けている。 2008年5月29日2限には、同僚の講義「ゲノム創薬学」黒田照夫講師を聴講し、自分の講義の参考とした。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成18年4月～ 現在	全学のFDフォーラムである「桃太郎フォーラム」には平成21年度に出席した。薬学部FDフォーラムには毎回出席し、FDに関する諸問題への見識を高めた。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(著書) Arimoto-Kobayashi, S., Beer and prevention of heterocyclic amine-induced DNA Adducts and O6-methylguanine. in 'Beer in Health and Disease Prevention' eds. by V. R. Preedy and R. R. Watson		共著	平成20年1月 Academic Press, pp. 889-899
(著書) Filipic, M., Plazar, J. and Arimoto-Kobayashi., Beer in 'Chemoprevention of Cancer and DNA Damage by Dietary Factors' eds. by S. Knasmueller, D.M. Demarini, I. Johnson, C. Gerhauser		共著	平成21年1月 Wiley-VCH, Weinheim, pp. 699-708
(論文) Sakae Arimoto-Kobayashi, Kayoko Sano, Masaki Machida, Keiko Kaji and Keiko Yakushi, UVA activation of N-dialkyl nitrosamines releasing nitric oxide, producing strand breaks as well as oxidative damages in DNA, and inducing mutations in the Ames test		共著	平成22年7月 Mutation Research, 2010, 691, 47-54
(論文) Mayumi Horinouchi, Sakae Arimoto-Kobayashi, Photomicronucleus assay of phototoxic and pseudophotoclastogenic chemicals in human keratinocyte NCTC2544 cells		共著	平成23年4月 Mutation Research, 2011, 725, 43-50
(論文) Xiaomeng Zhang, Rie Ishida, Yuta Yuhara, Tomonori Kamiya, Tsutomu Hatano, Goro Okamoto and Sakae Arimoto-Kobayashi, Anti-genotoxic activity of Vitis coignetiae Pulliat toward heterocyclic amines and isolation and identification of caftaric acid as an antimutagenic component from the juice		共著	平成23年5月 Mutation Research, 2011, 723, 182-189
III 学会等および社会における主な活動			
平成16年5月28日～現在	日本環境変異原学会評議員		
平成18年1月1日～平成19年12月31日	日本学術振興会科学研究費委員会専門委員		
平成18年3月16日	岡山県真庭市ひるぜんワイン生産組合主催 「ヤマブドウ研究報告会」講師		
平成19年10月11～12日	環境紫外線による生物影響に関する研究会 セッション4「活性酸素」座長		
平成20年4月1日～平成22年12月31日	日本環境変異原学会企画委員		
平成22年3月28～30日	日本薬学会第130年会 会場係		
平成22年3月30日	日本薬学会第130年会 高校生シンポジウム オーガナイザーおよび司会		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岡山大学	講座名	分子衛生科学
職名	准教授	氏名	埴岡 伸光
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成19年4月～ 現在	講義毎に約10分間の小テストを行い、課題に対する解答と共に、講義の感想や理解度を書かせている。これらことを繰り返して、講義をスピードや重点などを学生主体にして組み立てている。
2	作成した教科書、教材、参考書	平成19年4月～ 現在	実習については、毎年アップデートした実習書を作成している。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成19年4月～ 現在	なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成19年4月～ 現在	学部内のFDフォーラムには、毎回参加して、自身の講義の見直しなどを行っている。
II 研究活動			
	著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
	(論文) Hanioka N, Tsuneto Y, Saito Y, Maekawa K, Sawada J, Narimatsu S. Influence of CYP2C19*18 and CYP2C19*19 alleles on omeprazole 5-hydroxylation: in vitro functional analysis of recombinant enzymes expressed in <i>Saccharomyces cerevisiae</i>	共著	平成20年4月
	(論文) Maekawa K, Yoshimura T, Saito Y, Fujimura Y, Aohara F, Emoto C, Iwasaki K, Hanioka N, Narimatsu S, Niwa T, Sawada J. Functional characterization of CYP3A4.16: catalytic activities toward midazolam and carbamazepine	共著	平成21年2月
	(論文) Hanioka N, Yamamoto M, Tanaka-Kagawa T, Jinno H, Narimatsu S. Functional characterization of human cytochrome P450 2E1 allelic variants: in vitro metabolism of benzene and toluene by recombinant enzymes expressed in yeast cells	共著	平成22年5月
	(論文) Hanioka N, Oka H, Nagaoka K, Ikushiro S, Narimatsu S. Effect of UDP-glucuronosyltransferase 2B15 polymorphism on bisphenol A glucuronidation	共著	平成23年11月
	(論文) Hanioka N, Iwabu H, Hanafusa H, Nakada S, Narimatsu S. Expression and inducibility of UDP-glucuronosyltransferase 1As in MCF-7 human breast carcinoma cells	共著	平成24年3月
	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称		
			Basic Clin Pharmacol Toxicol, 102(4):388-393
			Xenobiotica, 39(2):140-147
			Arch Toxicol, 84(5):363-371
			Arch Toxicol, 85(11):1373-1381
			Basic Clin Pharmacol Toxicol, 110(3):253-258
III 学会等および社会における主な活動			
	平成19年1月～現在	日本薬物動態学会評議委員	
	平成23年4月～平成24年3月	Journal of Health Science編集委員	
	平成23年4月～現在	Drug Metabolism and Pharmacokinetics編集委員	
	平成24年4月～現在	Biological and Pharmaceutical Bulletin編集委員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 岡山大学	講座名 免疫生物学	職名 教授	氏名 田中 智之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成21年9月 (着任)～現在	板書とPDFファイルの大学掲示板からの配付、アニメーションを用いた解説などを実施し、大学アンケートでは一貫して4.2-4.3(5点満点)の高い評価を受けている。平成23年度よりシヤトルカードを導入し、さらに学生からの要望に応えるよう工夫している。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成23年 9月9日	全学のFD集会である「桃太郎フォーラム」においてTAの任用実態の調査結果の報告、提言を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			平成22年度より薬学部FD部会に参加、23年度以降は部会長としてFDフォーラムの企画、運営を担当。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) わかりやすい免疫学	共著(編著)	平成20年2月	廣川書店
(論文) マスト細胞の分化に伴う機能制御	単著	平成22年11月	生化学、82巻
(論文) Establishment of the culture model system that reflects the process of terminal differentiation of connective tissue-type mast cells.	共著	平成20年4月	FEBS Lett., 582
(論文) Involvement of CD44 in mast cell proliferation during terminal differentiation.	共著	平成21年4月	Lab. Invest., 89
(論文) Targeting CD44 in mast cell regulation.	単著	平成22年1月	Expert Opin. Ther. Targets, 14
III 学会等および社会における主な活動			
平成18年度～	日本薬理学会評議員		
平成19年度～平成20年度	日本薬学会「ファルマシア」誌トピックス専門小委員		
平成20年度～	日本ヒスタミン学会幹事		
平成20年1月～	日本生化学会「生化学」誌企画委員		
平成20年12月～平成23年3月	Biol. Pharm. Bull. 誌編集委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岡山大学	講座名	臨床精神薬学
職名	准教授	氏名	北村 佳久
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成18年4月～ 現在	シャトルカードの利用により、授業における学生の疑問・質問・感想を聴取し、授業に役立てている。岡山大学が運営しているWebClassを利用し、授業で配布したプリントの回答をアップし、学生の復習に応用させている。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成23年 10月2日	第21回日本医療薬学会 シンポジウム(臨床薬学アドバンス教育の構築—他学部・他施設との連携教育—(国立大・私立大の取り組みから学ぶ))
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	H18年4月～ 現在 平成21年 4月3日	薬学部FD部会の研修に参加し、FD活動の理解を深めている。 第11回FD部会(有効なSGD(スモールグループディスカッション)実施に向けて)で実行委員を務めた。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可) 発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) 視床下部—下垂体—副腎皮質系過活動モデルを用いた治療抵抗性うつ病モデルの作製および創薬への応用 実験薬理学 実践行動薬理学 編集 日本薬理学会		共著	平成22年3月 金芳堂 138—146, 2010
(著書) プロブレムリスト活用による小児の服薬指導—患者・家族への説明—(第4版) 2—1. 気管支喘息 五味田 裕・荒木博陽 編 医歯薬出版 79—93, 2010		共著	平成22年4月 医歯薬出版 79—93, 2010
(論文) S. Ishida, Y. Kawasaki, H. Araki, M. Asanuma, H. Matsunaga, T. Sendo, H. Kawasaki, Y. Gomita, Y. Kitamura. $\alpha 7$ Nicotinic acetylcholine receptors in the central amygdaloid nucleus alter naloxone-induced withdrawal following a single exposure to morphine.		共著	平成23年4月 Psychopharmacology 214: 923—931, 2011.
(論文) Y. Kitamura, T. Yagi, K. Kitagawa, K. Shinomiya, H. Kawasaki, M. Asanuma, Y. Gomita. Effects of bupropion on the forced swim test and release of dopamine in the nucleus accumbens in ACTH-treated rats. Naunyn-Schmiedeberg Archives of Pharmacology 382: 151—158, 2010		単著	平成22年8月 Naunyn-Schmiedeberg Archives of Pharmacology 382: 151—158, 2010
(論文) K. Kitagawa, Y. Kitamura, T. Miyazaki, J. Miyaoka, H. Kawasaki, M. Asanuma, T. Sendo, Y. Gomita. Effects of pramipexole on the duration of immobility during the forced swim test in normal and ACTH-treated rats.		共著	平成21年7月 Naunyn-Schmiedeberg Archives of Pharmacology 380: 59—66, 2009
III 学会等および社会における主な活動			
平成16年4月～現在	日本薬理学会 学術評議員		
平成19年7月～現在	日本神経精神薬理学会 学術評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
岡山大学	救急薬学講座	准教授	名倉 弘哲
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		平成21年～現在	薬学部3年次に生命倫理教育のための「薬剤師倫理学」を開講している。倫理的に考慮が必要な臨床事例をPBL形式で学習させており、学生からの授業評価は4.7/5
		平成22年～現在	地域医療を実践する「臨床薬学演習」として近隣開業医の指導により在宅訪問などの経験をさせている。他大学ではできない経験により学生からの評価は高い。
2 作成した教科書、教材、参考書 薬剤師のための褥瘡の治療とケア	内科処方マニュアル	平成17年	薬事日報社
	薬学生 “dead or alive”	平成18年	南山堂
	「救急薬学」誕生 災害・救急医療に対応できる薬剤師を育てる	平成23年	京都廣川書店
		平成24年	じほう
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 岡山県病院薬剤師会学術講演(2009)		平成21年	「薬剤師が関わる褥瘡治療」
	岡山県病院薬剤師会学術講演(2011)	平成23年	「東日本大震災に学ぶ災害医療の在り方と薬剤師の進むべき道」
	岡山県病院薬剤師会学術講演(2012)	平成24年	「救急薬学分野開設の経緯とその重要性、薬剤師が向かう未来」
	「災害医療と岡山大学の臨床薬学教育」(2012)	平成24年	「救急薬学の展望」
	日本在宅薬学会シンポジウム(2012)	平成24年	「6年制薬学教育と在宅支援」
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成22年・23年	岡山大学における医療教育に関するFD活動「海の日FD」のタスクフォースを2年間務めた。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
小曳恵里子、佐藤智昭、上島智、黒田真生、河崎陽一、松永尚、名倉弘哲、千堂年昭 テイコプラニン初回投与設計における血中濃度予測の検討-性別、年齢別、血清クレアチニン値補正、体格補正、eGFR推算式による影響-	共著	平成24年6月	医療薬学
黒田真生、上島智、佐藤智昭、小曳恵里子、河崎陽一、松永尚、名倉弘哲、千堂年昭 パンコマイシン初回投与および個別投与設計における日本人を対象とした新規 GFR 推算式の有用性	共著	平成23年10月	薬学雑誌
Narimatsu S, Nakata T, Shimizudani T, Nagaoka K, Nakura H, Masuda K, Katsu T, Koeda A, NaitoS, Yamano S, Miyata A, Hanioka N Regio- and stereoselective oxidation of propranolol enantiomers by human CYP2D6, cynomolgus monkey CYP2D17 and marmoset CYP2D19.	単著	平成22年2月	Chem-Biol Interact.
III 学会等および社会における主な活動			
平成16年4月～平成19年7月	東京都病院薬剤師会 専門領域薬剤師養成特別委員		
平成24年7月～現在	日本在宅薬学会 評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 岡山大学	講座名 蛋白質機能制御科学	職名 助教	氏名 高橋 栄造
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成19年 ～現在	出席カードに質問・感想欄をもうけ、授業ごとにそのカードを回収。寄せられた質問には次の授業時間に回答し、理解を深めるようにしている。また、改善すべき点が指摘された場合には次年度への改善に取り組んできた。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成19年 ～現在	薬学部FDフォーラムへ積極的に参加。平成20年には全学FDフォーラム「桃太郎フォーラム」へ参加。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Eizo Takahashi, Sakae Arimoto, Keinosuke Okamoto, Tomoe Negishi. Enhancement of phase II enzyme activity by purpurin resulting in the suppression of MeIQx-DNA-adduct formation in mice.	共著	平成19年1月	Mutation Research genetic toxicology and environmental mutagenesis, 626(1-2), 128-34
(論文) Eizo Takahashi, Zafar Sultan, Sumika Shimada, Wah Wah Aung, Mar Mar Nyein, Khin Nwe Oo, Gopinath Balakrish Nair, Yoshifumi Takeda and Keinosuke Okamoto. Studies on the Diarrheagenic Escherichia coli Isolated from Children with Diarrhea in Myanmar	共著	平成20年1月	Microbiology and Immunology, 52(1), 1-7
(論文) Eizo Takahashi, Hidetomo Kobayashi, Hiroyasu Yamanaka, Gopinath Balakrish Nair, Yoshifumi Takeda, Sakae Arimoto, Tomoe Negishi, and Keinosuke Okamoto. Maturation pathway of metalloprotease produced by Aeromonas sobria	共著	平成22年10月	Microbiology and Immunology, 54(10), 596-605
(論文) Eizo Takahashi, Yoshio Fujii, Hidetomo Kobayashi, Hiroyasu Yamanaka, Gopinath Balakrish Nair, Yoshifumi Takeda, Sakae Arimoto, Tomoe Negishi, and Keinosuke Okamoto. Inhibition of biosynthesis of metalloprotease of Aeromonas sobria by sodium chloride in the medium	共著	平成23年1月	Microbiology and Immunology, 55(1), 60-65
(論文) Eizo Takahashi, Hidenobu Ito, Hidetomo Kobayashi, Hiroyasu Yamanaka, Yoshifumi Takeda, Gopinath Balakrish Nair, Sakae Arimoto, Tomoe Negishi, and Keinosuke Okamoto. Production and properties of lipase of Aeromonas sobria	共著	平成24年5月	Microbiology and Immunology, 56(5), 295-307
III 学会等および社会における主な活動			
		特になし	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 岡山大学	講座名 臨床精神薬学	職名 助教	氏名 小山 敏広
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			出席カードを用いて、毎回質問を受け付け、必要であれば次回に再度解説するなど学生の理解度を把握しながら進行することに努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成22年8月 ～現在 平成22、23年度	FDフォーラムに定期的に出席し、学部教育への見識を高めている。 全学のFDフォーラムに参加した。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Hayashi H, Doi M, Onoue Y, Kuwatsuka K, Miyake A, Koyama T, Shinomiya K, Miyazaki I, Aasanuma M, Kitamura Y. [Investigation on the mechanisms for the suppression of cell proliferation in the dentate gyrus of the hippocampus in ACTH treated rats].	共著	平成24年2月	Yakugaku Zasshi. 2012;132(2):173-8.
(論文) Ohnishi J, Miyake A, Kuwatsuka K, Onoue Y, Lee M, Koyama T, Sendo T, Kawasaki H, Kitamura Y. [Investigation on the mechanisms for the suppression of cell proliferation in the dentate gyrus of the hippocampus in ACTH treated rats].	共著	平成23年10月	Biol Pharm Bull. 2011;34(10):1609-12.
(論文) Kitamura Y, Doi M, Kuwatsuka K, Onoue Y, Miyazaki I, Shinomiya K, Koyama T, Sendo T, Kawasaki H, Asanuma M, Gomita Y. [Chronic treatment with imipramine and lithium increases cell proliferation in the hippocampus in adrenocorticotrophic hormone-treated rats].	共著	平成23年1月	Biol Pharm Bull. 2011;34(1):77-81.
(論文) Jin X, Otonashi-Satoh Y, Zamami Y, Koyama T, Sun P, Kitamura Y, Kawasaki H. [Endothelial modulation of agonist-induced vasoconstriction in mesenteric microcirculation].	共著	平成22年5月	Yakugaku Zasshi. 2010 May;130(5):723-8. Review.
(論文) Koyama T, Hatanaka Y, Jin X, Yokomizo A, Fujiwara H, Goda M, Hobara N, Zamami Y, Kitamura Y, Kawasaki H. [Altered function of nitrenergic nerves inhibiting sympathetic neurotransmission in mesenteric vascular beds of renovascular hypertensive rats].	共著	平成22年5月	Hypertens Res. 2010 May;33(5):485-91.
III 学会等および社会における主な活動			
		特になし	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 岡山大学	講座名 有機医薬品開発学	職名 教授	氏名 宮地 弘幸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成16年4月～ 現在	出席カードに質問欄、感想欄をもうけ、毎授業ごとにそのカードを提出させている。講義の後半では出席カードにミニ試験の解答を書かせ提出させている。また薬物とその受容体との結合様式の理解に関しては、実際のX線結晶構造解析結果を、統合計算ソフトMOEを用いて可視化し、講義でしようかいすることにより、理解の促進をはかっている。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			薬学部FDフォーラムには極力出席し、FDに関する諸問題への見識を高めた。また全学のFDフォーラムである「桃太郎フォーラム」には平成22年度に出席した。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Ban S, Oyama T, Kasuga J, Ohgane K, Nishio Y, Morikawa K, Hashimoto Y, Miyachi H. Bidirectional fluorescence properties of pyrene-based peroxisome proliferator-activated receptor (PPAR) α/δ dual agonist.	共著	平成24年4月16日	Bioorg Med Chem. 2012 Jun 1;20(11):3460-4.
(論文) Kuwabara N, Oyama T, Tomioka D, Ohashi M, Yanagisawa J, Shimizu T, Miyachi H. Peroxisome proliferator-activated receptors (PPARs) have multiple binding points that accommodate ligands in various conformations: phenylpropanoic acid-type PPAR ligands bind to PPAR in different conformations, depending on the subtype.	共著	平成24年1月10日	J. Med. Chem. 2012 Jan 26;55(2):893-902.
(論文) Ban S, Kasuga J, Nakagome I, Nobusada H, Takayama F, Hirono S, Kawasaki H, Hashimoto Y, Miyachi H. Structure-based design, synthesis, and nonalcoholic steatohepatitis (NASH)-preventive effect of phenylpropanoic acid peroxisome proliferator-activated receptor (PPAR) α -selective agonists.	共著	平成23年4月8日	Bioorg Med Chem. 2012 Jun 1;20(11):3460-4.
(論文) Ohashi M, Oyama T, Nakagome I, Satoh M, Nishio Y, Nobusada H, Hirono S, Morikawa K, Hashimoto Y, Miyachi H. Design, synthesis, and structural analysis of phenylpropanoic acid-type PPAR γ -selective agonists: discovery of reversed stereochemistry-activity relationship.	共著	平成22年12月3日	J Med Chem. 2011 Jan 13;54(1):331-41.
(論文) Kasuga J, Ishikawa M, Yonehara M, Makishima M, Hashimoto Y, Miyachi H. Improvement of water-solubility of biarylcarboxylic acid peroxisome proliferator-activated receptor (PPAR) δ -selective partial agonists by disruption of molecular planarity/symmetry.	共著	平成22年8月24日	Bioorg Med Chem. 2010 Oct 15;18(20):7164-73.
III 学会等および社会における主な活動			
平成24年4月～現在		日本薬学会化学系薬学学会役員	

平成23年4月～現在	日本薬学会医薬化学部会役員
平成22年4月～現在	日本薬学会中国四国支部幹事
平成22年4月～現在	“PPAR research” Editorial Advisory Board member

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧				
大学名 岡山大学	講座名 生薬化学	職名 教授	氏名 波多野 力	
I 教育活動				
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成23年度前期 および後期	薬用植物学や生薬学I、生薬学II、漢方処方応用学において、演習問題を毎回実施し、次回に返却して修正すべき点等の指摘をしている。学生による授業評価はいずれの科目においても4前後であり、良好である。	
2 作成した教科書、教材、参考書		平成20年2月	最新生薬学 (廣川書店)	
		平成22年9月	漢方薬学 (廣川書店)	
		平成23年9月	大系・薬用植物資源学 (京都廣川書店)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成24年3月	全国国立大学薬学部で連携して推進している「先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンスト教育プログラムの共同開発事業」の中で「長期課題研究及び実践的アドバンスト教育プログラム」の開発を中心に、その展開について日本薬学会第132年会において報告した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成19年度～ 平成23年度	漢方メディカルシンポジウムに継続的に参加し、医学・薬学の両面からの漢方教育の実践やその今後の展開についての講演を聴講し、学習し、教育面の向上に役立てている。	
II 研究活動				
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書) 薬用食品の開発II -薬用・有用植物の機能性食品素材への応用-		共著	平成24年4月	シーエムシー出版
(著書) A Compendium of Essays on Alternative Therapy		共著	平成24年1月	InTech
(論文) Orabi MAA, Taniguchi S, Terabayashi S, Hatano T. Hydrolyzable tannins of tamaricaceous plants. IV. Micropropagation and ellagitannin production in shoot cultures of Tamarix tetrandra		共著	平成23年11月	Phytochemistry, 72(16), 1978-1989.
(論文) Orabi MA, Taniguchi S, Yoshimura M, Yoshida T, Kishino K, Sakagami H, Hatano T. Hydrolyzable tannins of tamaricaceous plants. III. Hellinoyl- and macrocyclic-type ellagitannins from Tamarix nilotica		共著	平成22年5月	J. Nat. Prod., 73(5), 870-879.
(論文) Nozaki, A., Kimura, T., Ito, H., Hatano, T. Interaction of polyphenolic metabolites with human serum albumin: A circular dichroism study		共著	平成21年9月	Chem. Pharm. Bull., 57(9), 1019-1023.
III 学会等および社会における主な活動				
平成21年2月～平成22年1月		日本薬学会中国四国支部幹事		
平成22年4月～平成24年3月		日本生薬学会関西支部長		
平成23年2月～平成25年1月		日本薬学会代議員		
平成23年5月～平成25年3月		日本薬学会学術誌編集委員 (部門長)		
平成24年4月～平成26年3月		日本生薬学会評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岡山大学	講座名	合成薬品製造学教室
職名	教授	氏名	竹内 靖雄
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成15年9月～ 現在	シャトルカードをすべての担当授業に使用して、学生との双方向性コンタクトを実現している。学生による授業評価アンケートでは、好印象の授業と評価されている。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成15年9月～ 現在	全学FD委員、学部FD委員長、学務教務委員長
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(論文) Non-flammable and reusable hydrogenation of aromatic ketones in ionic liquid		共著	平成24年4月
(論文) Synthesis of (-)-Actinonin		共著	平成23年11月
(論文) Syntheses of all-methylated ellagitannin, isorugosin B and rugosin B		共著	平成23年4月
(論文) Synthesis of Acinetobactin		共著	平成22年11月
(論文) Concise Asymmetric Synthesis of (+)-Febrifugine Utilizing trans-Selective Intramolecular Conjugate Addition		共著	平成20年6月
			発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
			Tetrahedron Letters, 53(28), 3686-3688 (2012)
			Synthesis, (11), 1705-1710 (2011)
			Tetrahedron, 67, 1960-1970 (2011)
			Chem. Pharm. Bull., 58(11), 1552-1553 (2010)
			Synthesis, (19), 3081-3087 (2008)
III 学会等および社会における主な活動			
特になし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岡山大学	講座名	生理活性物質開発学
職名	教授	氏名	森山 芳則
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成18年4月～ 現在	教科書・まとめたプリントをもとにして板書中心の講義を展開。重要な点は毎回も視点を変えて講述している。学生評価のトップ10%には常に入っている。一年生の講義では欧文教科書の一部をプリントで配布。生物の多様性と普遍性を骨子にして、生物未習得者にもわかりやすく、修得者にとっても有用な講義を心がけている。
2	作成した教科書、教材、参考書	平成24年1月	リップニコットシリーズ イラストレイテッド細胞分子生物学(丸善出版) (訳：第三章 膜輸送)
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成24年 7月1日	岡山大学薬学部シンポジウム(「災害医療と岡山大学の臨床薬学教育」平成24年7月1日実施)などで薬学教育ならびに岡山大学の新教育システムについて講演
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成18年4月～ 現在	生物系講義を再編した。FD活動は毎回参加している。特にコンプライアンス遵守や大学院入試改革などFDテーマを決定している。昨年より、薬学部運営方針を公開し、教育活動で教職員がめざすべき目標を設定。先端薬学教育・研究支援センターを設置。教育支援活動を充実させている。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(著書) 小胞型神経伝達物質トランスポーター：機能制御と薬物標的としての意義		単著	平成24年4月
(著書) トランスポートソーム生体膜輸送機構の全体像に迫る 基礎、臨床、創薬応用研究の最新成果 第4章 残されたトランスポーターへのアプローチ1. 構成的手法による小胞型神経伝達物質トランスポーターの分子同定と機能解析		単著	平成24年3月
(論文) Juge N, Gray J. A, Omote H, Miyaji T, Inoue T, Hara C, Uneyama H, Edwards R. H, Nicoll R. A, Moriyama Y. Metabolic control of vesicular glutamate transport and release.		共著	平成22年10月
(論文) Miyaji T, Echigo N, Hiasa M, Senoh S, Omote H, Moriyama Y. Identification of a vesicular aspartate transporter.		共著	平成20年8月
(論文) Sawada K, Echigo N, Juge N, Miyaji T, Otsuka M, Omote H, Yamamoto A, Moriyama Y. Identification of a vesicular nucleotide transporter.		共著	平成20年4月
発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称			
		学研メディカル秀潤社 細胞工学 Vol. 31 No. 5 2012年5月号	
		メディカルドゥ 遺伝子医学MOOK19号	
		Neuron. 68(1):99-112.	
		Proc. Natl Acad. Sci. USA 105(33):11720-11724.	
		Proc. Natl Acad. Sci. USA 105(15):5683-5686.	
III 学会等および社会における主な活動			
平成14年4月～現在	岡山大学自然生命科学研究支援センター・ゲノム・プロテオーム解析部門長		
平成20年8月～平成21年7月	独立行政法人日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員		
平成23年4月～現在	岡山大学薬学部長		
平成23年4月～現在	全国薬科大学長・薬学部長会議理事		
平成23年4月～現在	日本薬学会評議員		
平成23年9月～平成24年8月	日本生化学会中国・四国支部長		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岡山大学	講座名	生体機能分析学
職名	教授	氏名	榎本 秀一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成20年 10月～現在	シャトルカードを利用し、出席の確認とともに講義中の疑問点などを書いてもらっている。個人的な質問に対する回答は、各個人のシャトルカードに記載することもあるが、質問内容によっては全員に知らせた方がよい場合は、次の講義の際に全員に伝える場合もある。また、実習の際は、6項目を行なってもらって、3項目で口頭試問を行ない、理解度を図っている。
2	作成した教科書、教材、参考書	平成20年 10月～現在	教科書としては毎回、原著論文、臨床診断用の画像を使用した講義用のPowerPointファイルを作成し、印刷して配布している。参考書としてNature、Scienceなどの科学雑誌やパートナー分析化学I、II（南江堂）を使用している。実習では、実習書とその参考資料を作成し、実習講義では実習各項目の目的とSBOsとの対応を明らかにするとともに注意事項を明らかにしたPowerPointファイルを作成し、いずれも実習前に配布し、説明を行なっている。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成20年 10月～現在	薬学部FDフォーラム及びFD関連講演会等に参加し、積極的な活動を行なっている。
II 研究活動			
	著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）
	(著書) 薬学生dead or alive—薬学生、成功への鍵は…—	共著	平成23年3月
	(著書) ミネラルの科学と最新応用技術	共著	平成20年5月
	(論文) A digital signal processing module for Ge semiconductor detectors.	共著	平成23年4月
	(論文) A new class of rhodamine luminophores: design, syntheses and aggregation-induced emission enhancement.	共著	平成22年12月
	(論文) Multiple molecular simultaneous imaging in a live mouse using semiconductor Compton camera.	共著	平成20年8月
			発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
			京都廣川書店
			シーエムシー出版、第6編 第2章「ミネラルのイメージング技術」pp. 397～ pp. 419
			IEEE Trans. Nucl. Sci., 58, 461-467
			Chem. Commun., 46, 9013- 9015
			J. Anal. At. Spectrom., 23, 1089-1092
III 学会等および社会における主な活動			
平成14年6月～現在	日本微量元素学会・評議委員会・委員		
平成15年5月～現在	微量栄養素研究会・評議委員会・委員		
平成17年6月～現在	日本薬学会・物理系部会・金属の関与する生体関連反応シブ ^o ヅム実行委員会・委員		
平成17年7月～現在	日本微量元素学会・学術活性化委員会、栄養評価委員会・委員		
平成18年4月～現在	(財) 環境科学技術研究所・元素集積植物調査研究評価委員会委員		
平成20年4月～現在	(財) 国際科学技術財団・日本国際賞選考委員会委員		
平成23年4月～現在	日本薬学会・物理系薬学部会幹事会・委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岡山大学	講座名	有機医薬品開発学
職名	准教授	氏名	松野 研司
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成18年4月～ 現在	医薬化学の講義において、承認直後の薬剤の研究開発経緯を講義内容に取り入れることにより、薬学科・創薬科学科双方の学生が新薬動向を理解できるように工夫した。そのために、業界関係者からの最新の情報を、定期的に収集・整理・加工した。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成18年4月～ 現在	薬学部FDフォーラムに出席し、諸問題への見識を高めた。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）
(論文) Matsuno, K.; Yamazaki, H.; Isaka, Y.; Takai, K.; Ishikawa, Y.; Unno, Y.; Fujii, S.; Takikawa, O.; Asai, A. Novel candesartan derivatives as indoleamine-2,3-dioxygenase inhibitors.		共著	平成24年4月
(論文) Nakano, S.; Takai, K.; Isaka, Y.; Takahashi, S.; Unno, Y.; Ogo, N.; Matsuno, K.; Takikawa, O.; Asai, A. Identification of novel kynurenine production-inhibiting benzenesulfonamide derivatives in cancer cells.		共著	平成24年3月
(論文) Matsuno, K.; Masuda, Y.; Uehara, Y.; Sato, H.; Muroya, A.; Takahashi, O.; Yokotagawa, T.; Furuya, T.; Okawara, T.; Otsuka, M.; Ogo, N.; Ashizawa, T.; Oshita, C.; Tai, S.; Ishii, H.; Akiyama, Y. and Asai, A. Identification of a new series of STAT3 inhibitors by virtual screening.		共著	平成22年7月
(論文) Matsuno, K.; Takai, K.; Isaka, Y.; Unno, Y.; Sato, M.; Takikawa, O. and Asai, A. S-Benzylisothiourea derivatives as small-molecule inhibitors of indoleamine-2,3-dioxygenase.		共著	平成22年9月
(論文) Matsuno, K.; Sawada, J.-i.; Sugimoto, M.; Ogo, N. and Asai, A. Bis(hetero)aryl derivatives as unique kinesin spindle protein inhibitors.		共著	平成21年2月
III 学会等および社会における主な活動			
平成3年2月～現在		日本薬学会会員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 岡山大学	講座名 創薬科学講座	職名 准教授	氏名 永松 朝文
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成19年4月～ 現在	授業にはパワーポイントで作成したスライドを用い、更にその内容のプリントを学生へ配布して板書による授業の聞き漏らしがないよう工夫した。平成21年度からはシャトルカードを利用して学生の意見や質問に答える努力を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成19年4月～ 現在	授業で使用した教科書の内容の解説書をパワーポイントで作成し、プリントして配布した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成19年4月～ 現在	薬学部FDフォーラムには毎回出席し、FDに関する諸問題への見識を高めた。また、全学のFDフォーラムである『桃太郎フォーラム』には平成18年度の出席以来平成21年度にも出席した。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Hamed. I. Ali, Noriyuki Ashida, and Tomohisa Nagamatsu. Antitumor Studies. Part 3: Design, Synthesis, Antitumor Activity, and Molecular Docking Study of Novel 2-Methylthio-, 2-Amino-, and 2-(N-substituted amino)-10-alkyl-2-deoxo- 5-deazaflavins.	共著	平成19年10月	Bioorganic and Medicinal Chemistry, 15 (19): 6336-6352.
(論文) Hamed. I. Ali, Noriyuki Ashida, and Tomohisa Nagamatsu. Antitumor Studies. Part 4: Design, Synthesis, Antitumor Activity, and Molecular Docking Study of Novel 2-Substituted 2-Deoxoflavin-5-oxides, 2-Deoxoalloxazine-5-oxides, and Their 5-Deaza Analogs.	共著	平成20年1月	Bioorganic and Medicinal Chemistry, 16 (2): 922-940.
(論文) Jinwoo Kim, Jonghee Oh, Okhee Choi, Yongsung Kang, Hongsup Kim, Eunhye Goo, Jun Ma, Tomohisa Nagamatsu, Jae Sun Moon, and Ingyu Hwang. Biochemical Evidence for ToxR and ToxJ Binding to the tox Operons of Burkholderia glumae and Mutational Analysis of ToxR.	共著	平成21年8月	Journal of Bacteriology, 191 (15): 4870-4878.
(論文) Hamed I. Ali, Takayuki Fujita, Eiichi Akaho, and Tomohisa Nagamatsu. A comparative study of AutoDock and PMF scoring performances, and SAR of 2-substituted pyrazolotriazolopyrimidines and 4-substituted pyrazolopyrimidines as potent xanthine oxidase inhibitors.	共著	平成22年1月	Journal of Computer Aided Molecular Design, 24 (1): 57-75.
(論文) W.-S. Jung, J. Lee, M.-I. Kim, J. Ma, T. Nagamatsu, E. Goo, H. Kim, I. Hwang, J. Han and S. Rhee. Structural and Functional Analysis of Phytotoxin Toxoflavin-Degrading Enzyme.	共著	平成23年7月	PLoS ONE, 6 (7) e222443 (1-9),
III 学会等および社会における主な活動			
平成19年4月～現在	複素環化学討論会世話人会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岡山大学	講座名	生体機能性天然物化学
職名	准教授	氏名	伊東 秀之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成16年4月～ 現在	シャトルカードを利用し、授業ごとにそのカードを提出させている。講義の初めと終わりに重要事項について質問し、講義の理解を深めるようにしている。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成15年9月～ 現在	薬学部FDフォーラムには毎回出席し、FDに関する諸問題への見識を高めた。また全学のFDフォーラムである「桃太郎フォーラム」にも出席した。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(著書) 最新天然物化学		共著	平成19年3月
(著書) 漢方医療薬学の基礎		共著	平成22年2月
(論文) Hideuki Ito, Ayumu Iguchi, Tsutomu Hatano. Identification of urinary and intestinal bacterial metabolites of ellagitannin geraniin in rats.		共著	平成20年1月
(論文) Yuka Kimura, Hideyuki Ito, Ryoko Ohnishi, Tsutomu Hatano. Inhibitory effects of polyphenols on human cytochrome P450 3A4 and 2C9 activity.		共著	平成22年1月
(論文) Hidekazu Ishimoto, Mari Shibata, Yuki Myojin, Hideyuki Ito, Yukio Sugimoto, Akihiro Tai, Tsutomu Hatano. In vivo anti-inflammatory and antioxidant properties of ellagitannin metabolite urolithin A.		共著	平成23年9月
発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称			
廣川書店			
J. Agric. Food Chem. 56(2): 393-400.			
Food Chem. Toxicol. 48(1): 429-435			
Bioorg. Med. Chem. Lett. 21(19): 5901-5904			
III 学会等および社会における主な活動			
平成17年4月～現在	日本農芸化学会中四国支部参与		
平成19年4月～平成20年3月	日本薬学会中四国支部役員幹事		
平成21年4月～平成23年3月	ファルマシアトピックス専門小委員会		
平成22年4月～平成24年3月	日本生薬学会関西支部会計		
平成22年10月～平成23年5月	日本農芸化学会中四国支部例会実行委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岡山大学	講座名	合成薬品開発学
職名	准教授	氏名	加来田 博貴
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成20年10月～ 現在	シャトルカードとよばれる出席カードを用いて、質問・感想をもうけ、毎授業ごとにそのカードを提出させた。寄せられた質問に対し、次の授業時間に答え、講義の理解を深めるようにしている。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成21年	全学のFDフォーラムである「桃太郎フォーラム」には平成21年度議題提供者として出席した。
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成15年8月～ 現在	薬学部FDフォーラムには毎回出席し、FDに関する諸問題への見識を高めた。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(論文) RXR Partial Agonist CBT-PMN Exerts Therapeutic Effects on Type 2 Diabetes without the Side Effects of RXR Full Agonists.		共著	平成24年4月
(論文) Discovery of a Potent Retinoid X Receptor Antagonist Structurally Closely Related to RXR Agonist NEt-31B.		共著	平成23年9月
(論文) Modification at the Lipophilic Domain of RXR Agonists Differentially Influences Activation of RXR Heterodimers.		共著	平成22年10月
(論文) Cyclooxygenase-1-Selective Inhibitors Are Attractive Candidates for Analgesics That Do Not Cause Gastric Damage. Design and in Vitro/in Vivo Evaluation of a Benzamide-Type Cyclooxygenase-1 Selective Inhibitor		共著	平成20年3月
(論文) The First Potent Subtype-Selective Retinoid X Receptor (RXR) Agonist Possessing a 3-Isopropoxy-4-isopropylphenylamino Moiety, NEt-31P (RXR・/・-dual agonist).		共著	平成20年5月
III 学会等および社会における主な活動			
平成23年7月	日本薬学会医薬化学部会創薬懇話会 in岡山 実行委員会事務局長		
平成21年11月	日本薬学会医薬化学部会第28回メディシナルケミストリーシンポジウム 実行委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岡山大学	講座名	創薬分子生命科学
職名	准教授	氏名	表 弘志
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成16年4月～ 現在	毎回、今日のまとめを学生に書かせて提出させている。また、今日の目標の概説を行っている。授業のまとめのプリントを作製している。板書とパワーポイントを併用して、授業のテンポを調節している。パワーポイントでは3Dグラフィックス等イメージがつかみやすいようにしている。21年度には同僚評価も受けて、わかりやすいとの評価を得た。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		薬学部FDフォーラムには毎回出席し、FDに関する諸問題への見識を高めた。平成23年度桃太郎フォーラムに出席した。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(論文) Hiroshi Omote, Takaaki Miyaji, Narinobu Juge, Yoshinori Moriyama, Y. Vesicular neurotransmitter transporter: bioenergetics and regulation of glutamate transport.		共著	平成23年6月
(論文) Takaaki Miyaji, Keisuke Sawada, Hiroshi Omote, Yoshinori Moriyama. Divalent cation transport by vesicular nucleotide transporter.		共著	平成23年11月
(論文) Narinobu Juge, John A Gray, Hiroshi Omote, takaaki Miyaji, Tsuyoshi Inoue, Chiaki Hara, Hisayuki Uneyama, Robert H Edwards, Roger A Nicoll, and Yoshinori Moriyama Metabolic control of vesicular glutamate transport and release.		共著	平成22年6月
(論文) Takaaki Miyaji, Noriko Echigo, Miki Hiasa, Shigenori Senoh, Hiroshi Omote, and Yoshinori Moriyama. Identification of a vesicular aspartate transporter.		共著	平成20年8月
(論文) Keisuke Sawada, Noriko Echigo, Narinobu Juge, Takaaki Miyaji, Masato Otsuka, Hiroshi Omote, Akitsugu Yamamoto and Yoshinori Moriyama Identification of a vesicular nucleotide transporter.		共著	平成20年4月
III 学会等および社会における主な活動			
平成19年4月～平成21年3月		ファルマシアトピックス専門小委員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岡山大学	講座名	微生物医薬品開発学
職名	准教授	氏名	黒田 照夫
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成18年4月～	生物統計学において演習問題を課し、その回答内容個々について添削を行って返却した。
		平成23年11月	微生物学において中間試験の成績が芳しくない履修者に対して、面談を行った。面談を行った学生は統計学的にも有意に成績が向上した。
		平成24年7月	平成23年度後期における学生による授業評価アンケートの中で、1年次生対象の講義を受け持った教員の中でのベストティーチャーに選出された。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			薬学部FDフォーラムには毎回出席し、FDに関する諸問題について真剣に取り組んでいる。また全学のFDフォーラムである「桃太郎フォーラム」にはほぼ毎年参加している。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Matsuo, T., Hayashi, K., Morita, Y., Koterawasa, M., Ogawa, W., Mizushima, T., Tsuchiya, T., Kuroda, T. VmeAB, an RND-type multidrug efflux transporter in <i>Vibrio parahaemolyticus</i> .	共著	平成19年12月	Microbiology. 153(Pt 12):4129-37.
(論文) Matsuo, T., Chen, J., Minato, Y., Ogawa, W., Mizushima, T., Kuroda, T., Tsuchiya, T. SmdAB, a heterodimeric ABC-Type multidrug efflux pump, in <i>Serratia marcescens</i> .	共著	平成20年1月	J. Bacteriol. 190(2):648-54.
(総説) Kuroda, T., Tsuchiya, T. Multidrug efflux transporters in the MATE family.	共著	平成21年5月	Biochim. Biophys. Acta. 1794(5):763-8.
(論文) Nakamura, K., Ikeda, S., Matsuo, T., Hirata, A., Takehara, M., Hiyama, T., Kawamura, F., Kusaka, I., Tsuchiya, T., Kuroda, T., Yabe, I. Patch clamp analysis of the respiratory chain in <i>Bacillus subtilis</i> .	共著	平成23年4月	Biochim. Biophys. Acta. 1808(4):1103-7.
(論文) Ogawa, W., Onishi, M., Ni, R., Tsuchiya, T., Kuroda, T. Functional study of the novel multidrug efflux pump KexD from <i>Klebsiella pneumoniae</i> .	共著	平成24年5月	Gene 498(2):177-182.
III 学会等および社会における主な活動			
平成19年10月～現在	日本細菌学会中国四国支部評議員		
平成20年4月～平成22年3月	日本薬学会ファルマシア中国四国支部地区アドバイザー		
平成21年4月～現在	日本薬学会広報委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岡山大学	講座名	
		職名	准教授
		氏名	御船 正樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成	シャトルカードにより出席の確認と質問欄、感想欄をもうけ、毎授業ごとにそのカードを提出させている。寄せられた質問には次の授業時間に答え、講義の理解を深めるようにしている。(学生のみ評価)
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		薬学部FDフォーラムには毎回出席し、FDに関する諸問題への見識を高めた。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(著書) パートナー 「分析化学I」		共著	平成19年5月
(論文) M. i Mifune, A. Iwado, S. Kamino, S. Enomoto, Photometric determination of Cu ²⁺ ion using Octabromo-tetrakis- (4-methylpyridyl)porphine,		共著	平成24年8月
(論文) M. Mifune, A. a Iwado, M. Taniguchi, S. Kamino, S. Enomoto, Photometric Study on the reaction between 2, 3, 7, 8, 12, 13, 17, 18-Octabromo-5, 10, 15, 20-tetrakis- (4-methylpyridyl)porphine and various metal ions, Masaki Mifune		共著	平成23年5月
(論文) Y. Kitamura, K. Mori, M. Yamamoto, A. Nozaki, M. Saito, I. Tsukamoto, M. Mifune and Y. Saito: Peroxidase-like catalytic activity of aqueous- and immobilized-Mn ³⁺ -octabromo- porphyrins on ion-exchange resin supplied as mimetic of horseradish peroxidase		共著	平成20年8月
(論文) Kitamura, Y., Mifune, M., Takatsuki, T., Iwasaki, T., Kawamoto, M., Iwado, A., Chikuma, M., Saito, Y., Ion-exchange resins modified with metal-porphyrin as a catalysis for oxidation of epinephrine (adrenaline)		共著	平成20年1月
III 学会等および社会における主な活動			
平成22年4月～平成24年3月		薬学共用試験CBT実施大学責任者	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岡山大学	講座名	医薬品構造解析学
		職名	准教授
		氏名	岩藤 章正
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成18年4月～ 現在	出席カードに質問欄、感想欄をもうけ、毎授業ごとにそのカードを提出させている。毎回小テストを行い、次の授業時間に解説し、講義の理解を深めるようにしている。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成18年4月～ 現在	薬学部FDフォーラムにはほぼ出席し、FDに関する諸問題への見識を高めた。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(論文) Kitamura Y., Mifune M., Hino D., Yokotani S., Saito M., Tsukamoto I., Iwado A., and Saito Y., Peroxidase-like catalytic activity of Mn- and Fe-tetrakis(4-carboxyphenyl)porphines bound to aminopropyl-glass bead in oxidative reaction of heterocyclic amines.		共著	平成18年
(論文) Kitamura Y., Takatsuki T., Kawamoto M., Saito M., Iwado A., Tsukamoto I., Mifune M., Saito Y., Catalytic Activity of Silica Gels Bound Manganese(III)-Porphyrin on Oxidative Reaction of Adrenaline ,		共著	平成19年
(論文) Kitamura Youji, Mifune Masaki, Takatsuki Tsutomu, Iwasaki Toshinobu, Kawamoto Mayu, *Akimasa Iwado, Masahiko Chikuma, Yutaka Saito, Ion-Exchange Resins Modified with Metal-Porphyrin as a Catalysis for Oxidation of Epinephrine (Adrenaline),		共著	平成20年
(論文) Hossion, Abugafar M. L.; Otsuka, Nao; Kandahary, Rafiya K.; Tsuchiya, Tomofusa; Ogawa, Wakano; Iwado, Akimasa; Zamami, Yoshito; Sasaki, Kenji., Design, synthesis, and biological evaluation of a novel series of quercetin diacylglucosides as potent anti-MRSA and anti-VRE agents		共著	平成22年
(論文) Mifune M., Iwado A., Taniguchi M., Kamino S. and Enomoto S.; Photometric study on the Reaction between 2, 3, 7, 8, 12, 13, 17, 18-Octabromo-5, 10, 15, 20-tetrakis-(4-methylpyridyl) porphine and Various Metal Ions.		共著	平成23年
III 学会等および社会における主な活動			
		特になし	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 岡山大学	講座名 合成薬品製造学	職名 助教	氏名 西岡 弘美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成21年4月～ 現在	講義資料は穴埋めや質問形式にし、講義を集中して聞いてもらうようにしている。出席カードには当日講義した内容について出題している。また授業評価アンケートをもとに、次年度には改良を加えるようにしている。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成18年4月～ 現在	有機化学実験の全般についての注意事項や、プロトコルなどを記した教材を毎年受講生用に製本して作成している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成15年9月～ 現在	薬学部FDフォーラムには毎回出席し、FDに関する諸問題への見識を高めた。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Nishioka H., Nagura C., Abe H., Takeuchi Y., Harayama T., Biaryl Coupling Reactions of 3-Methoxy- <i>N</i> -(2-iodophenyl)- <i>N</i> -methylbenzamide and 3-Methoxycarbonyl- <i>N</i> -(2-iodophenyl)- <i>N</i> -methylbenzamide Using Palladium Reagent.	共著	平成18年6月	Heterocycles, 70, 549-555
(論文) Serban G., Shigeta Y., Nishioka H., Abe H., Takeuchi Y., Harayama T., Studies toward the Synthesis of Toddaquinoline by Intramolecular Cyclization.	共著	平成19年2月	Heterocycles, 71(7), 1623-1630.
(論文) Takeuchi Y., Ozaki S., Satoh M., Mimura K., Hara S., Abe H., Nishioka H., HARAYAMA T., Synthesis of Acinetobactin.	共著	平成22年11月	Chem. Pharm. Bull., 58(11), 1552-1553
(論文) Nishioka H., Uesugi K., Ueda N., Kondo Y., Tsuji M., Abe H., Harayama T., Hamasaki T., Baba M., Takeuchi Y., Synthesis and Anti-human Immunodeficiency Virus Activity of the Skeleton Isomers of 3 <i>H</i> , 4 <i>H</i> -Di-(<i>O</i>)-(-)-camphanoyl-(+)-khellactone.	共著	平成23年8月	Chem. Pharm. Bull., 59(8), 1075-1076.
(論文) Inoue S., Nishioka H., Abe H., Harayama T., Takeuchi Y., Synthesis of (-)-Actinonin.	共著	平成23年11月	Synthesis, (11), 1705-1710.
III 学会等および社会における主な活動			
特になし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岡山大学	講座名	医歯薬学総合研究科
		職名	助教
		氏名	日浅 未来
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成24年4月～ 現在	薬学部FDフォーラムに出席した。高校生対象のサイエンスカフェにて総社高校に向いて講演をした。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(論文) Larsson M, Sawada K, Morland G, Hiasa M, Ormel L, Moriyama Y, Gundersen V. Functional and anatomical identification of a vesicular transporter mediating neuronal ATP release.		共著	平成23年
(論文) Komatsu T, Hiasa M, Miyaji T, Kanamoto T, Matsumoto T, Otsuka M, Moriyama Y, Omote H. Characterization of the human MATE2 proton-coupled polyspecific organic cation exporter.		共著	平成23年
(論文) Iharada M, Miyaji T, Fujimoto T, Hiasa M, Anzai N, Omote H, Moriyama Y. Type 1 sodium-dependent phosphate transporter (SLC17A1 Protein) is a Cl(-)-dependent urate exporter.		共著	平成22年
(論文) Juge N, Muroyama A, Hiasa M, Omote H, Moriyama Y. Vesicular inhibitory amino acid transporter is a Cl-/gamma-aminobutyrate Co-transporter.		共著	平成21年
(論文) Miyaji T, Echigo N, Hiasa M, Senoh S, Omote H, Moriyama Y. Identification of a vesicular aspartate transporter.		共著	平成20年
発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称			
		Cereb Cortex. 22, 1203-14	
		Int. J. Biochem. Cell Biol. 43, 913-8	
		J. Biol. Chem. 285, 26107-13	
		J. Biol. Chem. 284, 35073-8	
		Proc. Natl. Acad. Sci. USA, 105, 11720-11724	
III 学会等および社会における主な活動			
特になし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 岡山大学	講座名 微生物医薬品開発学	職名 助教	氏名 小川 和加野
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成18年～	講義資料は毎年手を加え、改善を心がけている。 2011年度のある講義は試験を3回に分けることで、学期中への学生の理解状況の把握に努めた。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			薬学部FDフォーラムには毎回出席し、FDに関する諸問題への見識を高めた。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Functional study of the novel multidrug efflux pump KexD from <i>Klebsiella pneumoniae</i> .	共著	平成24年	Gene. 2012 May 1:498 (2):177-82.
Gene Cloning and Characteristics of the RND-Type Multidrug Efflux Pumps MuxABC-OpmB possessing two RND components in <i>Pseudomonas aeruginosa</i> .	共著	平成21年	Microbiology. 2009 ;155(Pt 11):3509-17.
Synergistic effect of kaempferol glycosides purified from <i>Laurus nobilis</i> and fluoroquinolones on methicillin-resistant <i>Staphylococcus aureus</i> .	共著	平成21年	Biol Pharm Bull. 2009; 32(3):489-92.
Gene cloning and characterization of EfmA, a multidrug efflux pump, from <i>Enterococcus faecium</i> .	共著	平成21年	Biol Pharm Bull. 2009; 32(3):483-8.
Anti-methicillin Resistant <i>Staphylococcus aureus</i> (MRSA) Compounds Isolated from <i>Laurus nobilis</i> .	共著	平成20年	Biol Pharm Bull. 2008; 31(9):1794-1797.
III 学会等および社会における主な活動			
平成21年	腸炎ビブリオシンポジウム事務局		
平成22年	薬学会130年会 財務委員		
平成22年～平成23年	高大連携事業派遣講師(操山高校)		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 岡山大学	講座名 臨床薬学	職名 助教	氏名 高取 真吾
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成22年4月 ～現在	シャトルカードを用いて出席状況のチェックほか、学生からの質問(回答は次回の授業時にフィードバック)、感想を聴取し、講義方法およびその内容改善に努めている。また、授業中に学生との会話を通じて、講義内容に対する理解度を確認している。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成22年4月 ～現在	全学および薬学部FDフォーラムに出席し、諸問題への知識を深めた。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Takatori S, Zamami Y, Hashikawa-Hobara N, Kawasaki H. Insulin resistance-induced hypertension and perivascular nerves—an approach to elucidate the mechanisms involved.	共著	平成24年2月	<i>Nippon Yakurigaku Zasshi.</i> 139(2): 70-74.
(論文) Zamami Y, Takatori S, Hobara N, Yabumae N, Tangsucharit P, Jin X, Hashikawa N, Kitamura Y, Sasaki K, Kawasaki H. Hyperinsulinemia induces hypertension associated with neurogenic vascular dysfunction resulting from abnormal perivascular innervations in rat mesenteric resistance arteries.	共著	平成23年11月	<i>Hypertens. Res.</i> 34(11): 1190-1196.
(論文) Kawasaki H, Takatori S, Zamami Y, Koyama T, Goda M, Hirai K, Tangsucharit P, Jin X, Hobara N, Kitamura Y. Paracrine control of mesenteric perivascular axo-axonal interaction.	共著	平成22年9月	<i>Acta. Physiol. (Oxf).</i> 203(1): 3-11.
(論文) Takatori S, Zamami Y, Yabumae N, Hanafusa N, Mio M, Egawa T, Kawasaki H. Pioglitazone opposes neurogenic vascular dysfunction associated with chronic hyperinsulinemia.	共著	平成20年4月	<i>Br. J. Pharmacol.</i> 153(7): 1388-1398.
(論文) Hobara N, Goda M, Yoshida N, Takatori S, Kitamura Y, Mio M, Kawasaki H. Angiotensin type2 receptors facilitate reinnervation of phenol-lesioned vascular calcitonin gene-related peptide-containing nerves in rat mesenteric arteries.	共著	平成19年12月	<i>Neuroscience</i> 150(3): 730-741.
III 学会等および社会における主な活動			
平成21年～現在	日本薬理学会評議員		
平成22年～現在	日本高血圧学会、日本薬学会、日本心脈管作動物質学会、日本循環薬理学会、日本杜仲研究会		
平成23年～現在	日本医療薬学会		
平成24年～現在	日本臨床薬理学会		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岡山大学	講座名	先端薬学教育研究 支援センター
職名	助教	氏名	佐藤 聡
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		講義の理解度を確保するために練習問題を解かせ、講義中に解説を行うなど講義の理解を深めるように工夫した。また、問題解説の際に重要ポイントの説明も行った。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		薬学部FDフォーラムには積極的に出席し、FDに関する諸問題への見識を高めた。また全学の教員研修会である「桃太郎フォーラム」には平成21年度開催の桃太郎フォーラムXII及び平成23年度開催の桃太郎フォーラムXIVに参加した。学外研修としては第19回薬剤師のためのワークショップ(中国・四国) in 福山に参加した。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(論文) Sato A., Hiramoto A., Uchikubo Y., Miyazaki E., Satake A., Naito T., Hiraoka O., Miyake T., Kim H.-S., Wataya Y. Gene expression profiles of necrosis and apoptosis induced by 5-fluoro-2'-deoxyuridine.		共著	平成20年7月
(論文) Sato A., Satake A., Hiramoto A., Wataya Y., Kim H.-S. Protein expression profiles of necrosis and apoptosis induced by 5-fluoro-2'-deoxyuridine in mouse cancer cells.		共著	平成22年5月
(論文) Sato A., Naito T., Hiramoto A., Goda K., Omi T., Kitade Y., Sasaki T., Matsuda A., Fukushima M., Wataya Y., Kim H.-S. Association of RNase L with a Ras GTPase-activating-like protein IQGAP1 in mediating the apoptosis of a human cancer cell-line.		共著	平成22年11月
(論文) Sato A., Hiramoto A., Morita M., Matsumoto M., Komichi Y., Nakase Y., Tanigawa N., Hiraoka O., Hiramoto K., Hayatsu H., Higaki K., Kawai S., Masuyama A., Nojima M., Wataya Y., Kim H.-S. Antimalarial Activity of Endoperoxide Compound 6-(1,2,6,7-Tetraoxaspiro[7.11]nonadec-4-yl)hexan-1-ol.		共著	平成23年9月
(論文) Sato A., Kawai S., Hiramoto A., Morita M., Tanigawa N., Nakase Y., Komichi Y., Matsumoto M., Hiraoka O., Hiramoto K., Tokuhara H., Masuyama A., Nojima M., Higaki K., Hayatsu H., Wataya Y., Kim H.-S. Antimalarial Activity of 6-(1,2,6,7-Tetraoxaspiro[7.11]nonadec-4-yl)hexan-1-ol (N-251) and Its Carboxylic Acid Derivatives.		共著	平成23年12月
III 学会等および社会における主な活動			
平成17年4月～現在	日本薬学会 一般会員		
平成20年1月～現在	日本生化学会 一般会員		
平成20年4月～現在	日本がん分子標的治療学会 一般会員		
平成21年3月～現在	日本分子生物学会 一般会員		
平成22年1月～現在	日本Cell Death学会 会員		
平成22年12月～現在	レギュラトリーサイエンス学会 若手会員		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 岡山大学	講座名 救急薬学	職名 助教	氏名 座間味 義人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			なし
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成21年4月～ 現在	薬学部FDフォーラムには毎回出席し、FDに関する諸問題への見識を高めた。また全学のFDフォーラムである「桃太郎フォーラム」には平成22年度に出席した。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) 簡易懸濁法Q&A～経管投与の新しい手技～	共著	平成19年9月	じほう (株)
(著書) 簡易懸濁法Q&A Part2-実践編	共著	平成21年10月	じほう (株)
(論文) Shingo Takatori, Yoshito Zamami, Nana Yabumae, Nobuyuki Hanafusa, Nitsunobu Mio Takashi Egawa, Pioglitazone opposes neurogenic vascular dysfunction associated with chronic hyperinsulinaemia.	共著	平成20年4月	British Journal of Pharmacology, 153: 1388-1398
(論文) Yoshito Zamami, Shingo Takatori, Kousuke Yamawaki, Satoko Miyashita, Mitsunobu Mio, Yoshihisa Kitamura, Hromu Kawasaki. Acute hyperglycemia and hyperinsulinemia enhance adrenergic vasoconstriction and decrease calcitonin gene-related peptide-containing nerve-mediated vasodilation in pithed rats	共著	平成20年3月	Hypertension Research, 31: 1033-1044
(論文) Yoshito Zamami, Shingo Takatori, Narumi Hobara, Nana Yabumae, Tangsucharit P, Xin Jin, Narumi Hashikawa, Yoshihisa Kitamura, Kenji Sasaki, Hiromu Kawasaki. Hyperinsulinemia induces hypertension associated with neurogenic vascular dysfunction resulting from abnormal perivascular innervations in rat mesenteric resistance arteries	共著	平成23年11月	Hypertension Research, 34: 1190-10196
III 学会等および社会における主な活動			
特になし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 岡山大学	講座名 薬用植物園	職名 助教	氏名 谷口 抄子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成20年4月 ～現在	受講者に学習の主体性を自覚させ、自ら考えさせるため、演習問題とレポートを毎回実施している。演習問題については次回に返却して修正すべき点等の指摘を行い学習の定着を図っている。また平成24年1月には同僚評価を受け、教示方法など良い評価を受けた。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			薬学部FDフォーラムにはほぼ毎回出席し、FDに関する知識を学んだ。また全学のFDフォーラムである「桃太郎フォーラム」には平成20年度に出席した。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(論文) M. A. A. Orabi, S. Taniguchi, S. Terabayashi, T. Hatano, Hydrolyzable tannins of tamaricaceous plants IV: Micropropagation and ellagitannin production in shoot cultures of <i>Tamarix tetrandra</i>		共著	平成23年11月
(論文) M. A. A. Orabi, S. Taniguchi, M. Yoshimura, T. Yosida, K. Kishino, H. Sakagami, T. Hatano, Hydrolyzable tannins of tamaricaceous plants. III. Hellinoyl- and macrocyclic-type ellagitannins from <i>Tamarix nilotica</i>		共著	平成22年4月
(論文) M. A. A. Orabi, S. Taniguchi, T. Hatano, Monomeric and dimeric hydrolysable tannins of <i>Tamarix nilotica</i>		共著	平成21年7月
(論文) S. Taniguchi, Y. Imayoshi, T. Yoshida, T. Hatano, A new trimeric hydrolyzable tannin, oenotherin T2, isolated from aerial parts of <i>Oenothera tetraptera</i> Cav.		共著	平成21年3月
(論文) S. Taniguchi, K. Kuroda, K. Doi, M. Tanabe, T. Shibata, T. Yoshida, T. Hatano, Dimeric flavans from gambir and their structural correlations with (+)-catechin		共著	平成20年2月
III 学会等および社会における主な活動			
		特になし	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	岡山大学	講座名	医療教育統合開発センター
職名	准教授	氏名	須野 学
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成24年4月～ 現在	臨床薬学演習ⅣにTBL(チーム基盤型学習)を取り入れ、講義を行っている。
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成24年7月1日	シンポジウム・災害医療と岡山大学の臨床薬学教育(岡山)「TBLを用いたチーム医療教育と臨床薬学教育の展開」
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成23年6月1日 ～現在	薬学部開催FDフォーラムに出席し、FDに関する諸問題への見識を高めた。また全学FDフォーラムである「桃太郎フォーラム」には平成23年度に出席した。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(論文) T. Kono, M. Satomi, M. Suno , N. Kimura, H. Yamazaki, H. Furukawa, K. Matsubara. Oxaliplatin-induced neurotoxicity involves TRPM8 in the mechanism of acute hypersensitivity to cold sensation.		共著	平成24年
(論文) K. Matsubara, M. Asari, M. Suno , T. Awaya, M. Sugawara, T. Omura, J. Yamamoto, G. Maseda, Y. Tasaki, H. Shiono, K. Shimizu. Estimation of the duration after methamphetamine injection using a pharmacokinetic model in suspects who caused fatal traffic accidents.		共著	平成24年
(論文) M. Suno , V.T. Chuang, Can levoleucovorin replace leucovorin in cancer treatment?		共著	平成24年
(論文) T. Kono, M. Satomi, N. Chisato, Y. Ebisawa, M. Suno , T. Asama, H. Karasaki, K. Matsubara. Topical Application of Hangeshashinto (TJ-14) in the Treatment of Chemotherapy-Induced Oral Mucositis.		共著	平成22年
(論文) M. Suno , T. Kunisawa, A. Yamagishi, T. Ono, J. Yamamoto, T. Yamada, Y. Tasaki, K. Shimizu, H. Iwasaki, K. Matsubara. Detection of landiolol using high-performance liquid chromatography/fluorescence: A blood esterase-sensitive ultra-short-acting β 1-receptor antagonist.		共著	平成21年
III 学会等および社会における主な活動			
		特になし	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。